

3 日ソ外交関係

173 昭和11年1月11日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

ソ連中央執行委員会における首相演説について

別電一 一月十一日発在ソ連邦大田大使より広田外務大

臣宛第二三号

右演説中対日関係部分の概要

二 一月十一日発在ソ連邦大田大使より広田外務大

臣宛第二四号

右演説中対日関係および国防関係部分の概要

モスクワ 1月11日夜発

本省 1月12日前着

第二二號

客年二月第七回「ソヴイェト」大會ノ選出セル中執委員會
ハ十日第二回會期ヲ開キタルカ同日「モロトフ」ハ本年度
國民經濟計畫ニ關ハル報告ヲ爲シ勞働生産力ノ増進及技術
的改造ニ依ル國民經濟ノ新發展(特ニ重工業、輕工業及鐵
道)國民生活ノ向上、階級ノ全廢ニ努ムヘキコトヲ力説セ

ル後國際關係ニ付別電第二三號ノ通り述ヘタリ尙會期日程
ニハ他ニ經濟計畫報告(「メジュラウク」)豫算及食料品工業
ニ關スル報告並ニ客年中ノ法規追認アリ

(別電一)

モスクワ 1月11日後発

本省 1月12日前着

第二三號

一 九三五年蘇聯外交ニ關スル「モロトフ」演説要旨

蘇聯ト列國トノ關係ハ一九三五年中大体ニ於テ正常ニ進展
セル旨ヲ述ヘタル上

(一)接壤各國ハ何レモ對蘇關係ニ於テ不安ヲ感スルコトナキ
事態ニシテ又歐洲問題ニ於ケル平和保障問題ニ付東歐
「パクト」失敗セルモ蘇佛、蘇致兩相互援助條約ノ締結
ヲ見「イーデン」來訪以來英トノ關係好轉可能トナリ米
トハ經濟方面大体可ナルモ唯同國一部二人爲的ナル反蘇
宣傳アリ尙白耳義、「ルクセンブルグ」、哥倫比亞ト國交
樹立セルモ「ウルガイ」トハ斷交セリトテ「ウルガイ」
ノ態度ニ付嘲笑ヲ加ヘ且ツ右ニ付蘇政府ハ國際聯盟ニ申

出ツル所アリシ由ヲ述ヘ

(二)特ニ對獨、對日關係ニ重點ヲ置キ大イニ獨ノ侵略宣傳ヲ
非難シ右ニ關聯シテ波蘭、芬蘭ノ一部ノ態度ヲ難シ「フ
アシズム」ヲ攻撃シ獨逸ニ於ケル矛盾狀態ヲ示サントテ
一九三五年四月九日獨政府ヨリ二億馬克、五箇年信用條
約締結ノ提議アリ右ハ現ニ順調實行中ナル處最近獨側ハ
更ニ大ナル期限十年ノ貸付問題ニ付申出ノ次第アリ
(三)吾人ハ今日格別之ヲ必要トセサルモ右ニ應諾シタル如キ
其ノ事例ナリト言ヒ續イテ對日關係並ニ國防充實問題
(別電第二四號)ニ言及シ

(三)對國際聯盟關係ニ於テ蘇聯ハ加入後モ其ノ自己本來ノ主
義ニ變化無シトテ伊「エ」紛爭ヲ捉ヘ伊國「フアシズ
ム」ノ態度ヲ論難シ蘇聯トシテハ特ニ主義上「エチオピ
ア」ノ平等權及獨立ヲ認ムルモノニテ之ニ反スル行動ニ
ハ總テ反對ニシテ以テ聯盟ニ忠實ナルコトヲ示セリトシ
今ヤ日獨ニ次キ伊モ侵略行爲ニ出テントスル國際狀態ナ
レハ蘇聯ノ責任ハ一層大ナルモノアリ左レト新タナル大
戰爭ヲ企圖スルモノハ其ノ計畫實現前自滅スルコトアリ
得ヘシ而モ敢テ蘇聯ヲ討ツモノアレハ赤軍之ヲ排撃スヘ

キヲ疑ハスト豪語シ

(四)今ヤ吾人ハ眞ニ幸福ナル生活ニ入リツツアリ帝國主義者
ニシテ尙蘇聯民ノ制壓ヲ斷念セス外國地主、資本家等ヲ
シテ之ニ當ラシメントスルモ右企圖ハ吾人ノ力薄弱ナリ
シ過去ニ於テモ實現不能ナリキ況ヤ國內安定ノ今日其ノ
不可能ハ言フヲ俟タス云々ト結ヘリ

(別電二)

モスクワ 1月11日後発

本省 1月12日前着

第二四號

往電第二三號「モロトフ」ノ演説中對日關係及國防關係ノ
部分左ノ通

蘇聯邦ノ平和愛好ト謙讓ノ精神ハ北鐵協定ノ締結ニ依リ之
ヲ表示セルカ同協定ニ基ク大小ノ支拂及物資ノ購入ハ順調
ニ進行ス蘇聯ハ其ノ他一切ノ問題ニ付日本トノ協調點ヲ見
出スニ努メタリ而モ兩國關係ノ主要問題ハ依然未解決ニ殘
サレ三年前提議シタル不侵略條約問題ニ關スル日本側ノ態
度ニ對シテハ疑ヲ挾マサルヲ得ス

他方日滿軍ニ依ル我國境侵犯ノ企圖ハ跡ヲ絶タス十月十二日ノ「ノヴォアレクセーエフカ」ニ於ケル日滿軍侵入其ノ他ノ煽動的性質ニ付テハ説明ヲ要セサル程明白ナリ日本政府ノ態度正常ナラサル他ノ一例トシテハ日、滿、蘇三國國境委員會ニ關スル蘇側協定案提出後約半歳ヲ經過セル今日猶ホ同政府力同答ヲ與ヘサルコトヲ舉クヘシ蘇聯國境侵犯事件ハ日本軍部ノ或分子ニ取り其ノ對滿、支制覇政策ヨリ世人ノ注意ヲ轉換スル爲必要ナリト稱セラレ或ハ又日本ノ政策ノ確乎性ト力ヲ國外ニ示スニ役立ツヘシト云フ者アリ議論ノ正否ハ問ハス只日本軍部カ蘇聯國境ヲ窺ヒ居ルコトハ明カナリ

近時日獨軍事協定説竝ニ之ニ波瀾ノ干與アリトノ報道現ハレタル處右ハ何等意外トスルニ足ラス日、獨共ニ行動ノ自由ヲ得ル爲適時聯盟ヲ脱退シ世上ニ最侵略的ナル國家ト認メラレ居ル所ナリ

斯⁽²⁾テ吾人ハ東西何レノ國境ニ於テモ國防ヲ強化スルノ必要ヲ感スルニ依リ之カ爲必要ナル資財ヲ見出ササルヘカラス之レ本年度豫算中國防費ノ増大ヲ必要トスル所以ニシテ吾人ハ強力ナル赤軍ヲ編成スルガ今や航空、「タンク」、科學

或ハ蘇側トシテハ日本側要望事項ノ或物ヲ權益擴張ノ如ク看做シ居ルヤモ測ラレサルモ日本側ハ斯ク認メ居ラス十二年案ノ如キモ換言セハ現狀維持案ニシテ權利ノ擴張ニアラスト述ヘタル上競賣制度ニ付日本側カ該制度ニ反對スル理由ハ是迄屢説キタル通りナルカ現行條約商議當時ニ於テハ蘇聯カ所謂「ネツプ」時代ニシテ蘇聯個人ニ對スル産業上ノ自由競争認メラレ居タル關係上該制度ノ維持モ理由アリタリ然ルニ其ノ後事態變化シ既ニ現在ニ於テハ本月十日「モロトフ」カ中執委員會ニ於ケル報告演說中ニ高唱セル如ク資本主義的分子ハ清算セラレタリ假ニ極東漁業ニ猶ホ二、三ノ個人企業アリトスルモ早晚解消セラレヘキ運命ニアリトテ「モ」ノ所言ヲ引證シ資本主義的分子ヲ清算スル以上該主義ノ化身ト認ムヘキ生産手段ノ私有ト産業上ノ自由競争トハ當然否定セラレヘク後者ニ基ク競賣制度モ亦否定セラレヘキ筋合ニシテ蘇側ハ極東漁業ノミニ該制度ノ維持ヲ主張スルハ自家撞着ナリ又實際上ヨリ言フモ競賣價格ヲ表示スル留ニ付日蘇兩國人ハ異リタル立場ニアリテ到底「フエヤー、ブレ」ヲ望ミ得ス此ノ點ニ付蘇側ハ是迄無事行ハレ來レル

兵器、其ノ他總ユル兵種ノ整備ヲ圖ラサルヘカラス又過般赤軍將校名稱ノ新制定ヲ爲セルハ幹部ノ意義ヲ強調センカ爲ニシテ斯テ赤軍ハ蘇聯ノ平和擁護國境防衛及社會主義建設ノ諸事業ニ貢獻シ得ヘシ

174

昭和11年1月15日

在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

漁業条約改訂交渉において我が方の主張する

抽選案に対してソ連側は競売制の維持を固執

について

モスクワ 1月15日前発

本省 1月15日夜着

第三二號

往電第二一號ニ關シ

十三日酒匂「カズ」會談(第十八回)ハ四時間ニ亘リタルカ

要領左ノ通

一、酒匂ヨリ前回「カズ」カ蘇側ハ日本人ノ權益ヲ擴張スル

カ如キ取極ニ同意シ難シト言ヘル點ニ付日本側ノ要望ハ現行條約ニ基キ蘇聯人ト均等ノ待遇ヲ得ントスルニアリ

故ヲ以テ今後モ行ハレサル理由ナシト反駁セラルルモ從來ハ條約ノ關係上已ムナク事態ニ應セサル變則ヲ行ヒ來リシナリ

依⁽²⁾テ條約改訂ヲ機トシ之ヲ改ムルヲ要ス蘇側ハ日本側ノ競賣排撃ヲ以テ安定問題ヲ有利ニ導カントスル策略ト看做シ居ルカ如キモ我方ノ主張ハ以上ノ如ク理論上及實際上ノ見地ニ立ツルモノナリ「モロトフ」ハ蘇聯ヲ新世界、他國ヲ舊世界ナリト豪語セルカ競賣ハ別世界ノモノヲ互ニ競争セシムルモノニ等シク何等ノ意義ヲ有セス云々ト論斷シ競賣ニ代ハルヘキ漁區取得方法トシテ客年未貴電御來示ノ案ヲ詳細ニ説明セリ

ニ、右ニ對シ「カズ」ハ酒匂⁽²⁾カ「モ」ノ演說ヲ引用セラレタルモ右ハ蘇側ヲ何等驚カスモノニアラス競賣ハ極東ニ於テ日本漁業者ニ漁區ヲ貸下クル爲ノ最適當ナル方法ナルノミナラス社會主義ヲ基調トスル蘇聯ノ政策ニモ矛盾スルモノニアラス最近蘇側ノ各企業ハ獨立採算主義(「ボズラスチヨート」)ニ依リ國營ノ如キモ政府ノ補助ヲ受ケスシテ「レンタビリティ」ヲ考ヘ夫レ以上ニ收益(「プロフィット」)ヲ舉クルコトニ努ムヘキコトナリ殊ニ「コ

「ペラテイーヴ」及「コルホーズ」ハ右趣旨ニ基キ自由販賣ヲモ許サレ居ル實狀ニシテ斯ル事態ハ日本側ニテモ研究承知ノ答ト考フ「ゴロフスコイ」ノ言ニ依ルモ各方面ノ漁業地ニ於ケル「コーペラテイーヴ」、「コルホーズ」等ハ成ルヘク有利ニシテ自己ニ都合好キ漁區ヲ選ヒテ之カ經營方申請スル爲結局競賣ノ方法ニ依リ成ルヘク多額ノ借區料ヲ支拂フモノニ貸下クルコトト爲ス外ナキニ至レル狀態ナル趣ナリ

又競賣ニ付蘇側カ國內留ニ依リ日本側カ「アコ」債券換算率ニテ算出ノ圓價ヲ考慮セル留ニ依ルコトハ從來圓滑ニ處理セラレ來レルヲ思ヘハ競賣カ不公平ナリトハ斷シ難ク要スルニ蘇側トシテハ競賣維持ヲ絕對必要ト認ム從テ本日御披露ノ案ノ如キハ蘇側從來ノ立場及其ノ權利ト全然一致セサルモノト認ムルカ故ニ日本代表者カ假令如何ナル形式ニ於テナリトモ漁區分配ニ干與スル案ナル限リ論議ノ基礎ト爲シ得ス殊ニ本日提示ヲ受ケタル案ハ新漁區ヲ日蘇間ニ折半スル結果トナルヘク到底審議ニ應シ難シト説立テタルニ依リ酒匂^{（同）}ハ之ヲ遮リ「カズ」カ論點ヲ誤レルニアラスヤトテ注意ノ上例ヲ設ケテ説明シ該案

ハ必スシモ日蘇折半ヲ意味スルモノニアラス又蘇側ノ貸下權ヲ害スルモノニアラスト説キ彼我論爭ヲ重ネタルカ結局酒匂^{（同）}ヨリ蘇側カ競賣ノ維持ヲ絕對的ノ主張ト爲スナラハ日本側ハ之カ排撃ヲ絕對的ニ主張ス

而シテ日本側ハ競賣ヲ否認スル以上之ニ代ハルヘキ案ヲ提示セル次第ナルカ抽籤ト競賣トノ差ハ前者ハ運命ニ依リ後者ハ金錢ノ高二依ルニ過キス蘇政府カ貸下者タルコトニハ變リ無シ日本側ハ金錢ニ依ルコトカ蘇聯ノ事態ニ適當セスト認メ前者ヲ主張スト説キタルニ「カス」ハ

(イ)蘇聯ノ經濟ニ於テ金錢カ重大ナル役割ヲ有スルコト勿論ナルト共ニ抽籤ノ場合ハ漁區ノ位置、狀態ノ如何ニ拘ラス一定率ニ依ル借區料ヲ得ルニ過キス此ノ點ハ抽籤案ノ一矛盾ニシテ蘇側ニ取リ不利益ナリ

(ロ)日本案第七項ニ依レハ兩國政府カ貸下ヲ受ケタル後夫々自國企業ニ配分貸下クルコトトナルカ如ク右ハ到底蘇側ニテ應シ難シ更ニ

ト述ヘタルニ依リ酒匂^{（同）}ハ右(イ)ニ付他ノ漁區ニ對スル借區料ニ準スルコト一案ナリ(ロ)ニ付テハ蘇側カ強ヒテ反對ナラハ當業者代表カ夫々自國企業ヲ代表スルコトト爲シテモ可ナリ(イ)ニ付テハ現有漁區ヲ一九四八年迄借受ケントスル關係上日本側トシテ借受新漁區ノ將來ニ對スル危險ヲ負擔スルコト已ムヲ得スト認メ居レリト答ヘ次テ懇談ニ入レルカ右ニ付テハ次回分ト併セ報告ス

175

昭和11年1月16日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

北樺太鋳業会社經營の石炭鉱山における労働規則違反を報じたイズヴェスチャ記事について

モスクワ 1月16日後発
本省 1月17日前着

第三八號

十六日「イズベスチャ」ハ「日本石炭利權會社ノ労働規則違反」ナル見出しノ下ニ亞港發左ノ「タス」電ヲ掲載セリ會社側ハ左記ノ如キ法規違反ヲ敢テシ居レルカ若シ鑛山署再三ノ警告ニモ拘ラス猶ホ違反事故ヲ繰返スニ於テハ労働

者ノ生命保護ノ立場ヨリ法ノ命スル適當ナル措置ヲ講セサルヲ得サルヘク其ノ結果坑區(最モ危險ナルハ第六坑)ノ閉鎖ヲ命スルニ至ルコトアルヘシ

一、第六坑ノ坑道、人道ノ高サ一米四〇乃至一米五〇ニテ(鑛山署ノ主張ハ一米七五)「トラツク」道狹ク且ツ避難所無ケレハ労働者ハ石炭ヲ滿載セル「トラツク」ニ依リ轢殺セラルル惧アリ

二、第六坑及其ノ地下「ダイナマイト」倉庫ハ不完全且ツ危險ナル狀態ニアルニ加ヘ爆發物取扱規則ヲ遵守セサル爲三日爆發事故ヲ見ルニ至レリ

三、第三坑、第六坑及其ノ他ニテハ鑛業規則ヲ無視セル爲十二月七日、十五日、二十一日坑道ノ崩壞ヲ見タリ

亞港へ轉電セリ

176

昭和11年1月21日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

漁業条約改訂交渉において競売制問題ならびにルーブル換算率問題および日ソ両國人の均等待遇問題に関し応酬について

第五五號

モスクワ 1月21日夜発
本省 1月22日前着

往電第四一號ニ關シ

二十日酒匂「カズ」會談(第二十回)大要左ノ通

一、酒匂ヨリ抽籤案ニ依レハ(イ)國營保留高制限問題ノミナラ
ス從來紛議ノ原因タリシ「コンファア」ノ解釋問題モ解
消スヘシ(ロ)地方農漁民ノ漁區取得ニ對スル複雑ナル規定
(議定書甲第十九條)ハ不要ナルヘク蘇側ハ之ヲ以テ彼
等ノ特典喪失ノ如ク説クモ元來該規定ハ彼等ノ經濟力貧
弱ニシテ競賣ニ參加ノ能力ナシトノ前提ノ下ニ經濟價值
ノ少キ漁區ニ限り無競賣貸下ヲ認メタルモノナリトテ該
規定ノ由來ヲ述ヘ日本案ハ國營及地方農漁民問題ニ對ス
ル讓歩ナリト説キ更ニ實際上ニ於テモ日蘇當業者ハ成ル
ヘク其ノ希望漁區ヲ取得セントスル考慮ヨリ抽籤前後ニ
互ニ協定方努力スヘキニ依リ共存共榮ノ案ト云フヘク又
日蘇當業者ハ其ノ經濟機構ノ性質上經營希望漁區ヲ異ニ
スルモノアルヘキハ見安キ道理ナリ殊ニ發表漁區全部ニ
對シ日本側カ經營方申請スルコトアルヘシト云フカ如キ

三、換算率問題ニ付「カズ」ハ目下尙財政當局ト共ニ慎重審

議中ナリト答ヘタルニ依リ酒匂ハ該問題ニ付テハ曩ニ詳
論セル通り蘇側幣制ノ實際ヲ攻究スレハ現行「アコ」債
券制度ヲ維持スルノ外ナシトノ結論ニ到達スル處蘇側モ
必然同様ノ結論ニ至ルヘキヲ確信スト告ケ置ケリ

四、日蘇人ノ均等待遇問題ニ付「カズ」ハ日本側ノ主張ハ解
釋ヲ明確ニナラシムル範圍ヲ越ヘ蘇側ノ權利ヲ縮少セン
トスルモノニシテ國際條約ニ於ケル國民待遇ノ解釋ヲ逸
脱ス

即チ國民待遇ノ規定アレハトテ右待遇ヲ受クル外國人カ
經營セス又ハ經營困難ナル業務ハ自國人モ之ヲ經營スル
ヲ得スト云フカ如キ亂暴ナル解釋ハ未タ曾テ耳ニシタル
コトナシトテ日本側ノ再考ヲ求メタルニ依リ酒匂ハ右ニ
付テハ過日懇談ノ際ニモ述ヘタル通り例ヘハ蘇側ニ於テ
昆布採取ヲ營ムトセハ日本側ニモ同様ノ權利ヲ與フヘキ
筈ナリトノ趣旨ニ出テタルモノナルカ蘇側トシテハ如何
ニシ度キ意見ナリヤト反問セルニ「カズ」ハ條約第十四
條ノ規定ニテ充分明瞭ナリト考ヘ居ル旨答ヘ右ハ岸地利
用漁業トモ關聯アルヤニ認メラルル處該問題ニ對シテハ

ハ營利ヲ直接ノ目的トスル日本企業ノ性質ヲ沒却セル推
論ニ過キスト爲シ日本案ニ依ル場合蘇側ノ評スル如ク必
スシモ漁區折半ノ結果トナラサル所以ヲ説キタリ

三、⁽²⁾「カズ」ハ凡ソ交渉ヲ成立セシメントセハ廣田大臣カ
「ス」大使ニ述ヘラレタル通り互讓妥協セサルヘカラス
然ルニ日本側カ今日ニ至ルモ猶ホ原案ノミヲ固持シテ何
等妥協ノ態度ヲ示ササルハ甚タ遺憾至極ニシテ果シテ改
訂期迄ニ交渉ヲ成立セシメントスル意アルヤ否ヤラスラ
疑ハサルヲ得ス抽籤案ノ如キモ日本側ノ原案ニ附隨スル
モノニテ何等新ラシキ提案ニアラス蘇側ハ競賣制度ヲ以
テ最適當ト認ムルノミナラス抽籤ニ付テハ既ニ指摘セル
通り蘇側ノ容認シ難キ諸點アルニ依リ到底之ヲ受諾シ得
スト述ヘタルニ依リ酒匂ハ妥協ト言フモ事柄ニ依ル次第
ナルカ日本側ハ理論上及實際上ノ見地ヨリ競賣制度ヲ排
撃スル理由ヲ有ス依テ之ニ代フルニ抽籤案ヲ提唱スルモ
ノナルカ右ニ對シ蘇側ニ於テ受諾シ得スト斷言スルニ於
テハ交渉ハ此ノ一點ノミニ依リテモ成立セサルヘシト言
ヘルニ

⁽³⁾「カズ」ハ夫程迄悲觀スルニ及ハサルヘシト酬ヒタリ

未タ日本側ヨリ具体的ノ提案モナク有賀氏ノ如キモ「ゴ
ロフスコイ」ニ對シ格別ノ希望ヲ申出テラレサリシ模様
ニテ蘇側トシテ審議ノ方法ナキモ過日懇談ノ際述ヘタル
通り將來日本側ヨリ是迄經營以外ノ漁業ニ付申請アリタ
ルトキハ外交交渉ニ依リ右申請ニ對スル處置ヲ協定スル
コトト爲スカ如キ一案ト認ムルニ付此ノ點モ考慮セラレ
度シト述ヘタルニ依リ酒匂ハ實ハ岸地漁業ニ關スル具体
案ハ未タ政府ヨリ接到シ居ラサルニ依リ催促スヘシト答
ヘ置ケリ

177

昭和11年1月23日 在アレクサンドロフスク緒方(整肅)總
領事より 広田外務大臣宛(電報)

北樺太鋳業会社に関するイズヴェスチヤ記事
に對し記事取消要求等はせず慎重に對処する
との方針について

アレクサンドロフスク 1月23日前発
本省 1月23日夜着

⁽¹⁾第四號
露發閣下宛電報第三八號及第四四號ニ關シ

當館ニハ全然報告ナカリシヲ以テ十九日村山所長ニ右電報ヲ示スト共ニ斯ル事實ノ有無ヲ確メタル處右ニ對シ二十二日辯明書ヲ提出セリ

内「イズヴェスチャ」記事ニ對スル分大要左ノ如シ

一第六坑ノ坑道ハ切上工事ノ必要ヲ認メサリシモ鑛山署ノ要求ニ依リ目下天井ヲ通シ作業中ニテ全長三百米ノ内四十米ヲ剩スノミ右ハ一月十五日迄ニ完成ノ約束ナリシモ多少遲延セリ本坑道ハ手押運般坑道ニシテ労働者轢殺等ノ危険絶對ニナシ尙人道ノ高サハ保安規則ニ依レハ一米四十以上ト規定サレ居リ各坑道トモ右以下ノ所ナシ
ニ一月三日爆發セルハ坑外ノ「ダイナマイト」小出シ暖メ室ニシテ爆發量ハ百二十三疋ニテ原因不明ナルモ多分惡漢ノ仕業カト思ハル右暖メ室ハ曩ニ労働監督ノ認可セル設計ニ基キ建設セルモノナリ該爆發ニ依リ十米平方ノ暖メ室ヲ爆破セシノミニテ人畜並ニ他建物ニ被害ナシ
三坑内拂跡ノ崩落ハ普通ノコトナルヲ以テ豫テ不祥事防止ノ爲必要ノ手段ヲ講シ居レリ尙第六坑ニハ崩落ノ事實ナシ

四、次二十七日ノ記事ハ事實ヲ誇張セルモノニテ第八坑道ノ

北樺太鉱業会社に対して至急危険地区の作業を一時停止し危険防止措置を講じるよう申入れ方外務人民委員代理要請について

モスクワ 1月24日前發

本省 1月24日後着

第五八號

往電第五七號往訪ノ際「ストモニヤコフ」ハ土威炭坑ノ經營狀態ハ労働者ノ生命ニモ危険ヲ及ホス惧アリ現地官憲ニテハ少クトモ最不良ナル第三坑ノ閉鎖ヲ命スヘシトノ意嚮アリ外務部其ノ他中央ニ於テ暫ク強硬手段ニ出ツルコトヲ差止メ居ル有様ニシテ若シ會社側ニテ危険地區ノ作業ヲ一時停止シ危険防止ノ措置ヲ講セサルニ於テハ労働組合側ノ壓迫モアリ現地及中央ノ態度硬化シ強制手段ヲ執ルノ已ム無キニ至ルヤモ測ラレサルニ依リ適當處置スル様大至急關係筋ニ傳達アリ度シト述ヘタルニ依リ本使ハ外務部ノ斡旋ヲ謝シタル上實ハ當方ヨリモ本件ニ關シ電報セル次第アリ會社側ニ於テモ既ニ適宜措置シ居ルカト存ス尤モ現地ノ實狀判明セサル爲直ニ作業ノ停止ヲ爲シ得ルヤ否ヤ知り得サルモ御申出ノ趣旨ハ直ニ電報スヘシト答ヘタル處先方ハ少

拂ヒ(溶岩ニアラス)ノ崩落トアルモ右ハ拂跡ノ崩落ニシテ崩落セシムルコトコソ作業上安全ナリ云々

云依テ會社トシテハ今回ノ新聞記事ハ事實ヲ甚シク誇示乃至曲歪セルモノニテ不都合ナレハ此ノ際之カ取消ヲ要求スルト共ニ現任鑛山署長及労働監督兩者ノ更迭ヲ中央ニ訴願シ度キ旨ヲ主張シ居レリ

前記第三項中ニ人畜竝ニ建物ニ被害ナシトアルモ本官ノ村山ヨリ直接聴取セル所ニ依レハ露人家屋ノ窓硝子約四十枚ヲ破碎シ輕傷者一名ヲ出セル趣ナリ要スルニ前記村山ノ辯明ハ稍我田引水ノ嫌アルノミナラス又本官ノ聞知セル點ト多少相違ノ點モアルニ付此ノ際輕率ニ前記、記事ノ取消乃至鑛山署長等ノ更迭ヲ要求スルカ如キハ早計タルヲ免レス且之カ爲逆振ヲ喰ハセラルルカ如キコトアリテハ却テ會社ノ爲不利益ヲ招ク惧モアルニ付篤ト研究ノ上善處セシムル考ナリ委細郵報露ヘ轉電セリ

178

昭和11年1月24日

在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

クトモ第三坑ヲ直ニ閉鎖シ補強工事ヲ爲スコト緊要ナリト繰返シ居タリ
亞港ヘ轉電セリ

179

昭和11年1月27日

在アレクサンドロフスク緒方總領事より
広田外務大臣宛

北樺太鉱業会社に関するイズヴェスチャ報道は事實無根とは言えないためソ連側との論争は見合せ同社を善導してゆく方針について

本機密第八號

(2月17日接受)

昭和十一年一月二十七日

在亞港

總領事 緒方 整肅(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

土威炭坑ニ關スルタス通信ニ關シ卑見開陳ノ件
本件イズヴェスチャ紙掲載タス通信ニ關シテハ不敢取電報致置タル通り本官ハ先ツ大田大使來電ニ基キ土威鑛業所長ニ對シ本月十九日別添甲號寫ノ通申送り置キタル處之ニ對シ同所長ヨリ二十二日別添乙號寫ノ通り辯明書ヲ提出セリ

抑々今回「ソ」側カ異例ノ手段ニ訴ヘ中央新聞紙上ニ抜打
 のニ我カ利權經營ニ關スル暴露の記事ヲ發表セルハ「ソ」
 側一流ノ卑劣ナル常套手段ナルコトハ固ヨリ言フ迄モナキ
 コトナカラ同時ニ「ソ」側ヲシテ此ノ舉ニ出スルニ至ラシ
 メタル導因ニ就テハ會社側ニ於テモ亦一應冷靜ニ反省ヲ要
 スル點渺ナカラサルモノアリト思考セラル

右ニ就キ本官ノ豫テ内聞セル所ニ依レハ村山所長ハ兎角自
 負心強く感情的且ツ非協調的態度ニ流レ易キタメ從來屢々
 現地監督官ノ合法的命令又ハ常識の注意ニ對シテスラ自己
 一流ノ偏頗ナル主張ヲ以テ應酬シ之ヲ履行セサリシコト一
 再ナラサル模様ニテ自然「ソ」側トノ間ニ感情ノ硬化ヲ來
 シ偶々今回比較的重大ナル二、三ノ事件續出スルニ及ンテ
 遂ニ斯ル事態ヲ惹起スルニ至レルモノ、如シ

現ニ同所長ノ前記辯明書ニ見ルニ今回ノイズウエスチヤ報
 道ニ關シテハ我方ニハ殆ト落度ナキモノ、如ク主張シ居ル
 ノミナラス却テ逆襲的態度ヲ以テ悉ク先方ノ非ヲ高調シ剩
 ヘ鑛山署長、労働監督官等ノ更迭ヲ要求シ居レリ、而モ駁
 論ノ根據又ハ要求ノ理由トシテ擧クル所ノ具体的事實ハ斯
 ル重大ステツプヲ取ラントスル上ニハ極メテ薄弱不十分ナ

逆捻^(捩)チヲ喰ハセラル、カ如キコト、モナラハ今後事毎ニ報
 復の手段ニ出テラル、虞アリ然ラハ即チ將來會社ノ蒙ルヘ
 キ不利不便ハ更ニ一層倍加スルニ至ルヘク就テハ今一應熟
 考ノ上意見同示アリ度シト注意スルト共ニ偶々大田大使ヨ
 リ土威第三坑閉鎖問題ニ關スル來電ノ次第モアリタルニ付
 之亦同時ニ傳達シ實狀報告書面ヲ以テ依頼シ置キタリ
 然ルニ二十六日村山署長^(所)ハ當市ニ出張ノ序ヲ以テ本官ヲ來
 訪シ大体前記辯明書ノ趣旨ヲ繰返シ且ツ「兩監督官ハ年齢
 若ク、故意ニ會社ヲ苦シメテ自己ノ手柄ヲ立テントス
 云々」ト述ヘ一、二ノ事例ヲ以テ説明セル外第三坑ノ狀態
 ニ關スル材料トシテ別添丙號寫ヲ提出セリ所長ノ所説及文
 書材料ハ何レモ概ネ抽象的言辭多ク結局本官ノ期待セル如
 キ具體的根據ヲ得ルニ至ラス本官トシテハ本件ノ地方的調
 節ニ着手スルノ手掛リヲ擱ミ得サリシ次第ナリ、仍テ本官
 ハ屈辱的服從ハ勿論不可ナルモ成ルヘクナラハ「ソ」側ト
 ノ間ニ協調的ニ事ヲ進ムルコト會社ノ立場上得策ナリ、之
 カ爲メニハ單ニ事務上ノ會見ノミニ限ラス機會ヲ利用シテ
 前記兩監督官ノ外州執行委員會長、外務代表其他ヲ交ヘタ
 ル會合ヲ催フシ私的懇談ヲ交フルコト等モ亦一ノ方法ナ

ルモノニテ到底「ソ」側ト抗爭シテ勝ヲ制スル見込ナキモ
 ノト云ハサルヘカラス、況ンヤ先方ニ於テハ相當主張シ得
 ヘキ根據ヲ有スルニ於テ乎

例ヘハ辯明書前段ノ兩監督官ニ對スル批難ハ徒ラニ感情又
 ハ獨斷ニ流レ居リ又ダイナマイト小出庫ノ爆發原因ニ關ス
 ル駁論中當地執行委員會建物ノ火災云々ヲ引用シ居レルモ
 右火災ノ原因ハ果シテ放火ナリヤ將又失火ナリヤ今ニ不明
 ニシテ放火説ハ單ニ巷間ノ流説ノミスル假想ニ立脚セル議
 論ハ「ソ」側ニ對シ通用セサルノミナラス却テ反對ニ突込
 マルル結果トナルハ明カナリ

即チ村山所長ノ所謂「非協調的態度」ナルモノハ何レノ側
 ニ在リヤ辯明書自ラ此ノ間ノ事情ヲ雄辯ニ物語リ居レリ
 然レトモ本官ハ利權擁護ノ立場ヨリ我方ニ有利ナル事態轉
 回ヲ期圖^(圖)シ、既電ノ如ク同所長ノ申立ニ付テハ熟慮研究ノ
 上出來得ル限り之カ貫徹ヲ計ラントシ二十三日更ニ同所長
 ニ對シ前記イズウエスチヤ記事ノ訂正又ハ取消要求ハ其發
 信地タル當地ニ於テ工作ヲ起スヲ順序トスヘク之カ爲メニ
 ハ今少シク具體的事實ヲ材料トシテ提示アリタク且ツ兩監
 督官ノ更迭要求ハ相當重大事ニシテ萬一「ソ」側ヨリ

リ、然ルトキハ彼我ノ確執セル感情モ漸次自ラ融和スルニ
 至ルヘシ、本官モ亦此機會ヲ作ルニ吝ナラサル旨ヲ述ヘ別
 レタリ

本件今日迄ノ經緯ハ右ノ如クイズウエスチヤ紙報道ニ關ス
 ル限り「ソ」側ニモ責ムヘキ點アリト雖モ去リトテ全然無
 根ノ事實ニモアラサルヲ以テ之カ取消等ニ付今更改メテ
 「ソ」側ト論爭スルハ前述ノ理由ニ依リ實質上效果ナキノ
 ミナラス之ヲ當方ヨリ執拗ニ追窮セハ却テ毛ヲ吹イテ傷ヲ
 求ムル結果トナランモ計リ難シト思考ス

第三坑閉鎖問題ニ關シテハ差當リ現地ニ於テ急迫セル氣配
 ナキモ今後必要ニ應シ善處セシムルコト、致ス考ナリ
 次ニ本件ニ關聯シテ考慮ヲ要スヘキハ目下會社ト「ソ」側
 ノ間ニ於テ本年度炭坑作業用ダイナマイト買入(モスコ
 ヨリ)問題、日本人労働者入露問題、物資輸入問題及之カ
 配給値段決定問題等毎年相當ノ紛糾ヲ見ル幾多問題ヲ控ヘ
 居ル事ニシテ見方ニ依レハ今回ノ事件ハ序曲ニ過キス問題
 ハ今後ニ在リ、從テ會社側トシテハ最モ慎重ニ事ニ當ルヘ
 キ時機ニ在リ

村山所長ハ「若シ我方ニシテ一ヲ讓ラハ前例トナリ「ソ」

側ハ益々増長シ遂ニ企業經營ハ不能ニ陥ルヘシ」トノ見解ノ下ニ敢テ強硬ノ態度ヲ持シ居ル旨述ヘ居レルモ、斯ル態度モ契約ノ條文、法規等ノ許ス範圍内ノコトニテ若シ徒ラニ現地官憲ノ感情ヲ刺戟スルニ於テハ結局自殺的行爲ニ終ランノミ、加フルニ日「ソ」間ノ空氣緊張ニ件ヒ「ソ」側ニ於テ政策的ニ利權奇メノ舉ニ出ルカ如キ事態トモナラハ先方ハ專ラ法規ヲ唯一ノ楯トシテ固持スヘク其ノ際ニハ別紙丁號(暗送)ニ述ヘアル村山氏ノ「假令合法的命令ト雖モ云々」ノ態度ハ却テ先方ヲシテ乘セシムル因ヲナスヘク此點憂慮ニ堪ヘサル所ナリ

要スルニ現所長ノ方針、態度ハ「ソ」側ニ對シテノミナラス内輪ノ當館ニ對シテモ當然報告スヘキ事柄スラ秘密主義ヲ固持シ前記當面ノ諸問題ニ就テモ當館ノ要求ニ對シ勉メテ回避シ居ル實情ニシテ遺憾ノ點少ナカラサルモノアルコトヲ指摘セサルヘカラス(別紙甲號後段參照)

本官ハ飽迄我カ權益擁護ノ立場ヨリ此上トモ村山所長トノ聯契ヲ計リ現地經營方針ノ善導ニ邁進スヘキ所存ナルモ事情一應報告申進ス

本信寫送付先

尙ホ本文ノ如キ事件カ實際發生シタリトセハ其間相當ノ時日アリ且ツ殆ント毎日ノ如ク貴地當地間ニ幸便アリタルニ拘ハラス何等御報告ニ接セサリシハ洵ニ遺憾ニ堪ヘス而モ足許ノ管轄領事館ニ於テ全然之ヲ知悉セスシテ却テ遠隔ノ莫斯科大使館ヨリ之カ通知ヲ受クルカ如キハ外部ニ對シ恰モ當館ガ情眼ヲ貪リ居ルカ如キ感觸ヲ懷カシメ甚タ面白カラサル次第ニ付今後ハ豫テ申進メ置タル通り一般ニ對ソ交涉事項其他貴企業經營上ノ内部關係外ニ屬スル重要事項ハ其都度漏レナク管轄官廳タル當館ニ御報告相成様致度右爲念申進ス

(別紙乙號)

樺外第二號

昭和十一年一月二十一日

在亞港

總領事 緒方 整肅殿

土威企業ニ關スルイズウエスチヤ記事ニ係ル件

拜復首題ノ件ニ關スル貴翰正ニ拜誦仕候

當企業ニ關スルイズウエスチヤ紙ノ記事ハ事實ノ甚敷誇張

在「ソ」聯邦 大田大使
在オハ 村瀬分館主任

(別紙甲號)

鑛機密第一號

昭和十一年一月十九日

在亞港

總領事 緒方 整肅

北樺太鑛業株式會社鑛業所

鑛業所長 村山 鹿之介殿

土威企業ニ關スルイズウエスチヤ紙記事ニ關スル件今般在莫斯科大田大使ヨリ本官宛別紙寫^(見当ラフ)ノ通り來電アリタル處右ニ關シ當館ニ於テハ未タ何等承知シ居ラサルヲ以テ右ハ時節柄或ハソ側ニ於テ何等爲ニセントスル魂膽ノ下ニ爲サレタル捏造又ハ誇張的報道ニアラスヤトモ存スルモ、本官トシテハ若シ多少トモ斯ル事實アリタリトセハ我權益擁護ノ見地ヨリ之ヲ等閑ニ附シ去ル譯ニ參ラス、何レニスルモ一應眞相取調ノ上回報ノ必要有之ニ付乍御手數斯ル事實ノ有無並若シ事實トセハ至急詳細御回報相成度シ

乃至ハ歪曲ニシテ當方トシテハ記事^(見当ラフ)中ノダイナマイト倉庫爆發ノ件ノ如キモ東京本店ニ對シテサハ報告ノ必要ヲ認メサリシ程度ノ些細事ニ有之候ニ付テハ左様御諒承賜度候本件ノ實狀並ニ之ニ關聯シテノ會社希望左ニ記述致候ニ付テハ可然御取計被成下度此段御願迄得貴意候 謹言

北樺太鑛業株式會社鑛業所長

村山 鹿之介

記

一月十六日及一月十七日ノイズウエスチヤ紙ノ記事ハ鑛山署長アンゼレウイチ及勞働監督フエリドマンヨリ出テタルコト疑ナキ處ニシテ兩者ハ最近ノ日蘇關係ノ惡化ニ刺戟サレタルモノカ事毎ニ會社ニ敵意ヲ有スルカノ如ニ見受ケラレ其ノ無理解ト杓子定規トハ北京條約ニ保障サレタル吾利權企業ノ順當ナル進行ヲ阻害スルコト至大ナリ

問題ノ鑛業法乃至鑛業保安規則ナルモノハ條件千差萬別ナル各鑛山ニ一律ニ適用ナシ得ヘキモノニ非スシテ個々ノ特有條件ニ應シテ之等ノ規則ニ伸縮性ヲ與フルコトコソ監督官トシテノ當然ノ職務ナリト思考ス

然ルニ兩者ハ土威炭坑ノ特殊條件並ニ經濟的、技術的見地

ヲ無視シタル極端ナル要求ヲ提示シ甚敷ハ拂切羽ノ閉鎖ヲサヘ命スルコトアリ、會社ハ承服ナシ得サル命令ニ對シテハ其ノ都度之ヲ反駁シ反省ヲ促スト雖モ效果更ニナシ今回ノ二回ニ亘ルイズウエスチヤ紙記事並ニアンゼレウイチカ鑛山署長就任當時前署長レオンガルトハ會社ニ種々便益ヲ與ヘタル爲(レ)オンガルトハ殊更ニ會社ニ種々便益ヲシノミナリ)投獄ノ憂目ヲ見タリ自分ハ法規ヲ嚴守シテ一步モ假借セサルヘシト敢テ口外シタル事ハ前陳ノ事實ヲ無條件ニ裏書スルモノト云ハサルヘカラス

サレハ此際會社トシテハイズウエスチヤ紙ノ記事取消ヲ要求スルト共ニ徒ラニ平地ニ波瀾ヲ起シ殊更ニ紛争ノ種子ヲ蒔キタル事實ト兩氏ノ監督下ニアリテハ企業ノ順當ナル作業ヲ期待シ得サル現狀ヨリシテ兩者ノ更迭ヲ中央ニ訴願シタシ

左ニイズウエスチヤ紙記事ニ關シ箇條的ニ述フレハ

一月十六日記事

「第六坑ノ運搬坑道ハ當方トシテハ坑道切上ケ工事ノ必要ヲ認メサリシモ鑛山署ノ要求ヲ容レ目下極力天盤ヲ落シ

ノ最大量ヲ超エタルコトナシ而シテ係主任ハ毎日一同溫メ室ノ内外ヲ検査シベチカハ昨秋根本的ノ改築ヲ爲シ以來定期的ニ嚴査ヲ爲シ來レリ、溫メ室ノ溫度亦指定溫度以上ニ上昇ノ虞レ絶對ニ無ク殊ニ當日朝方ノ番人ハ服務規定ニヨリ各三十分毎ニ正確ニ巡回時計ニヨル故巡回時間ノ繰合セ許サレシ散在ノダイナマイト倉庫及雷管倉庫ヲ巡視セシヲ以テベチカ中ニ堆積セシ灰殻ノ掃除並ニ焚付ハ巡視ノ合間ニナセシタメ之ニ一時間餘ヲ費ヤシタリ、焚付直後ノ定時巡回ヲ終リ該ベチカラ窺キタル處漸ク燃エ付キ始メタルニヨリ番人ハ四〇米離レタル番人小屋ニ引返シタリ同人カ小屋ニ入レルト同時ニ轟然爆發セシ事實(ベ)チカノ燃エ付始メニ異狀ノ高溫度トナルコト有リ得ス)並ニダイナマイトカ變質シ居ラサリシニヨリ會社トシテ考慮シ得ヘキ唯一ノ原因ハ最近土威ニ暴漢増加シ日本人管理部長ニ集團的暴行ヲ加フル等ノ不詳事件頻出シ會社ハ嚴重ニ之等暴漢ノ即刻土威退去ヲ官憲ニ要求シ來レルモ官憲ハ只遺憾ノ意ヲ表スルノミニテ即時實行セス或者ハ依然土威ニ留マリ復職ヲ強要シタル事サヘアリ昨秋十一月六日亞港執行委員會建物ニ放火之ヲ全

坑道ヲ高メツ、アリ現在ハ全長三〇〇米中僅カニ四〇米ヲ餘スノミ右ハ一月十五日迄ニ完了ヲ約セシモノニシテ單ニ數日遅延セルニ過キス而シテ問題ノ坑道ハ手押シ運搬坑道ニシテ労働者斃殺等ノ危險絶對ニ有ルコトナシ運搬坑道ヲ一米七〇迄高ムルコトヲ會社カ承諾セルハ恒久的運搬坑道ニ限リタリ

尙人道ノ高サハ保安規則ニテ一米四〇以上ト規定サレ居リ土威各坑共一米四〇以下ノ所ナシ

三、坑内火藥小出庫(記事ニハ地下ダイナマイト倉庫トアリ最大格納量三〇疋)ハ前任労働監督及鑛山署長ノ認可セルモノナリ勞監又ハ鑛長ノ更迭毎ニ諸設備ノ變更ヲ命セラル、ハ會社ノ堪エ得サル處ニシテ命令中ニハ今後數ヶ月ヲ出テスシテ廢坑トナリ不用トナル倉庫サヘアリ、然ルニ會社ハ新鑛山署長ノ要求ノ大部分ヲ容レ或ルモノハ目下改築中ナリ一月三日午前十時三十分ニ爆發シタルハ坑外ノダイナマイト小出シ溫メ室ニシテ爆發量ハ僅カニ一二三疋ニ過キス其ノ原因全然不明ナリ

該溫メ室ハ一九二九年ニ労働監督ノ認可シタル設計ニ基キ建設シタルモノニシテ該室内ニ收容セシ量ハ保安規則

(欄外記入一)

燒セシメタル事件ヲ考フルトキ之等ノ暴漢又ハ何等カ事ヲ起サントスル族カ番人ノ他場所見廻リ中ニ雷管付火藥ヲベチカニ投入セルカ或ハ右炭中ニ之ヲ混入サセ番人ハ之ヲ知ラスシテベチカニ石炭ト共ニ投入込ミ其ノ爆發ニ因リ溫メ室内收容ノ爆藥カ殉爆ヲ起セシニ非サルカ

最近土威ニ於テ此ノ噂ヲ仄聞セリ

今般蘇側ヨリ問題ヲ惹起セシニ付寧ロ此點徹底的ニ抗議ノ要アリト思ハル

因ニ右溫メ室ハ何等カノ理由ニ因リ爆發スルトモ他ニ被害ヲ及ホササル様部落ヨリ一定間隔ヲ經テ建設サレタルモノニシテ今回ノ爆發ニヨリテハ只一〇平方米ノ溫メ室ヲ爆發セシノミニテ人畜並ニ他建物ニ被害ナシ

斯ク爆發ノ原因不明ナルニ不拘之ヲ會社ノ爆發物取扱規則違反ニ歸セシメ問題化スルカ如キハ實ニ言語同斷ナリ

三、坑内拂跡ノ崩落ハ盤壓減少ノ目的ヨリ故意ニ之ヲ落ス場合サヘアルモノニシテ然ラサル場合ト雖モ天盤ノ落下ハ普通事ニ屬シ之ヲ豫知シテ不詳事ノ發生ヲ未然ニ防クコト技術家ノ責任ナリ

尙於六坑崩落事件全然ナシ

(欄外記入二)

十七日記事

該記事ハ徒ラニ煽動的ニシテ事實ヲ誇張スルコト甚タシ
新聞ニハ八片坑道ノ拂^(坑カ)（熔岩トアルモ拂ノコトナリ）崩落
トアルモコハ拂跡ノ崩落ニシテ崩落セシムルコト作業上
寧ろ安全ナルモノナリ

現地労働者等ハ却ツテ労働監督ノ拂切羽ノ作業閉鎖命令
ヲ不思議カリ居ル状態ニシテ全然問題ト爲シ居ラサルモ
ノナリ
以上

（欄外記入一）

二度ノ爆音トナラズヤ

（欄外記入二）

「ソ」側ノ主張如何

（別紙丙號）

昭和十一年一月二十六日受

三坑ニ就テ

村山

三坑ハ廢坑間際ニシテ上層及周圍ノ採掘ヲ終リ目下少部分

（別紙丁號）

土威鑛業所発本社宛電報（二月二十七日）

當方トシテハ總ユル問題ヲ地方的ニ円滿解決シ度ク耐工難
キヲ忍ビ總ユル努力ヲ傾倒シ居レ共現在ノ鑛山署長殊ニ勞
働監督官ハ事毎ニ非協調的ニシテ故意ニ會社ヲ苦シメ自己
ノ業績ヲ舉ケントスル形跡アリ最近ノ一例ヲ舉クレハ一九
三五年以前ノ輸入品残品ノ當時ノ認可値ニ依ル配給ヲ禁止
シ剩ヘ之ヲ販賣シタリトテ用度主任ニ罰金ヲ科セリ會社カ
鑛山署長又ハ労働監督ノ命令ヲ假令合法的ニセヨ一承諾
シ労働法、團體契約、保安規則ヲ文字通り嚴守スルニアリ
テハ企業ノ營利的經營ハ到底覺束ナク日常ノ些細ナル問題
ニ對スル監督官ノ非友好的態度コソ會社事業ノ阻害ト成ル
ナリ當方ニテ両者監督下ニ円滿ナル事業遂行ノ困難ヲ感シ
居ル際ニ付事實ヲ誇張歪曲シテ故意ニ問題ヲ紛糾セシメタ
ル今回ノ中央ヘノ報告（「イズウエスチャ」記事）ハ之カ交
送要求乃至ハ反省ヲ促スノ好材料ト言ハサルヘカラス
今回ノ如キ蘇側ノ挑戰的態度ニ對シ會社カ事ナカレ主義ノ
下ニ事件ヲ有耶無耶ニ葬リ去ルニアリテハ今後ノ惡例ヲ作
リ其ノ圧迫ヲ助長シ禍根ヲ將來ニ残スヘシ「ダイナマイ

ノ殘炭區域拂採炭準備作業中ナリ本區域ハ重壓ノ關係上急
遽作業スルニ非サレハ殘炭ノ採掘不可能トナル虞レアリ當
方ハ有價値ナル石炭ヲ出來得ル限り採掘シ盡スヘク細心ノ
注意ヲ以テ近々拂採炭ニ着手ノ豫定ニシテ閉鎖ヲ必要トス
ル程ノ危険ナシ

現場ニテハ労働組合側及鑛夫等ハ之ヲ重大視シ居ラス從來
鑛山署長、勞監ハ危險視セサル場合ニテモ採炭夫自身危險
ナリト考フル採炭切羽ニアリテハ時ニ其ノ就業ヲ肯セサル
コトアレトモ現在ノ三坑ニテハ斯ル事アルナシ

本件ノ如キ小問題ハ中央ノ問題ト爲スヘキ筋合ノモノニ非
スシテ現地限りニテ當然解決シ得ルモノト確信ス兩監督者
トノ個人的友好關係ニハ何等ノ溝渠ヲ介在セサルモノナル
モ兩人ハ將來ニ於ケル事件ノ紛糾ヲ思ヒ間接ニ中央ヨリ閉
鎖ヲ命令セシメント企ラミタルモノト考ヘラル

諸案件ノ地方的解決ニ力ヲ致サスシテ輕卒ニモ新聞紙上ニ
誇大ナル記事ヲ掲ケ中央ヲ煩ハスカ如キ處置ハ最近ノ諸事
件ニ對スル態度ト共ニ是非其ノ反省ヲ促カシ之ヲ是正セシ
ムルノ要アリト思考ス

ト「買入、物資輸入許可、配給値段、労働者入露問題等當
面ノ交渉案件ノ總テニ難色アル際是非共反省ヲ促シ其ノ態
度ヲ是正セシムル要アリト考ヘラルルニ付貴方ニテモ慎重
考慮ノ上本店鑛業所一体ト成リ目的貫徹方然ルヘク御取計
アリ度シ

尙二十三日大使発總領事宛電報ニ依レハ蘇側ハ第三坑ヲ甚
タシク危険視シ閉鎖ヲ要求シ居ル趣ノ處三坑ハ廢坑間際ニ
テ上層及周圍ヨリ拂ヒ来リ目下少量ノ殘炭區域ノ拂ヒ準備
中ニテ急キ作業スルニ非サレハ採掘全然不可能トナル虞アリ
殘炭採掘不能トナリシ場合ニハ會社ハ有價値ノ石炭ヲ放
棄シタリトテ問題化スルニ付細心ノ注意ヲ拂ヒ最近拂ヒニ
着手スル豫定ナリ三坑ノ問題ハ鑛山署ト鑛業所トノ間ニ於
テ解決方中央ヨリ鑛山署ニ指令スル様回答ヲ可トスヘシ因
ミニ三坑ニ関シテハ作業方法ノ當否ニ付鑛山署ト當方ノ間
ニ意見ノ相違アリ

尙鑛山署長及労働監督ハ（個人的友好關係ニハ何等躊躇^(躊躇)無
シ）現地ニテノ事件紛糾ヲ避ケル爲「タス」ノ名ニ於テ中
央ニ報告シ間接ニ中央ヨリ閉鎖ヲ命令サセント計リシモノ
ト思ハル

（了）

昭和11年1月29日 広田外務大臣より
在ソ連邦大田大使宛(電報)

北樺太鉦業会社に関するイズブエスチャの警告的報道は問題の解決とはならない旨ソ連側へ適宜指摘方訓令

本省 1月29日後4時30分発

第三一號

貴電第七五號ニ關シ

詳細ハ猶調査中ナルモ本社ニテハ當省並ニ商工省ノ意向ニ基キ「ドウエ」鑛業所宛努メテ協調的態度ヲトリ成ル可ク「ソ」側監督官廳ノ意向ヲモ尊重シ企業ノ圓滿ナル進捗ヲ計ル可キ旨訓電濟ナリ
尙本件ニ關シ「ソ」側ハ貴館又ハ在亞港總領事館ニ何等申出ツル處無ク直ニ新聞紙ニ警告的記事ヲ掲載セル處斯ル遣り方ハ徒ニ關係者ノ神經ヲ刺戟スルノミニテ問題ノ圓滿解決ニ資スル所以ニ非ルニ付此点適宜「ソ」側ニ指摘シ置カ
ルル様致度シ
亞港ニ轉電セリ

昭和11年1月31日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国部隊の越境によりソ連側と戦闘になった旨外務人民委員代理より注意喚起について

モスクワ 1月31日前発

本省 1月31日後着

第八四號

三十日深更至急ノ用件ナリトテ求アリタルニ依リ「ストモニヤコフ」ヲ往訪シ約二時間半ニ亘リ會談セルカ要ハ先方ヨリ三十日午後二時半曩ニ滿洲國軍隊ノ或ル中隊カ討匪ノ爲越境セル「グロデコウオ」附近「メシチエレコーシヤオ」ノ地點ニ於テ日滿兵ト思ハルル私服ノ四名及犬六匹ノ部隊カ更ニ三軒越境シ日滿側ヨリ發砲セル爲蘇側モ應戰シ雙方共應援隊ノ救援アリ白兵戦サヘ行ハレ雙方ニ數名ノ死傷者ヲ出タセル事件アリトテ右ニ付日本政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルト共ニ責任者ノ處罰、取調ノ要求並ニ將來ニ於ケル要求ノ留保ヲ申入ルル旨述ヘタルニ依リ本使ハ右早速本國政府ニ電報スヘキモ斯ル事件ハ要スルニ國境不明ノ爲起セルモノト思ハルル處我方ニ於テモ取調ノ上必要ノ

主張ヲ爲スヘキ權利ヲ留保スル旨應酬シ置ケリ詳細追報ス
滿、哈爾濱へ轉電セリ
滿ヨリ綏芬河へ轉電アリタシ

昭和11年2月5日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

漁業条約改訂交渉における我が方の姿勢は非妥協的であるとのソ連側非難について

付記 幣原喜重郎稿

「昭和十一年十二月日ソ漁業暫行協定成立に關する経緯の一局面」

モスクワ 2月5日夜発

本省 2月6日前着

第一〇四號

往電第九七號ニ關シ

「カズ」ハ本件交渉開始以來ノ經過要旨ヲ述ヘ蘇側トシテハ安定問題ニ付三年ヲ五年ニ譲リ又換算率問題ニ付妥

協ノ「アパンス」ヲ出タセル等互譲ノ精神ヲ示セルニ拘ラス日本側ハ原案ノミ固執シ蘇側カ受諾ヲ困難トスル十二年案ノ解決ヲ先決問題ナリトシテ他ノ諸問題ニ對シテモ今猶妥協ノ態度ヲ示ササルハ甚タ心外至極ナリト説キタル上前回酒匂カ各事項ニ亘リ彼我ノ主張ヲ略述セル内ニハ蘇側ノ主張ヲ能ク了解シ居ラサル點アルカ如シトテ十二年案ニ付之カ受諾ヲ難スルハ形式問題トシテニハアラス實ニ主義的、原則的見地ニ出ツルモノナリ即チ特別契約ニ關スル現行契約ヲ十年延長スルコトニハ同意シ得ヘキモ日本側要望ノ如ク此ノ外ノ現有漁區及今後日本側ノ取得スル漁區ニ就テ迄モ新條約ノ全期間ニ亘リ繰下クルコトハ現行條約ノ規定慣行及國內法ニ反スルト共ニ從來日本國臣民ノ享有セシ權利ヲ大ニ擴張スルモノニシテ恰モ漁區ヲ永久的ニ割讓スルカ如キ結果トナルニ依リ到底容認困難ナリ殊ニ日本案ニ依レハ特別契約即チ議定書丙ニ依ラスシテ長期ニ亘ル工場經營ヲ認メサルヲ得サルコトトナル處斯ノ如キハ日本側カ現行條約以上ニ大ナル權利ヲ要求スルモノナリ
就テハ日本側ニ於テ右蘇側ノ主張ヲ篤ト考慮シ何等力新

ラシキ代案ヲ提出セラレンコトヲ切望ス云々ト述ヘタリ
依テ酒匂^{（句）}ハ右蘇側ノ主張ニ付テハ正解シ居ル積リナリ尤
前回ニ述ヘタル通り蘇側ニ於テハ現有漁區全部ヲ十二年
間經營セシムルコトニ付實質的ニハ反對無キモノト推定
シ居レリ蓋シ蘇側ハ國營企業カ三%ノ保留増加漁區ヲ選
フ場合日本側現有漁區ニハ觸レサルヘシト爲シ又競賣制
度維持ヲ主張スルニ當リ今後競賣ニ附セラルヘキハ僅少
ノ新漁區ノミナリト説ケルニ鑑ミルトキハ右ノ如ク推定
スルコト理ノ當然ナルヲ以テナリト述ヘタル處先方ハ客
年六月二十八日酒匂^{（句）}ニ手交セル對案ニ記載セル漁區ノ主
要集團トハ廣田「カラハン」取極關係漁區ニ限ル趣旨ニ
シテ前記酒匂^{（句）}ノ推定ニハ同意シ難シト述ヘ酒匂^{（句）}カ右「カ
ズ」ノ所言、「ミコヤン」ノ演説及競賣維持ノ主張ヲ綜
合スレハ蘇側ニ於テ日本側ノ現有漁區ヲ奪取セントスル
底意アルヤニモ推察セラレ甚タ惡シキ印象ヲ與ヘタリト
説キタル處先方ハ「ミコヤン」ノ演説等ヨリ斯ル推論ヲ
爲スハ正常ナラストシ日本側カ今日ニ至ル迄原案ノミニ
膠著シ居レルニ鑑ミレハ蘇側カ本問題ニ付客年六月ノ對
案ヲ維持ストモ驚クニ値セサルヘシト答ヘ本問題ニ付テ

協定成立に關する經緯の一面

昭和十一年十一月日露漁業條約改訂に關する兩國政府間
の交渉は事実上完結して將に新條約の正式調印に進まむと
せる矢先、偶々日独防共協定の商議進捗せりとの風説傳は
るや「ソヴィエト」政府は突如口実を構へて、日露改訂漁
業條約の調印を肯んぜず、愈々十一月二十五日、日独防共
協定の公表せられたると共に、「ソヴィエト」政府の我國
に対する態度は一層硬化し、遂に在來の漁業條約存続期限
たる同年十二月三十一日迄には新條約調印の望絶へたやう
に見えた。

十一月二十七日「ソヴィエト」大使「コンスタンチン、
ユーレネフ」氏は予を訪ひて日独防共協定に言及し、自分
は日露兩國間の諒解を進めむが爲め、今日迄微力を傾倒し
來りたるも、其苦心は日独協定の結果最早水泡に帰したる
の感がある、日本が独逸と結んで露國を疎外するの政策は
自分の深く遺憾とする所なるのみならず、日独兩國は更に
防共協定に關聯して祕密協定を締結し、露國を対象とする
或種の援助を約せる旨聞及びたりと云ひ、頗る亢奮の色を
示した、予は之に対し自分は日独防共協定に付て何等裏面

ハ更ニ後日論議スルコトナレリ
ニ、酒匂^{（句）}ヨリ競賣ノ休止ニ付先方ノ再考ヲ求メタルモ先方ハ
前言ヲ繰返ヘセリ

三、酒匂^{（句）}ヨリ私見トシテ魚族ノ繁殖保護ニ付例ヘハ日本側ヨ
リ財的寄附（繁殖保護ノ五分税）ヲ爲スコトトシ之ニ對シ
蘇側當局カ養殖場ヲ設置スヘシト云フカ如キ聲明ヲ爲シ
テハ如何ト云ヘルニ先方ハ蘇側ノ排他的權限ニ屬スル事
項故蘇側ノ措置ニ委セラルル様致度シトテ何等ノ取極ヲ
爲サントスル意ヲ示サス又我専門家ヲ毎年視察セシムル
コトニ付先方ハ相互主義ニ依ルヘキヲ説キタルニ依リ酒
匂^{（句）}ハ日本政府ハ蘇聯人ニ漁業權ヲ許與シ居ラサルニ反シ
蘇政府ハ日本人ニ之ヲ許與シ居レルニ鑑ミ相互主義ニ依
ルヘキ理由ナシト論シタルモ先方ハ専門家ノ視察ノ權利
ヲ與ヘ居ラストテ本件ニ付テハ現行條約附屬會議錄云々ヲ
以テ満足セラレ度シト繰返ヘセリ

(付記)

幣原喜重郎氏稿

昭和十一年十二月日ソ漁業暫行

の消息に通ぜず「ソヴィエト」側^{（三）}に於ては日独間に祕密別
約あるやの報道を有せらるることとなるも、我外務当局は
日独防共協定に關聯し又は其背後に何等の特殊協定なきこ
とを明確に断言し、自分は其言明を疑ふべき理由を見出さ
ない、日独防共協定の当否に至つては予の如き久しく現実
の政局に遠ざかりたる身を以て妄りに論評を試み得べき限
りでないけれども、自分は今尚ほ絶へず日露國交の動向に
深き関心を有するものであるから、此際確めて見たい一事
がある、新聞紙の報道に依れば「ソヴィエト」政府は日独
防共協定に対する不滿の爲め日露改訂漁業條約の調印を拒
絶しつゝ、ありとすることとなるが、果して事実なりや否や、是
れ兩國の關係に於て自分の差当り最懸念する所であると語
り出でた。

「ユーレネフ」氏は此間に明答せず、唯日露漁業問題の
交渉は目下「モスコ」に於て進行中なるが、其経過に付
ては未だ通報に接しないと云つた、予は新漁業條約調印の
遅延せる内情に關し右新聞紙の傳ふる所は或は憶測に過ぎ
ざるやも知れぬが、之を事実と假定せば、其必至の勢とし
て來年（昭和十二年）四、五月の頃には日露開戦の悲劇を見

るべきを恐ると直言した、「ユーレネフ」氏は稍々色を作し、漁業條約調印が遅延せりとて、之が爲めに両國開戦の虞ありと云はるるは如何なる意味なりやと反問した、予は之に答へ「ソヴィエト」政府に於て漁業條約の調印を溢る原因が日独防共協定に対する反感に在りとせば、其原因の除かれざる限り、漁業條約問題の解決を期待し難かるべく、從て來年一月一日以降は日本人の露領沿岸出漁を律すべき條約なきに至るものと覚悟しなければならない、其場合在本邦「ソヴィエト」大使館及領事館は露領沿岸漁場に渡航せむとする日本漁業者の旅券に査証を拒むが如きことなきや、然るに貳万人の我漁民は露領沿岸漁業を主要の生業とし、其出漁を差止めらるるときは、十数万の家族と共に糊口の途を絶たることとなるから如何なる妨害を受けても出漁を思ひ止まるものではない、殊に世界何れの國にても、漁民は多くは冒險的(無鉄砲の)氣性に富むものであつて、日本漁民も多分に其氣性を具へて居るのであるから、「ソヴィエト」官憲より旅券の査証を得られなくとも、毎年四、五月頃露領沿岸の漁期に至らば、査証を待たずして、断然出漁を決行するであらう、日本漁民が無査証の旅

券を以て露領に赴くならば、「ソヴィエト」官憲は恐らくは其漁場の上陸就業することを制止するであらう、茲に於て此等漁民は必要なる保護を日本政府に求むるに至ること必然である、之に対する日本政府の立場を按ずるに、極東露領沿岸に於ける我臣民の漁業権は「ソヴィエト」政府の正式に確認せる「ポーツマス」條約の保障に根拠を有するものであつて、漁業條約調印の遅延が全く漁業問題自体と直接の關係なき「ソヴィエト」政府の報復手段に基くものなる以上、日本政府は「ソヴィエト」政府の感情を顧慮して我漁民の出漁を禁遏し又は其求むる保護を拒否するが如き措置を執り得ること云ふ迄もない、「ソヴィエト」官憲が強力を以て日本漁民の上陸就業を制止せば、我官憲も亦強力を以て此等漁民を保護せざるを得ざるに至り、勢の激する所如何なる異変の突発を見るやも測られない、是れ自分が来る四、五月の頃には兩國衝突の危険切迫すべきことを衷心より憂ふる所以であると説明した。

定に不満を有せらるるは感情の上より無理ならぬことと察せらるるけれども、此際報復の意味合を以て日露新漁業條約の調印を拒み、其自然の成行として今後数ヶ月内に兩國開戦の危機を招來するが如き対策を執らるるに於ては之が爲め露國に取つて何等有益なる目的を達し得らるるであらうか、頗る疑はしきものがある、「ソヴィエト」政府が斯かる措置に出でらるる目的は何処に在りや、(一)若し極東露領沿岸一帯より全然日本漁民を駆逐し、同方面の漁業を「ソヴィエト」側の独占に移さむが爲めなりとせば、斯くの如き計画は到底適法に又事実上にも行はれ得べきものでなく、結局多数の日本漁民を敵とし、所謂無産階級(「プロレタリアット」)の怨を永く結ぶことを免れない、(二)若し又此等漁民を困惑せしめて日本政府を窮地に陥れ、以て日独防共協定の適用を牽制せむが爲めならば、其効果なきのみならず、却て一層同協定の強化を促かすこととなるかも計り難いと説いた。

予は更に「ソヴィエト」政府が新漁業條約調印問題に付て非協調的態度を固執するの利害に論及し、元來日本人が「ソヴィエト」政府に相当の漁場借区料を納付し、規律あ

る方法に依り露領沿岸に於て鮭鱒を漁獲するは露國に取つて何程の損失ありや、露國に別段の損失を與へざる日本人の平和的活動を阻止し、之が爲め一面には我無産階級の憤懣を招き、他面には兩國を戦亂の慘禍に導くが如きは其得失自ら明かなるものあるやう思はると述べた。

最後に予は「ソヴィエト」政府に対する一己の希望を附言し、同政府に於て此際努めて感情を抑へ、露領沿岸に出漁せむとする日本漁業者に対しては例年の通旅券の査証を與へ、其他何とかして出漁を合法化する手段を講ぜられむことを切望せざるを得ない、現行漁業條約の失効を目前に控へ、最早之に代るべき新條約を商議決定するの餘日なしとのことならば、更に暫行協定を締結して現行條約の効力を延長するのも一策ではないか、要するに自分が露國当局者に希ふ所は忍耐の一語に盡きる、忍耐の美德は他日必ず酬ひられ、結局露國の爲めにも得策と信すると切言した。

「ユーレネフ」氏は終始眞面目に予の所説を聞き取り、何等か默考せるものの如く見受けられたが、別に論議を試みずして辞去した。

其後漁業條約交渉の経過に付ては予は消息に接しなかつたが、同年十二月二十八日に至り「モスコウ」に於て在來の漁業條約の効力延長に関する暫行協定が調印を了したる旨我外務省より公表された。

翌年(昭和十二年)一月五日宮中に於て新年御宴の際、予は「ユーレネフ」氏に出会つた序に、右暫行協定の成立は日露兩國の爲め寔に慶賀すべきことであると挨拶したが、氏は低声にて寔は前回の会談中述べられたる貴見は自分の共鳴せる所多かつたから、委細本國政府に報告して篤と考量を請ひたるに、早速其承認を得られ、自分も本懐の至である耳語し厚く謝意を表した。

183

昭和11年2月16日 在ハルビン佐藤(庄四郎)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

ハルビンを除く在滿州國ソ連領事館を閉鎖する
ので在ソ連滿州國領事館も一館のみ認める
旨在ハルビンソ連副領事通報について

付記 二月十七日発在ハルビン安藤(麟三)特務機関長
より杉山參謀次長宛電報

ハルビン 2月17日発
參謀本部 着

秘、至急

一、滿洲國外交部ハ本月三日當地蘇聯總領事ニ對シ滿洲國領事館新設問題ニ關シ最後の回答ヲ求メ二月中ニ回答ナキトキハ滿洲國トシテ任意ノ手段ヲ採ルヘキ旨通告シアリタリ

二、然ル處本十六日午後四時蘇聯領事館ハ突如當地外交部特派員ニ對シ左ノ通告ヲ爲セリ

(1)極東其他ニ於ケル滿洲國領事館新設問題ニ關シ蘇聯側ハ在滿洲國內蘇聯領事館ハ哈爾濱ヲ除キ他ハ全部之ヲ閉鎖スルト共ニ滿洲國側ニ對シテハ既設二領事館所在地及哈府ヲ加フル三者ノ内一個所ヲ限り領事館ノ存置ヲ許可スルノ用意ヲ有ス

(2)奉天ハ去ル十四日閉鎖セリ

三、情況右ノ如クナルモ此際當該兩國交ノ事態ヲモ考慮シ其眞意ニ就キテハ更ニ鋭意探究中ナリ

第二八號(至急)
本官發滿宛電報
第四五號

十六日日曜ニモ拘ラス當地蘇聯「ドリビンスキー」副領事ハ外交部北滿特派員公署ヲ往訪シ領事館設置ノ件ニ關シ先般外交部廣瀨ヨリノ申出ニ對スル回答トシテ蘇聯政府ハ哈爾濱總領事館ヲ除ク在滿蘇聯領事館全部ヲ閉鎖スル用意アルコト並ニ在蘇聯邦滿洲國領事館ニ關シテハ右閉鎖ノ場合ハ知多、武市、哈府ノ中一箇所ノミ設置ノ權利ヲ附與スヘキ旨ヲ通告シ越シタル趣ナリ右不取敢
大臣、露、滿洲里、黑河、綏芬河、奉天、齊齊哈爾ヘ轉電セリ

(付記)

滿州國からのソ連領内領事館新設要求に對シソ連は滿州國內領事館の閉鎖により對抗について

ハルビン 2月16日夜発
本省 2月17日前着

184

昭和11年2月18日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

在ハルビンソ連總領事との会談における滿州
国外交部次長の発言に對シ外務人民委員代理
抗議について

モスクワ 2月18日前発
本省 2月18日後着

※※
第一三二號

「ストモニヤコフ」ハ十四日本使トノ會談(往電第一二二號)ノ終ニ於テ大橋次長ノ態度ニ付非常ニ興奮セル口吻ヲ以テ不平ヲ述ヘタルカ同日ハ本使ニ於テ先約ノ時間ノ都合アリタル爲簡單ニ同次長ニ於テ如何ナル言動アリタリトスルモ同次長カ滿洲國ノ官吏ナル以上本使ニ於テ何等措置ヲ執リ得ヘキ筋合ニアラサルコト勿論ナルモ日ヲ改メテ參考トシテ承ルコトト致度シト述ヘ置キ十六日往訪セルカ先方ハ同次長カ哈爾濱ニ於テ「スラウツキー」總領事ト八時間ニ亘ル會談ヲ爲セル際例ヘハ蘇側ハ滿洲國兵匪ヲ支持シ居ルニ付其ノ責ヲ負フヘキナリトカ蘇側ニ於テ國境ノ側定ヲ欲セサルハ支那ノ弱カリシニ乘シ其ノ領土ヲ掠取セル事實

アルカ爲ナリトカ様々亂暴ナル言辭ヲ放チ「ス」總領事ニ對シ其ノ態度傲慢ナリトテ辱メタル後覺書ヲ手交セル趣ナリ此ノ外在「ボグラ」滿側交渉員ハ在同地蘇領事ノ言動ヲ以テ非紳士的ナリトテ非難攻撃セシコトアリ又國通ノ如キモ大橋「ス」會談ヲ報スルニ「聾盲ニシテ横柄ナル領事」ナル見出ヲ附セル由ナルカ若シ日本政府ニ於テ直ニ相互ニ不快ナル事態ヲ明朗化セントスル意圖ヲ有セラルルニ於テハ形式論ヲ去リ在滿代表者ノ對蘇態度ニ注意アランコトヲ切望ストノ趣旨ヲ縷述シ往電第一二七號蘇聯領事館閉鎖問題ニ言及シタル後

右ハ最近日本政府カ客月三十日ノ事件ヲ委員會ニ附議スル提議ヲ爲セルハ兩國關係ノ調整ヲ念トセラルル結果ナリトシテ大イニ喜フ半面ニ於テ滿洲國ニハ反蘇挑發ノ行動ヲ爲ス者アル事實ヲ悲ムノ餘リ申上クル次第ナリト說ケルニ依リ本使ハ御話ノ次第ハ滿洲國ニ關スルモ參考トシテ東京ヘモ申送ルコトスヘシ尤大橋次長カ「ス」總領事ニ述ヘタル所ハ滿洲國側ノ信スル所ヲ率直ニ語りタルモノナルヘク本使ノ知ル大橋次長ハ極メテ元氣良キ人柄ナルニ依リ其ノ主張ヲ說クニ熱心ナル爲蘇側ニテ不満ニ思フカ如キ點アリ

確定ニ言及シ居ル點ヲ指摘シ本使ヨリ調査ニ依レハ東部陸境中琿春、興凱湖間ノ界標ノ如キ三十五個アルヘキ筈ノ處現在ハ原位置ニアルモノ十、移動セリト思ハルモノ三、存否不明四、全然無キモノ十八アリ而モ各界標間ノ距離ハ十八軒ニ達シ之カ見透シ容易ナラス丘陵起伏シテ實際上判別不能ノ由ナレハ之ヲ再調査スルノ必要アリ而シテ一九二四年蘇支條約第七條及蘇奉協定第三條ハ兩國境界ヲ「リマルケート」スルコトヲ協定シ居レハ蘇側自身モ境界ノ曖昧ナルコトヲ認メ居ラルル様思考ススク國境不明確ナルコトカ常ニ問題ノ原因トナルモノナレハ之カ確定ニ付双方ニ於テ考慮ヲ加フルコト適當ニシテ兩國關係ヲ調整スルニ資スル所アルヘシト存スル處全然之ヲ必要トセラルル蘇側ノ態度ハ本使ノ了解ニ苦ム所ナリ此ノ點ニ付貴見承り度シト述ヘタルニ「ス」ハ本問題ニ付テハ既ニ數回御話アリタルカ紛争ノ原因ハ國境不明ニアラス

⁽²⁾ 日本軍部ハ紛争ヲ生セシメテ國境不明ヲ主張スルニ便ナラシメントス國境線ハ條約ニ依リ明カニシテ唯支那ハ現狀ニテ國境線ヲ検査セントセリ右ハ改定ニアラスシテ界碑ノ検査ニ關スルモノナリ然レトモ現在吾人ハ軍事威嚇ニ屈シ交

シヤモ測ラレスルコトハ往々其ノ例ヲ存スルカ如ク本使トシテ茲ニ貴官ト大橋次長トヲ比較論評セントスルニアラサルモ現ニ貴官カ本使トノ會談中述ヘラルル言辭中ニハ隨分辛辣ナルモノアリテ夫等ヲ本國政府ヘ其ノ儘通報セハ憤慨ヲ招クモノアルカ如シ然シ本使トシテハ斯ル貴官ノ言辭ハ主張ヲ強調センカ爲ナルヘシト考ヘ報告ヲ差控ヘ居ルモノモアル次第ナリト告ケ次テ往電第一三四號國境確定委員會ノ件ヲ話頭ニ上セタリ

滿ヘ轉電セリ

185

昭和11年2月18日

在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿ソ國境確定のための調査に関する我が方提案に対し軍事威嚇下の提案には応じられずと
外務人民委員代理拒否について

モスクワ 2月18日前發

本 省 2月18日後着

第一三四號

往電第一三二號會見ニ際シ大橋「ス」領事會談中滿蘇國境

涉ニ入ルヲ欲セサレハ日滿側カ對蘇攻撃ヲ中止セサル限り右界碑検査ニモ應スルヲ得ス日本軍ハ對蘇戰爭ヲ惹起セントシ居ルモノナルカ須ク斯ル策動ヲ止ムヘシ然ラハ蘇側モ兩國關係ノ爲大イニ協力セン元來日蘇間ニハ平和的ニ解決シ得サル如キ重大案件ナシ日本政府カ眞ニ親善關係ノ樹立ニ努力セラルルナラハ蘇側ハ總テノ案件ヲ解決スルニ吝ナラサルヘシト答ヘ問題ハ大橋次長ノ態度ノミニ關スルニアラスシテ在滿官憲ノ挑發的言動ヲ排セントスルニアリト述ヘタルニ依リ本使ハ在滿官憲ノ態度ハ紛争ノ原因ナリト言ハルルモ日滿側ヨリ見レハ蘇側ノ極東軍備並ニ赤化運動ノ爲脅威ヲ感シ居ルモノナリ

⁽³⁾ 極東蘇領ニ二十數萬ノ赤軍、多數ノ飛行機、「トーチカ」、「タンク」等ヲ有シ軍事的施設整備シ居ル實情ハ明カニ日滿軍ヲ脅威スルモノニシテ客年「コミンテルン」大會ノ決議ニ徴スルモ日滿側ハ蘇側ニテ外國ノ政體變更ヲ企テ居ルモノト認メサルヲ得サル次第ニシテ議論セハ盡キサルモ要スルニ双方ニ於テ平和和工作ヲ進メ行クコト望間數ク戰爭ヲ好マサルコトハ日本政府モ蘇側ニ劣ラス而シテ右國境確定問題ノ如キハ平和和工作ノ一ナル處之ヲ拒否スル貴官ノ理論

ハ不可解ナリ若シ國境カ確定シ居リ再検査ノ必要無ケレハ何故十數年前「リマルケート」云々ト協定セラレシヤ右ハ國境ノ不確定ヲ自認セラレタルモノト認ム從テ調査委員會ヲ設クルニ反對セラルル理由ノ發見ニ苦ム次第ニシテ本使トシテハ何等軍側ヨリ壓迫ヲ受ケテ斯ク主張スルニアラス又軍當局ヨリ壓迫ヲ受クヘキ立場ニアラス要スニ貴官ノ理論ハ本使ニ不可解ナリ之ヲ日本政府ニ申送ルモ同様不可解ト爲スヘシト應酬シ置ケリ

滿ヘ轉電セリ

186 昭和11年2月18日 在滿州国南(次郎)大使より 広田外務大臣宛(電報)

ソ連領内滿州国領事館の閉鎖には不同意である旨滿州国外交部北滿特派員説明について

新 京 2月18日後発
本 省 2月18日夜着

第一三三號

哈爾賓發本使宛電報第四五號ニ關シ

蘇側ハ領事館減少ノ理由トシテ『滿洲帝國政府ノ態度及同

國內蘇聯領事館(全部)カ專横及暴力ニ對シテ自國民ヲ防護スル可能性ナキ狀況ニ置カレ居ルニ鑑ミ多數ノ領事館ヲ持ツコトニ「インテレスト」ヲ有セス」云々ト述ヘ居レルカ外交部北滿特派員ハ蘇聯ノ在滿領事館閉鎖ハ蘇側ノ勝手ナルカ滿側ハ現存領事館減少ニハ不同意ナル旨答ヘ置キタル趣ナリ

哈爾賓、露、滿洲里、黑河、綏芬河、奉天、齊齊哈爾ヘ轉電セリ

187 昭和11年2月19日 広田外務大臣より 在滿州国南(次郎)大使宛(電報)

滿州国は国内ソ連領事館の閉鎖を要求するとの報道に関する外国新聞記者との応答について

本 省 2月19日後8時10分発

第九七號

貴電第一三四號ニ關シ

十二日外國新聞記者ノ會見ニ於テ十日新京發同盟ニ依レハ滿洲国外交部ハ蘇聯領内ニ領事館増設方交渉中ナルカ蘇側ハ之ニ回答セス殊ニ金廠溝事件ノ關係モアリ蘇側カ依然之

ヲ拒否スルニ於テハ滿洲國ハ報復手段トシテ滿洲國內蘇聯領事館ノ閉鎖ヲ要求スル趣ナルカ事實ナリヤトノ質問アリ之ニ對シ係官ハ右滿蘇兩國ノ領事館設置問題ハ隨分以前ヨリ經緯アル問題ニテ最近ノ金廠溝事件トハ別個ノ問題ナリトノ意味ヲ説明シ置キタルカ更ニ二十七日貴地發東京日日特電ハ蘇聯國領事館減少問題ヲ報道シ居リ右ニツキ外國通信記者ノ質問アリタルヲ以テ係官ハ單ニ情報トシテ事實ヲ肯定シ置ケリ

哈爾賓、露ヘ轉電セリ

188 昭和11年2月21日 在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)

国境紛争事件調査委員会への第三国人加入案には同意困難との我が方主張にソ連側同意について

モスクワ 2月21日夜発
本 省 2月22日前着

第一三九號

貴電第五二號ニ關シ

十九日「ストモニヤコフ」ヲ往訪ノ上一月三十日事件調査委員會ニ第三國人ヲ加入セシムルコトハ日本側ニ於テ到底同意困難ナリトテ元來日本ハ先年家屋税ニ關スル國際仲裁々判ニ於テ苦キ經驗ヲ嘗メタル以來如何ナル事件ノ處理ニ對シテモ第三國人ノ加入ヲ甚シク嫌忌シ居ルモノニシテ右ハ北鐵讓渡問題交渉中蘇側ヨリ物品引渡等ニ關スル紛議處理ノ爲第三國人ノ仲裁乃至調停案ヲ提議セル際偶々歸朝中ナリシ本使ヨリ「ユレネフ」大使及「カズロフスキー」氏ニモ話シタル通ナルコト假ニ第三國人ヲ加入セシムルトセハ其ノ人選等ニ付双方ノ意見容易ニ合致セサルヘキニモ鑑ミ却テ紛糾ヲ招キ時日ヲ遷延セシムルニ至ルヘキコト、客年十月蘇側ノ提案ニハ第三國人ニ言及シ居ラサルコト又現ニ蘇、羅馬尼間及蘇、波蘭間委員會ニモ第三國人ヲ加入セシメサル規定トナリ居ルコト等ヲ述ヘ強ヒテ蘇側カ第三國人ノ加入ヲ主張ストセハ日滿側ヲシテ蘇側カ日滿ヲ信セサルヤノ印象ヲモ與フヘシト說キ尙日滿側トシテハ第三國人ノ加入ヲ拒否スルモ調査ノ公平ヲ期スル爲委員ハ事件ニ直接關係セサリシ哈爾賓又ハ哈府ニアル者ヨリ選出スルコトトシ參考人トシテ事件關係者ヲ現地ニ派遣スルコトトシ

度キ意嚮ナリトテ蘇側ノ説得ニ努メタル處

先方ハ日本側ノ熱心ナル希望ニ顧ミ本件委員會ハ日滿ヲ一方トシ蘇側ヲ他方トシ双方ヨリ同數ノ委員ヲ選出スルコトトシ第三國人ヲ加入セシメサルコトニ同意ス又委員トシテハ事件ニ直接關係セサリシ者ヲ選フコトト爲シ事件關係者ヲ參考人トシテ現場ニ派遣スルコトニ付テモ贊同ス尤本件事務ノ技術的方面ニ關シテ追テ協定シ度シト述ヘタリ依テ本使ハ蘇側カ第三國人問題ヲ「ドロツプ」セラレタルコトニ對シ満足ノ意ヲ表ス尤委員會ノ構成ニ付豫テ滿側ニテハ對等國ノ一員トシテ參加方主張シ居リ右ハ無理ナキ儀ト考フル處蘇側カ日本側ノ希望ヲ容レラレタルニ鑑ミ滿側ニ勸説シ蘇側ノ提議ノ構成ニ依ルコトニ同意セシムルコト可能ナリト思考ス從テ本件委員會ノ設置問題ハ主義上解決セルモノト認ム尙技術的方面ノ點ニ付何等承リ得ハ幸ナリト述ヘタル處先方ハ技術的ノ問題ハ成ルヘク速ニ研究ノ上貴使又ハ第二東方政治部ヨリ大使館ニ御通知スルコトト致度キ旨答ヘタリ

滿ヘ轉電セリ

~~~~~

ツヘキノミナラス今次ノ事件ニ對スル軍側ノ責任者ヲ出スコトトナルヘク旁滿洲國トシテハ是非委員會設置案ヲ有耶無耶ノ裡ニ葬リ度キ意嚮ニテ右ノ趣ハ軍當局ニ對シテモ申入レタルモ軍ハ差當リ本件真相ヲ中央ニ報告セサル旨ヲ答ヘタリ

## (二)領事館問題

二月十六日蘇側申出ニ對シテ外交部ニ於テハ次ノ四案ニ付攻究中ナリ

### 第一案

滿蘇双方トモ四箇所ニ領事館ヲ置クコトトシ(蘇側在滿六領事館中既ニ奉天ヲ閉鎖スヘキ旨通告シ尙齊齊哈爾ヲモ閉鎖スルニ決定セル旨通報アリ)滿洲國ハ「チタ」、武市ノ外新二哈府、「ニコリスク」ニ開館ス

### 第二案

滿蘇双方共三領事館宛トシ滿洲國ハ「チタ」、武市ノ外新二哈府又ハ「ニコリスク」ニ開館ス

### 第三案

双方共二領事館宛トシ滿側領事館ハ現在通リトス

### 第四案

189

昭和11年2月22日 在滿洲國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

金廠溝事件および滿ソ間領事館問題に関する  
滿洲国側の対応振りにつき同国外交部次長内  
話について

新 京 2月22日夜発  
本 省 2月22日後着

第一四二號(部外絶對極秘)

往電第一四一號ニ關シ

大橋次長ハ滯京中(一)金廠溝事件(二)滿蘇間領事館問題ニ付滿洲國トシテノ對策ニ付本省トモ充分協議スヘキ旨語り居リタルカ滿側對策トシテ内話セル要旨左ノ通りナリ

(一)金廠溝事件

今次事件ニ際シ我軍ニ於テ越境シ居ルコト略疑ナキカ如ク(綏芬河發本使宛電報第二七號參照但シ本電ヲモ部外絶對極秘トセラレ度シ)從テ委員會ヲ設ケ現場確認ノ結果其ノ非我方ニアリトノ結論ニ到達スル場合ニ於テハ蘇側ニ對シテ最有力ナル宣傳資料ヲ供給シ蘇側ハ從來ノ國境衝突事件ノ責任迄皆之ヲ我方ニ負ハシムルノ態度ニ出

以上何レノ案ニモ先方カ應セサル場合ニハ滿蘇双方共領事館ヲ全部閉鎖スヘキ旨提案スルコト(滿側ニ於テ得タル報道ニ依レハ蘇側ハ滿側ノ出方如何ニ依リテハ全部引揚クルコトトスルモ已ムヲ得ストノ決意ヲ暗示セル由ナルカ外交部トシテハ最後に妥協案トシテ蘇側申出ノ如ク一領事館宛ヲ保持スルノ案ヲモ考慮シ其ノ場合ニ於テハ大橋ノ意見トシテハ哈爾濱ヲ閉鎖セシメテ新京其ノ他適當ノ地ヲ選フト共ニ滿側ハ「チタ」領事館ヲ存置シ且其ノ館員ヲ充實スルコト然ルヘシトノコトナリ)

以上四案ニ付テハ軍部ト協議済ナリ云々

190

昭和11年2月22日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿蒙間にも国境確定委員会を設けるとの外務  
人民委員代理の提案に賛成しつつ国交樹立交  
渉を進めるべき旨提案について

モスクワ 2月22日夜発  
本 省 2月23日後着

## 第一四〇號

(1) 二十一日「ストモニヤコフ」ヲ往訪シ滿蘇混合委員會ニ關スル往電第一三九號ノ會談ヲ終リタル後「ス」ハ右委員會ノ設置ニ依リ將來ニ於ケル國境衝突ヲ保障シ日蘇關係ノ脅威ヲ除去シ得ヘシト思考スル處蘇滿方面以外ニ滿蒙方面ニ於テモ屢國境衝突事件發生ヲ見ルハ甚タ遺憾ニシテ右ニ付テハ客年六月六日「ユレーネフ」大使ニ於テ廣田外相ニ對シ外蒙ノ領土不可侵ニ關シ蘇側モ大ナル關心ヲ有スル旨述ヘラレ又客年十一月二日「リトビノフ」ヨリ貴使ニ對シ右同様ノ話ヲ爲セルコトアリ然ルニ其ノ後滿蒙國境ニ於ケル事態ハ益重要性ヲ加ヘ同方面ノ衝突力更ニ擴大スルニアラスヤトノ懸念ヲ有スル處蘇側トシテハ曾テ一九二一年中援助ヲ與ヘタルカ如ク今日猶外蒙ニ對シ其ノ獨立ヲ保護スル爲必要ノ援助ヲ爲ス任務ヲ有スルモノト考ヘ居ル次第ナルト共ニ外蒙側トシテモ此ノ際混合委員會ヲ設ケ紛爭ノ解決ヲ計ル用意ヲ有スルモノト思考スルカ故蘇側ヨリ外蒙政府ニ對シ右混合委員會設置ニ付勸告ヲ與ヘ度シ

就テハ右ニ對スル日本政府ノ意見ヲ承知シ度キニ依リ此ノ旨廣田外相ニ傳ヘラレ何分ノ回答アル様配慮アリ度キ旨述

滿洲國側ヘモ傳達方取計フヘシト述ヘタルニ先方ハ蘇側カ日本ニ對シ本件ニ付依頼スルハ外蒙トノ親交關係並ニ極東ノ平和保障ヲ根據トスル次第ニテ此ノ點ハ曩ニ「ユ」大使ヨリ廣田大臣ニ述ヘタル通り蘇側ハ外蒙ノ獨立不可侵ニ利害關係ヲ有シ外蒙領土内ニ外國兵力カ存スルカ如キ事態ハ畢竟蘇聯國境ニ對スル脅威ナリト説キ外交關係ニ付テハ外蒙政府自身ニテ希望スヘキ問題ニシテ曩ニ外蒙側カ滿側ノ要求ヲ拒絕セルハ滿側ヨリ襲撃ヲ受ケ居リ日滿兵力一九三五年中蒙領ノ一部ヲ占領シ居ルカ如キ壓迫ノ下ニ於テ外交關係ヲ開始スルヲ好マスと謂フニアリタリ右ニ付テハ蒙古首相「ゲンドン」モ當地滞在在中言明セシ次第蘇側ヨリ外蒙側ヲ強制スルヲ得サル旨述ヘタルニ依リ本使ハ更ニ

(一) 蘇蒙間ニハ何等共同防衛、共助乃至保護條約ノ如キモノ存セス唯隣接セル關係上蘇側ノ領土維持ノ爲外蒙ヲ援助スルコト必要ナリトノ政治的考慮ニ基クモノト解スヘキヤ將又何等カノ條約存スルヤト問ヒ

(二) 混合委員會ノ設置カ平和ノ爲ナリトセハ國交樹立ハ夫レ以上平和ノ爲ナリトシ蘇側ニ於テ外蒙説得方切望スル旨ヲ告ケ

ヘタリ依テ本使ハ右東京ヘ申送ルヘキモ廣田大臣ハ「ユ」大使カ外蒙問題ニ言及セラレシ際蘇政府カ(脱)如何ナル根據ヲ有スルヤト問ハレタルニ「ユ」大使ハ何等回答ヲ與ヘラレサリシ由ナリ又「リトビノフ」氏ヨリ本使ニ御話アリタル際本使ハ蘇政府カ外蒙問題ニ言及セラレル根據何レニアリヤト問ヒタルカ當時滿蒙會議開催中ニテ本使トシテハ同會議ノ主眼ハ國交開始ニアリト認メ居タル爲是非共兩國國交ノ開始ヲ必要ト認ムル旨述ヘ置ケル次第ナル處元來隣接國間ニ國交ナキハ國際的意義ニ反スルコト勿論ニシテ滿蒙間紛爭解決ノ爲ニハ國交樹立ヲ先決問題ト考フ蘇側ハ外蒙ニ對シ種々勸告ヲ與ヘラルル立場ニアル次第故此ノ際外蒙側ニ滿洲國ト國交ヲ開始シ外交代表ヲ交換スル様勸説セラルルコト適切ト思考ス又只今一九二一年中ノ援助云々ト述ヘラレ蘇蒙間ニ何等カ援助ニ關スル條約ニテモ存スルカ如キ印象ヲ受ケタルカ果シテ然ルヤ日本ニ於テハ右ニ關スル真相不明ノ爲種々ノ憶測乃至風説アルニ鑑ミ確實ナル實情ヲ知ラスコト適當ト認メラルルニ付此ノ點ヲ明カニセラレ度シ

次ニ混合委員會案ハ面白キ着想ト考フルニ付東京ニ報告シ

(三) 日滿兵力蒙領内ニアルカ如ク説カレタルモ元來「ブイルノール」湖方面ハ牧草アリテ附近ノ牧民ハ蒙側並ニ滿側ヨリ共ニ入會トナリ居ルカ如ク國境不明ノ爲外蒙側ヨリ先手ヲ制シ同地方ヲ獲得セント爲シ居ルモノナル處國交樹立シ紛爭ノ調整ニ付協定セハ平和ノ爲可ナリト思考スルニ依リ外交官交換ノ實現ニ導クコト必要ト認ムル旨述ヘタル處先方ハ右

(一) ニ付テハ本使ノ述ヘタル所ヲ以テ本使ノ推測ニ出テタルモノナリト説キタル上先方ノ述ヘタル公式聲明並ニ回答ノミヲ考慮ニ容レラレ度シト述ヘ右ハ蘇政府ノ立場ヲ明ニスルモノナルニ依リ夫レ以外ニ通知スヘキコトナシト應酬シ

(二) ニ付テハ蘇側ニ於テ外蒙ヲ壓迫スルヲ得ストテ前言ヲ繰返シ

(三) ニ付テハ「ブイルノール」方面ノコトハ蘇側トシテ外蒙政府ノ名ニ於テ議論スルヲ得ス唯外蒙政府ノ發表スル所ニ依リ事情ヲ知ルノミナルカ同政府ハ其ノ有スル書類ニ基キ同方面ヲ其ノ領土ナリト主張シ居レリ

ト述ヘタル上

議論ヲ爲スモ益ナキニ付此ノ際日蘇双方ニ於テ盡力ヲ爲シ

紛争當事國ニ於テ委員會ヲ設ケ軍事衝突ノ原因ヲ調査スルコトト爲スヲ以テ極東平和ノ維持上必要且有益ト認ムル旨強調セルニ依リ本使ハ右兎ニ角東京ヘ報告スヘキモ滿洲里會談ハ國境事件ヲ契機トシテ開催セラレタルモ結局破裂ヲ見タル爲滿側ハ蒙側ヲ目シテ不都合ナリト爲シ滿洲里ヲ引揚ケタル次第故果シテ此ノ際滿側カ委員會案ニ賛同スルヤ否ヤ甚タ疑ハシキ旨ヲ告ケ國交樹立ヲ見ハ其ノ後ハ萬事好都合ニ進捗スヘシト考フルニ依リ蘇側ニ於テ此ノ點ニ付再考アリ度シト繰返シ一九二一年ノ援助トハ何等カ事件アリシヤ又ハ條約アリシ次第ナルヤ承知シ度シト述ヘ尙委員會ヲ設クトセハ形式上蘇側ハ参加セサルモノト考フル處日本側トシテハ滿側トノ共同防衛條約モアリ又日本兵力直接事件ニ關與セシ關係上當然参加スルコトナルヘシト思考スト述ヘタル處

先方ハ一九二一年蘇側ハ獨立ヲ希望セル外蒙政府ニ對シ援助ヲ與ヘタルカ此ノ種ノ援助ハ將來モ與ヘラルヘキ處條約存スルヤ否ヤノ點ハ本日返答スルコトヲ得スト逃ケ滿洲里交渉ハ日滿代表カ外交關係問題ヲ持出シ事態ヲ紛糾セシメタルカ國交樹立ハ必スシモ必要ニ非ス國境不定ナリトモ平

共ニ廣田外相ヘ傳達アリ度シト述ヘタルカ本使ハ我方ニ於テモ「ブイルノール」湖方面ニ七、八百ノ外蒙兵出現セル由ノ情報ヲ受ケタル處蒙側カ何故斯カル舉ニ出ツルヤ不可解ニシテ憂慮シ居レリト述ヘタル處先方ハ「ブ」湖ハ大体滿洲國領ナルモ其ノ一部分ハ外蒙領ナルヤニ記憶ス從テ外蒙兵力同方面ニ現ルルハ當然ノコトニテ之ヲ以テ外蒙側カ侵略的ナルカ如ク評スルヲ得ス蒙側カ開戦セントスト謂フカ如キ宣傳ハ信シ難ク八十萬ノ小國カ日滿相手ニ戰爭ヲ敢テセント謂フカ如キハ頗ル滑稽ナル話ナリト謂ヘルニ依リ本使ハ日滿側ニ傳ハレル所ニ依レハ蒙側ハ蘇聯ノ支援ヲ受ケ居レリトノコトニテ現ニ過般ノ衝突ニ際シ蒙軍ノ遺棄セル兵器中ニハ蘇聯製ノモノアリシ由ニテ日滿側トシテハ外蒙即チ蘇聯ナリト思惟シ居レリト語リタルニ先方ハ蒙軍カ蘇聯製ノ兵器ヲ有スルコトハ蒙側カ蘇側ヨリ武器ヲ購入シ居ルニ依リ事實ナルヘク格別不思議ニアラスト答ヘタリ尙本使ヨリ或ル情報ニ依レハ本月十八日午後三時「ゼーア」河ノ附近小黑河附近ニ無人島アリ滿洲國ノ領土トナリ居ル處蘇兵約四十名上陸シ之ヲ占領セル趣ナリ右ハ如何程迄確實ナルヤ不明ナルモ斯ル事件頻發セハ事態紛糾スヘキニ付

和關係ノ存スル例アリ現ニ蘇「ラ」關係、波蘭「リスニア」關係ノ如キ斯ル例ナリト説キ外交關係ノ件ハ複雑爲シ近時日本ハ極東平和策ヲ執ラルルモノト認ムルニ依リ蘇側ノ申出ニ賛同シ滿蒙委員會設立ニ盡力セラレンコトヲ切望スト述ヘ本使ノ問ニ對シ斯ル委員會ニ蘇側代表ヲ参加セシムルヤ否ヤノ點ニ付テハ未タ審議シ居ラサルニ依リ何等明答シ得スト答ヘタリ

滿ヘ轉電セリ

191

昭和11年2月22日

在ソ連邦大田大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

滿蒙間に国境紛争発生との外務人民委員代理  
の注意喚起に對し反論について

モスクワ 2月22日夜発

本省 2月23日後着

※※  
第一四二號

二十一日「ストモニヤコフ」ト往電第一四一號ノ會談ヲ終リタル後先方ヨリ情報ニ依レハ滿蒙國境方面ニ於テ又復日滿軍側ヨリノ攻撃行ハレ居ル由ニ付滿蒙委員會案ノコトト

取調ヘラレ度シト述ヘタルニ先方ハ赤軍所屬兵力滿領ノ島ヲ占領スルカ如キコトハアリ得サル次第ニテ蘇聯軍人ハ決シテ政治ニ關與セサルニ付斯ル行爲ヲ爲ス筈ナシ或ハ問題ノ島ハ蘇領ナルヤニ考フルモ取調ノ上次同二何分ノ回答ヲ爲スヘシト答ヘタリ

滿ヘ轉電セリ

192

昭和11年3月26日

廣田外務大臣  
在本邦ユレネフソ連邦大使 會談

長嶺子事件の原因に關し日ソ双方の見解主張  
について

(昭和十一、三、二十六)

廣田大臣「ユレネフ」大使會談要録

三月二十六日午後三時半「ユレネフ」大使廣田大臣ヲ來訪シ長嶺子事件ニ要談同五時半辞去セリ

大使 三月二十五日「ソ」滿國境ニ於テ極メテ悲シカルヘキ事件發生セリ即チ同日午前十時日本軍人「ソ」滿國境環春方面國境標識第八号ノ西方五十米「ソ」領内ニ侵入セルカ更ニ二百米マデ進出セリ「ソ」側國境警備隊ハ國境線ヨ

リ三百米ノ自國領内ニアリテ之ヲ發見セリ國境侵犯者ハ射撃ヲ開始シ五名ノ「ソ」側警備隊之ニ應射セリ三十分ニ亘ル交射ノ後日本側ハ「ソ」領内ニ戰死者將校一名(大尉)及兵一名ヲ殘シテ滿領内ニ引上ケタリ日本兵カ「ソ」領内ヲ移動セル際他二一名ノ將校アリシカ射撃始マルヤ滿領ニ引返セリ同日午後二時前記國境標識第八号附近ニ日本兵新ニ集中セラレ午後三時三十分五、六十名ノ日本兵ハ輕、重機関銃ヲ以テ同所ニ於テ越境シ二百五十米ノ地点ニ進ミ「バズイメンナヤ」丘ニ散開セリ右日本兵ハ掩護物ヲ利用シ銃輕、重機関銃ヨリ射撃ヲ開始セリ右射撃ハ「ソ」側國境警備隊ニ向ケラレタルノミナラス其ノ後方ニアル建物ニ向ケラレタリ「ソ」側國境警備隊ノ逆襲ノ結果日本軍ハ午後九時滿領内ニ引返セリ第二回ノ衝突ニ際シテハ双方ニ死傷アリ今回「ソ」側國境ノ侵犯ハ故意ノモノト思考セラル如何トナレハ三月二十二日ニモ同方面ニ六名ノ日本軍人「ソ」領内二百五十米ノ地点ニ侵入シ其ノ地点ヲ視察シテ滿側ニ帰レルコトアレハナリ前記ノ次第二テ「ソ」政府ハ本使ニ對シ我が方ニ對スル攻撃ニ付日本政府ニ抗議ヲ申入ルルト共ニ事件ノ調査及犯人ノ處罰ヲ要求スヘキ旨訓令シ來レリ

尚「ソ」政府ハ被害者ニ對スル損害賠償ノ追加要求ヲナス權利ヲ留保ス今回ノ攻撃事件ハ日本軍部ノ侵略的分子カ日「ソ」關係ヲ破壊セントスル企圖ヲ有スルコトヲ証明スルモノナリ尚本使ハ一月三十日事件ノ調査ニ關スル混合委員會設置ニ關シ三月九日「ソ」政府ヨリ大田大使ニ手交シタル案ニ對シ日本政府ノ回答遷延セルコトカスカル事件ノ新ニ發生スルヲ助長スルモノナルコトヲ「リマインド」致度シ然シテ前述混合委員會案ナルモノハ兩國政府間ニ主義上ノ諒解成立シタル上手交セラレタルモノナリ

大臣 三月二十五日ノ出来事ニ付テハ出先領事其ノ他ヨリ日本政府ニモ報告アリ其ノ要点ハ日本軍人カ数人見学ノ為國境ニ赴キタルニ對シ「ソ」側ヨリ無警告發砲シタルニアリ其後事件ハ双方兵ヲ増加スルコトナリ日本將校カ交渉ノ為出カケタルニ對シ更ニ「ソ」側ヨリ發砲シ事件カ段々擴大惡化セシモノナリ國境見学ニ行キタルモノヲ猥ニ無警告ニ狙撃スルカ如キハ甚タ乱暴ナルコトナリ右ニ付テハ既ニ大田大使ニ訓令シ「ソ」政府ニ對シ嚴重抗議セシムルコトトセリ此ノ機會ニ本大臣ヨリモ嚴重抗議スルモノナリ何レニスルモスル事件ノ擴大スルコトハ日「ソ」兩國ノ為甚

タ好マシカラサルコトナルニヨリ日本政府ハ事件ヲ擴大セサル様措置ヲ採リ居ルニ付「ソ」政府ニ於テモスル發砲事件ノ起ラサルハ勿論今回事件ノ拡大セサル様措置ヲ要求ス尚茲ニ附言シタキハ混合委員會設置ニ付日本側回答遅レ居ルコトカ今回ノ事件ト何等關係アルヤニ云ハルル所スルコトナシ貴使ノ云ハルル所ニヨレハ日本兵ハ二十五日ノ外二十三日ニモ同一場所ニ赴キタリトノコトナルカ若シ右ニシテ事實トセハ之同地方國境ノ不明確ナルコトヲ証スルモノニ非サルカ彈春方面國境ニ幾多不明ノ点アルコトハ本大臣ニ於テ承知シ居リ國境ヲ明確ニセンコトヲ度々提議シタルカ「ソ」側ハ其ノ都度之ニ反對セラレタリ貴使ノ云ハルル混合委員會等ノ問題ハ極メテ最近ノ事ナリ本大臣ハ既ニ久シキ以前ヨリ國境ヲ明確ニスルノ必要ニ付度々貴使及「ソ」政府ノ注意ヲ起シ居リタルコトヲ「リマインド」セサルヲ得ス

大使 國境見学ト云ハルルモ右ハ如何ナル目的ニ出テタルヤ本使ノ申シタル所ニヨリ事件ノ發生セル地点カ「ソ」側内ナルコト明白ナルカ其ノ点ニ付テハ貴大臣ニ於テ何等言及セラルル處ナシ國境不明ト云ハルルカ三月二十五日ニ起

レル再度ノ事件ハ何レモ標識第八号ノ處ナリ從テ不明ノ處ト云ハルルハ理由ナシ又交渉ノ為將校カ出カケタリト云ハルルモ如何ナル交渉ノ為ナリシヤ「ソ」政府ハ日本側抗議ハ理由ナキモノトシテ受付ケサルヘシ事件ハ日本側ニ於テサハ越境セサレハ拡大スルコトナシ「ソ」側ハ滿洲國境ヲ越境セス國境ハ條約ニヨリ明確ナリ然シ日本側ノ云ハルル所ニ「ミート」センカ為國境ニ於ケル平和維持ヲ條件トシテ「リデマルケシヨン」ニ反對セサルモノナリ要スルニ日本軍隊ニシテ滿洲國境内ニ止マル限り何等事件ハ起ラサルヘシ

大臣 今回ノ事件ノ起リシ方面ニ居ル軍隊ハ遠カラス日本ニ帰ルコトトナリ居ルモノトノコトニ付其ノ前見物シタルトノコトナラン又交渉ノ為將校ヲ派シタルハ事件カ大キクナリタル為ナラン

大使 見物ト云ハルルモ他國ノ領土ヲ見物トハ解シ難シ又交渉ノ為將校ヲ派シタリト云ハルルモスル場合為スヘキハ射撃ヲ止ムルコトナリト思考ス「モーロトフ」カ兩國關係カ今後好轉スヘキコトヲ述ヘタル際斯ル事件發生シタルコトハ兩國關係ニ暗影ヲ投スルモノナリ本日申シ上ケタル事

ニ付テハ慎重考量ヲ拂ハレ事件ニ處スル實際的結論ヲ發見セラルル様希望ニ堪エス

大臣 滿洲國內ニアル日本兵カ滿洲國內ヲ見学スルコトニ付貴大使ニ於テ云々セラルルハ早マリタルコトナリ要ハ事實ヲ明ニスルコト必要ナリ「モーロトフ」カ事態ヲ正解シタル意見ヲ述ヘタルハ喜フヘキコトナルモ「ソ」側出先部隊カ日本兵ニ向テ發砲スルナト「モーロトフ」ノ言辭ト出先ノ行動ト一致セサルハ遺憾ナリ

大使 「モーロトフ」ノ言辭ト出先ノ行動ト一致セサル旨ノ御言葉ニ對シテハ貴重ナル御時間ヲ御取リスルコトナルニ付何等申シ上ケサルベシ

尚「ソ」大使ハ本日会談中在東京「ソ」大使館ノ待遇問題ニ触レントシタルモ具體的ニハ申入レタル所ナシ

## 193

昭和11年4月1日 在滿洲國植田(謙吉)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

在ハバロフスク滿洲國領事館の設置は認める  
もさらなるソ連領内への滿洲國領事館増設は  
認めないとのソ連側文書手交について

換について

本機密第五三號

(6月27日接受)

昭和十一年四月二十二日

在「オハ」

副領事 村瀬 悌二(印)

外務大臣 有田 八郎殿

亞港ニ出張セル鑛山局長及外交代表ノ石炭利權ニ

關スル感想談等報告ノ件

當地鑛山局長「アバーゾフ」及外交代表「サフノーウイチ」ハ今冬東海岸ニ散在セル我石油利權試掘地方ヲ視察シタル後亞港ニ出張シ約四十日振リニ歸「オ」シタルカ右兩氏ハ本官ニ對シ我石炭利權ニ關スル感想トシテ左ノ如ク語リタリ

石炭利權ノ「ソ」國法規違反行爲及該地鑛山監督官ノ命令不履行等ニ關シテハ「ブラウダ」及「イズウエスチヤ」紙ニ依リ承知シ居リタルモ今般亞港ニ赴キ直接見聞セル所ニ依レハ石炭利權ト同地鑛山局トノ關係ハ技術的ニモ感情的ニモ相當惡化シ居レルコトヲ直感セリ石炭利權ハ容易ニ鑛山監督官ノ命令ヲ履行セス且頗ル非協調的

第二六五號

往電第二一九號ニ關シ

三月三十日在哈爾賓蘇聯邦總領事館秘書ハ滿洲國北滿特派員ヲ來訪シ要旨左ノ如キ文書ヲ手交セル趣ナリ

蘇聯邦政府ハ哈府ニ於テ滿洲國領事館カ一個増設セラルルコトニ同意スルモ右ハ客年十二月十二日附覺書(往電第八九號參照)ヲ以テ滿洲國政府ノ提起セル蘇領内滿側領事館増設問題カ之ニ依リ清算セラルルコトニ立脚スルモノナリ若シ滿洲國政府カ爾後更ニ領事館數ノ増加ヲ要求セハ蘇聯邦政府ハ本年二月十六日在哈爾賓總領事ノ爲セル聲明(哈爾賓發本使宛電報第四五號參照)ノ實施ニ着手スルニ至ルヘキ旨ヲ茲ニ通報ス

露ヘ轉電セリ

## 194

昭和11年4月22日 在オハ村瀬(悌二)分館主任より  
有田外務大臣宛

ソ連側専門家と我が方石炭利權に關し意見交

ナレハ近ク莫斯科ヨリ新鑛山局長來任スヘキモ兩者ノ融和ハ到底望ミ得サルヘシ而モ石炭利權ハ同地貴國總領事館ニ對シテモ相當非協調的態度ヲ持シ居レルモノ、如シ此ノ點「オハ」ニ於ケル石油利權ト我鑛山局トノ頗ル和協的良好關係ニ比スレハ雲泥ノ相違アリ云々

右ニ對シ本官ハ營利ヲ度外視セル「ソ」側國營企業乃至石油企業ト異ナリ石炭利權ハ從來炭況不良ノ結果永年缺損ヲ續ケ從テ事業ノ經營ニモ著シク困難ヲ感シ居リタル次第ナレハ煩瑣苛酷ナル「ソ」國法規ヲ杓子定規的ニ嚴重適用セラル、コトハ到底堪ヘ得ル所ニアラス石炭利權ノ態度モ結局右ニ基因スル結果ナルヘキモ今後ハ漸ク些少ナリトモ利益ヲ擧ケ得ルニ至リタレハ漸次好轉スルニ至ルヘシト應酬シ置キタリ

尙此ノ機會ニ最近ノ「オハ」ニ於ケル我石油利權ノ對外關係ヲ概述セン一言ニシテ云ヘハ石油利權及「ソ」鑛山局等ノ關係ハ前述鑛山局長自ラ語レル如ク頗ル良好又石油會社及當館トノ關係モ極メテ融和協調的ナリ現鑛山局長「アバーゾフ」ハ老年ノ穩健且常識アル地質學者ニシテ而モ從來兎角法規一點張ニテ非協調的ノ嫌アリシ勞働監督官及技

新 京 4月1日後発  
本 省 4月1日夜着

衛生監督官カ衛生監督官ト共ニ昨夏ヨリ鑛山局ニ隸屬スルコト、ナリ同局長ニ統轄セラル、ニ至リタル後ハ尙一層我石油利權ニ好都合トナリ各種技術、勞働上ノ紛議モ著シク減少シ假令紛糾生スルモ兩者ノ隔意ナキ談合ニ依リ大体妥結スルヲ常トスル有様ナリ他面石油會社ノ當館ニ對スル態度モ至ツテ良好ニシテ當館及會社事務所カ隣接セル地位的關係モアリテ常ニ公私共往來談合ノ機會多ク問題等惹起セハ會社側ヨリ直チニ當館ニ報告シテ援助ヲ求メ當館ニ於テハ積極的ニ之ヲ支援シ協力一致シテ「ソ」側ニ當ルコトモ出來對「ソ」交渉上モ甚タ好都合ナリ尙鑛山局長ノ語ル所ニ依レハ本年ヨリ當地鑛山局ハ規模擴張セラレ專任鑛山監督官ノ如キモ十二名ニ増加セラレ（從來ハ二、三名）地質專攻ノ技術者ヲ以テ之ニ充テラル、趣ナレハ我石油利權モ幾分面倒トナルヘキ様豫想セラレ居レリ

本信寫送付先 在「ソ」大使

在亞港總領事

195

昭和11年4月23日

在アフガニスタン北田（正元）公使より  
有田外務大臣宛（電報）

全ニ保障サレ喜ヒ居リ「コングレス」ノ社會主義的勢力ニモ不安ヲ感セス勢ヒ英蘇接近乃至利用ヨリ親日ノ方向ニ轉スヘク

又南京政府モ新疆方面ヨリ來ル蘇聯ト支那紅軍ノ聯繫ノ形勢<sup>(2)</sup>事實問題トシテ兩者間ハ距離モ遠ク且中間ニ種々障礙モアリ容易ニ有力ナル程度ニハ實現シ難シ怖レヲ爲シ眞ニ日支提携ニ目覺メ現在ノ不徹底ナル對日態度ヲ改ムル有力動因トナルヘク英國モ印度ノ外中支ニ擴張計畫中ノ權益ニ危險ヲ感スルニ至リ是等相俟テ東亞ノ現勢ヲ打開スル上ニ恐ラク効果アルヘシ尤右ハ我對支防共政策ニ背馳スヘキヲ以テ永久的ノ策ニハアラス將來新形勢ノ現ハルヲ俟チ第二ノ根本對策ニ移ルヘキモノトス

關係大公使ニ暗送セリ

196

昭和11年4月27日

有田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛（電報）

本年度北洋漁業を平穩裏に終了させるためソ連側の注意を喚起すべき諸点につき訓令

本省 4月27日午後8時0分發

日ソ間重要懸案をソ連側の大讓歩により解決する代償として日滿ソ間不可侵條約の締結を提案すべき旨意見具申

カブール 4月23日後發  
本省 4月24日着

第三七號（極秘）

<sup>(1)</sup>蘇聯代理大使探リノ爲來訪シタルカ日本ニハ貝加爾以東領有論モアリ蘇聯ハ之ヲ怖レ居リ國境協定ヲ滿蘇東部線以外ニモ擴メント欲スル譯ニテ今日蘇聯ニハ内部ニモ大問題アリ戰爭ハ出來スト語レリ公機密第七號ニ關シ新疆關係ノ一研究問題トシテ何等御參考迄ニ大体ヲ申進スル次第ナルカ此ノ際我方ニ於テ蘇聯ニ對シ重要諸懸案ヲ先方ノ大讓歩ニ依リ解決セシムル交換條件トシテ日、滿、蘇不可侵條約（蘇蒙問題モ適當ニ平和ニ解決シ「トルキスタン」等ヨリ西比利亞ニ増兵セシ部隊モ復歸セシム）締結方ヲ同時ニ審議スルコトヲ承認シテ問題ヲ有利ニ平和ニ解決シ自然ニ蘇聯ヲシテ新疆方面ニ方向ヲ轉セシムルトキハ英印ハ南新疆ヲ脅サレ（英、蘇關係ハ歐洲問題トモ關係スルモ目下英印側ハ印度及當方面ニ於テ日蘇ノ抗爭ニ依リ極メテ有利ニ安

第一三一號

本年度北洋漁業ヲ平穩裡ニ終了セシムルコトハ日「ソ」關係機微ナル現勢ニ鑑ミ大局上兩國當局ノ慎重考慮スヘキ次第ナルヲ思ヒ帝國政府ニ於テハ我當業者ノ指導及取締ヲ公正ニシ又素リニ「ソ」側ヲ刺戟スルヲ戒メ以テ紛擾豫防ノ措置ヲ講スル様關係官憲間ニ打合ヲ遂ケタルモ其ノ成果ハ一二懸ツテ「ソ」側ノ誠意如何ニアリ「ソ」側ニシテ不法行爲ヲ擅ニスルカ如キコトアリテハ我方ニ於テモ之ニ對抗セサルヲ得ス依テ「ソ」側ニ於テモ充分事態ノ真相ヲ認識シ戒心以テ善處セシムル必要アリ殊ニ以下氣付ノ點ニ付テハ「ソ」側ノ注意ヲ篤ト喚起シ置カレ度

「從來「ソ」側現地官憲（漁業、勞働、衛生、税關、保安）中ニハ漁業經營ノ實際ニ通セス訓練不足ノモノモアリ時ニ非常識極マル取締ノ勵行ヲ迫ルコトナシトセス二萬餘人ノ勞働者アル所ニ違反事實ノ若干生スルコトハ當然ナルヘキモ惡意アル取扱ハ之ヲ避ケ又過失的違反ニシテ情狀重カラサルモノハ訓戒ニ止ムル等（就中税關取締ニ於テ輕微ナル品目又ハ數量ノ誤差ヲ取立テ外界トノ交通皆無ナル漁場ヘノ陸揚ニ密輸入呼ハハリヲ爲ス如キハ常識

ヲ逸脱セルモノト認ム(適正ナル監督ヲ行ヒ尙又政府間ニ交渉中ノ諸懸案ト同種ノ事態發生セル時ハ之カ處理方ニ當リ「ソ」側ノ一方的見解ヲ以テ嚴ニ蒞ムヘキニ非スシテ慎重ヲ旨トスル方針ヲ樹立セシムル様努メラレタシニ沖取獨航船ノ領海侵犯ニ關シテハ企業合同ノ結果近來其ノ事例著ク減退シタルカ本年モ我方ニ於テ嚴重之ヲ取締ル方針ナルニヨリ本年ハ天候及故障ノ理由ナクシテ領海線ヲ侵スコトハ萬無カルヘシト考ヘ居リ從テ「ソ」側ニ於テ慎重ヲ缺ク際ニハ事端ハ寧ロ入會操業<sup>イリヤヒ</sup>ノ方面(例ヘハ客年ノ神寬丸事件)ニ發生スヘキカトモ想像セラル殊ニ貴信公普通第一〇八號報告ノ「ソ」側沖取工船ノ極東進出實現シ二十隻ノ附屬漁船出動スルニ於テハ訓練不足ノ爲其ノ操業區域(目下太平洋漁業カ遠慮シ居ル「ウス、カム」沖合トスレハ同社モ對抗措置ヲ必要トスルニ至ルヘシ)及操業方法(入會作業ヨリ來ル紛議ノ外條約漁業トノ振合關係例ヘハ附屬漁船ノ領海内作業、捕獲魚類ノ陸上加工、漁業根據地設定等ノ諸問題アリ)ノ如何ニ依リテハ幾多ノ紛議ヲ惹起スルニ非サヤト諸方面ニ於テ憂慮シ居レリ仍テ右沖取工船ノ操業計畫等取調可能ナルニ於

於テ操業セラレ既往ニ於テモ日「ソ」兩國間ニ諸種紛議ノ發生ヲ見タリ特ニ本年ハ關係條約ノ修正、滿洲國國境附近ノ諸事件等日「ソ」兩國間ニ機微ナル關係アリ傍ラ「ソ」ヴイエト」聯邦ノ極東海軍力擴充ト相俟チ同方面ノ事端發生カ國交上ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アルニ付テハ關係帝國官憲ハ連絡ヲ密接ニシ當業者ノ指導及取締ヲ適正ニシ又素ニ「ソ」側ヲ刺戟スルヲ戒メ以テ紛議豫防ノ措置ヲ講スルニ努ムルト共ニ帝國ノ正當ナル權益ヲ確保シ帝國臣民ノ生命財產ヲ保護スルカ爲ニハ必要ナル兵力ヲ配置シ確固タル態度ヲ以テ警備スルヲ要スルモノト認ム仍テ北洋漁業ノ保護及警備竝ニ之ニ關聯スル取締及連絡ハ左ノ要領ニ依ルコトトス

一、海岸及領海内(距岸三哩以内)ニ於ケル帝國臣民ノ保護及之ニ關聯スル對「ソ」交渉ハ帝國領事之ヲ主管シ帝國軍艦ハ自衛上必要ナル場合ノ外領海外ニ在リテ帝國領事ヲ支援スルモノトス

二、領海外ニ於ケル帝國臣民ノ保護ハ帝國軍艦之ヲ主管シ之ニ關スル涉外交渉事件發生シタルトキハ帝國軍艦ハ其ノ交渉及解決方ヲ帝國領事ニ移管ス但シ「ソ」側不法行為

テハ之ヲ明ニセラルルト共ニ我方懸念ノ諸點ニ付充分「ソ」側ノ注意ヲ喚起シ紛議豫防上萬全ノ策ヲ講セシメラレタシ

浦汐ヘ轉電シ哈府ヘ郵送セシメラレタシ

197 昭和11年4月30日

有田外務大臣、永野(修身)海軍大臣、島田(俊雄)農林大臣より  
広田内閣総理大臣宛

北洋漁業保護および警備に関する閣議請議

歐一機密第二五四號

昭和拾壹年四月參拾日

外務大臣 有田 八郎  
海軍大臣 永野 修身  
農林大臣 島田 俊雄

内閣總理大臣 廣田 弘毅殿

北洋漁業ノ保護及警備ニ關スル件

本年度北洋漁業ノ保護及警備ニ關シ左記ノ通特ニ閣議決定相成候様致度此段及稟請候也

記

我カ北洋漁業ハ「ソ」ヴイエト」聯邦及之ニ近接スル方面ニ

ニ對シテハ必要ニ應シ帝國軍艦實力ヲ以テ臨機處置スルモノトス

三、領海外ニ於ケル帝國當業者ノ取締ハ農林省官憲之ヲ主管シ特ニ「ソ」聯邦領海侵犯防止ニ關シ嚴重取締ヲ勵行ス帝國軍艦ハ右取締ニ關シ農林省官憲ト協力スルモノトス

198 昭和11年5月11日

有田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

北樺太石油会社による試掘に関しては期限到来後五年の作業継続をソ連側に承認させるべく交渉方訓令

第一五七號

本省 5月11日後8時発

(欄外記入)  
北樺太石油試掘期限延長問題ニ關シ過日「ユレネフ」ハ廣田總理ニ對シ「ソ」側ニ於テ猶考慮ノ餘地アルヤノ言ヲ洩セル次第アル處(往電第六五號)當方トシテハ試掘計畫ノ遂行上期限到来後五ヶ年ノ作業繼續ヲ希望スルモノニシテ既ニ商工省ニ於テハ「ソ」側ニ提出セル今年度ヨリ昭和十六年度ニ至ル會社ノ試掘計畫中十二井ニ對シ其經費ノ約半額

タル四百五十六萬圓ノ助成金交付案ヲ決定シ別ニ社債ニ對スル政府ノ元利保證及増資等ノ案ヲ立テ(面積狭少區域及南方三地方ニ付テハ「ソ」側ノ同意アリ次第別途助成金交付ヲ考慮ス)以テ從來試掘事業遅延ノ一原因タリシ費用ノ問題ヲ解決スルニ至リ會社トシテモ銳意計畫遂行ニ邁進スルノ決意ヲ示シ居レルカスル大規模ノ事業ニ於テハ當初ヨリ其完成ノ見通シ付キ居ラサル限り着手ニ多大ノ不安ヲ伴フ次第ニシテ事業半ニテ打切リトナル如キハ到底堪ヘ難キコトナレハ是非共今日ニ於テ五ヶ年ノ作業繼續ヲ承認セシムルコト肝要ナリ付テハ試掘期限モ今年末ニ差迫リタル此際本交渉ヲ促進スルコトト致シ度ク左記要領ニ依リ對「ソ」交渉ヲ開始セラレ當方要求貫徹ノ爲折角御盡力相成度シ

一、一般試掘作業繼續ノ問題ニ付テハ客年往電第九一號<sup>編註</sup>ノ通但シ試掘井着手トハ一九三六年十二月十四日迄ニ櫓ノ杭打ヲ完了セルモノ(夫モ劃定作業ト並行又ハ其以前ニモ杭打ニ着手シ得ルコトヲ希望ス)及昨年九月十三日利權本部ノ小宅ニ對スル回答ニ示サルル如ク一九三七年十二月末迄ニ開坑セルモノヲ指ス

回追加協定締結ノ方法ニ依リ本問題ヲ處理スルコトヲ提議スルニ際シ改メテ全四區域ニ付要求ヲ爲ス次第ナリ  
三、「ダーギ」「ナムビ」「ウエングリー」ノ三試掘地方ニ付テハ其地質的價值、地理的條件、資金關係等ヨリ今日迄試掘ニ着手スルコト不可能ナリシカ今般準備ノ見込付キタルヲ以テ試掘ヲ實施スルコトト致度キカ、地質調査ニ未タ不充ナル點アルニ依リ昭和十一年度ニ於テ、可及的速ニ地質ノ再調査ヲ行ヒ其結果試掘價值アリタリト認メラレタル地方ニ於テ、引續キ試掘ニ着手スルコトト致シ度ク、從ツテ三地方ニ付テハ特ニ調査ノ實施ヲ以テ、試掘作業ノ着手ト認メ試掘期限後ニ於ケル作業ノ繼續ニ付「ソ」側ノ同意ヲ取付タシ但シ此ノ場合モ他ノ試掘地方ニ於ケルト同シク作業ハ一九四一年中ニハ完了ノ豫定ナリ

本項ハ全然新規ノ提案ニシテ交渉上ノ困難ヲ豫想セラルル處、已ムヲ得サレハ面積狭少區域承認ヲ條件トシテ本提案撤回スルコトトモナルヘキモ差當リ本項ニ依リ交渉アリ度シ

四、前記二及三ニ付テハ今夏ノ事業期ニ着手ノ必要アルヲ以

ニ面積狭少區域(北「オハ」第三區、「エハビ」第五區、「クイドラニ」第二區及「カタングリー」第二區)設定問題ニ付テハ從來會社側ヨリノ數次ノ交渉ニ對シ「ソ」側ハスル區域ハ利權契約第十三條ノ規定ニ合セサルモノナルコトヲ理由トシテ頑トシテ應セサルモノナル處現行利契ノ文言ノミニ從ヘハ「ソ」側ノ言分ニ道理アルカ如キモ元來利契中試掘區域ノ大キサ及形狀ニ關スル規定ハ北京條約附屬議定書ニ根據ヲ有スルモノニアラス單ニ契約上ノ便宜ノ爲メ設ケラレタルモノナルカ一方右議定書ノ一千平方露里試掘權ニ關スル規定ノ精神ハ右地域全般ニ亘ル試掘開發ヲ認メ居ルモノニシテ利契ノ事實上ノ便宜的規定カ其ノ適用ニ當リ議定書ノ精神ト相容レサルカ如キ場合之ヲ修正シテ議定書ノ精神ニ合致セシムルコト妥當ナリト認ムルニ依リ四狹少區域設定ノ爲利權契約追加協定締結ヲ提議ス類似ノ場合ノ先例トシテ昭和八年北「バターシン」試掘地方ノ境界變更ノ追加協定アリ尙本問題ニ關シテハ昨年七月小宅ヨリ利權本部ニ對シ「エハビ」第五區及「カタングリー」第二區ノ二區域ニ關スル要求ヲ繼續シ他ノ二區ヲ斷念スル旨申込ミタル事アルモ今

テ遅クモ六月半頃迄ニ「ソ」側ノ意向ヲ明瞭ニセラレ度シ

(欄外記入)

商工省、海軍省、会社ト打合せズミ

編注 『日本外交文書』昭和期II第二部第四卷第180文書。

199 昭和11年5月18日 有田外務大臣より  
在滿州國植田大使宛

我が方軍人ないしは官憲が滿州國在住白系露人を反ソ活動に利用しているとのソ連側抗議  
に対し事実關係調査方訓令

歐一機密第五三七號

昭和拾壹年五月拾八日

外務大臣 有田 八郎

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉殿

在滿白系露人ノ所謂反「ソ」活動ニ關シ「ソ」聯

邦大使申出ノ件

四月二十八日在京「ソ」聯邦大使堀内次官ヲ來訪シ在滿白系露人ノ所謂反「ソ」活動及之ニ對スル在滿日本軍憲ノ所謂援助ニ關シ別添譯文ノ如キ覺書ヲ手交シ其概要ヲ述ベタル上「ソ」政府ノ訓令ニ依リ右ニ付苦情(レ)プリゼンテイション(レ)ヲ申入ルルモノナリト述ベタリ依テ次官ハ「ソ」側調査ノ結果ノミニ基キテ議論ヲナスコトハ不可能ナレバ取調ノ上回答スルコトト致度キガ在滿新聞ガ反「ソ」宣傳ヲ行フト云フモ「ソ」聯邦新聞ハ屢々日本ニ關シ煽動的記事ヲ掲載スト應酬シ在滿白系露人ノ對「ソ」關係ニ付質問セル處同大使ハ白系露人ハ「ナンセン」旅券ニ依ル無國籍者ナリ又「ソ」側新聞ノ方針ハ對日平和善隣關係ノ保持ニ在リト答ヘタル趣ナリ就テハ前記覺書ノ内容ニ付テハ更ニ先方ヘ應酬ヲ要スルニ付委細別添譯文ニ付御承知相成在滿新聞及「ラヂオ」ノ反「ソ」宣傳、白系露人ノ入「ソ」及右ト我軍憲及「ハルビンスコエヴレミヤ」紙編輯長トノ所謂連絡等ノ點至急御取調ノ上御回報相成度

(別添)

セラレタリ。日本臣民近藤ニ屬スル北滿鐵道東部線ニ於ケル森林利權區域ニハ五十名ノ露國「エミグランツ」ヨリ成ル警備隊アリ等々、最後ニ在哈爾濱日、滿官憲承知ノ上ナルカ又許可ノ下ニ露國白系「エミグランツ」幹部養成ノ爲メノ學校、軍事團體等ヲ包有スル軍事「エミグランツ」同盟創設セラレタリ。

此ノ牽制運動者及「テロリスト」幹部養成ノ課題ニ役立ツモノハ滿洲ニ於テ新聞ニ依リ又新京及哈爾濱ニ於ケル官營「ラヂオ」放送局ヲ通シテ行ハレツツアル露語ヲ以テ「ソ」聯邦ニ於ケル合法的政權ニ對スル「テロル」及牽制運動ヲ呼掛クル組織的反「ソ」宣傳ナリ滿洲ニ於テ印刷物及「ラヂオ」放送ノ嚴格ナル檢閲カ存スル限り此ノ宣傳ハ當該日本及日、滿官憲ノ承知ノ上及認可ノ下ニノミ實現セラレ得ルモノナリ。

次ニ種々ノ「ソヴィエト」裁判機關ノ豫審材料及判決ニ依レハ一點爭ノ餘地ナク明白ニ滿洲ノ日本軍憲カ「ソ」聯邦領土ニ於ケル牽制運動及「テロ」行爲組織ニ直接、指導的ニ參加シ居ルコトヲ認ムルモノニシテ駐日「ソ」聯邦大使館ハ下記ノ事實ヲ引用シ得ヘシ。

覺書

日本帝國政府ニ對シ一九二五年一月二十日日本及「ソヴィエト」聯邦間北京協定第五條ト完全ニ背馳スル在滿日本軍憲ノ許シ難キ反「ソ」活動ノ多數ノ事實ヲ一再ナラス通報セリ、次ニ述フヘキ新事實ハ其活動力最近強化セラレ滿洲領土ニ於テ「ソ」聯邦ニ對スル激シキ牽制工作カ構成サレ居ルコトヲ證スルモノナリ。

日本軍憲ハ其反「ソ」工作ニ於テ屢々滿洲ニ居住ノ露國「エミグランツ」白衛兵ヲ利用シ「ソ」聯邦領土ニ於テ「テロル」及牽制行爲ヲ行フカ爲メ彼等ヲ直接若クハ間接ニ組織シ右ノ目的ヲ以テ彼等ヲ「ソ」聯邦國境ヲ越境セシムル等ノコトヲ爲シ居レリ、反「ソ」牽制運動者及「テロリスト」幹部養成法ノ一ハ在滿日本軍憲カ日本若クハ滿洲政府機關ノ費用ニテ生計ヲ立テ居ル露國白衛兵ヨリ武裝軍隊若クハ警察隊ヲ組織スルニ在リ、斯クテ北滿鐵道「ボグラーニチナヤ」驛ニハ五十名ヨリ成リ組織的軍備ヲ行ヒツツアル特別混成露人警察隊存在シ、一九三五年六月二十四日濱江省警察廳三十三名ノ露國白衛兵ヨリ成リ「匪賊行爲トノ鬭爭ノ爲メノ特別警察隊」ニ入ルヘキ特殊團體創設

「一九三五年八月三十一日及九月一日ニ「イルクーツク」ニ於テ開カレタル「ソ」聯邦最高裁判所軍事委員會巡回裁判部ハ豫審ニ依リ次ノ事(以下判決拔萃ヲ載ス)ヲ決定セリ

「一九三五年東部西伯利地方ニ於テ時期ヲ異ニシ武器、燒夷彈及反革命文獻ヲ所持セル白衛兵「イノケンチー、ワシーリエヴィチ、コプイルキン」及「エウラムビー、ルキヤノヴィチ、ペレラードフ」拘禁セラレタリ、同人等ハ密偵竝牽制運動及「テロ」行爲遂行ノ目的ヲ以テ非合法的ニ滿洲ヨリ「ソ」聯邦領土ニ侵入セルモノナリ夫ヨリ後レテ一九三五年五月末、後員加爾ニ於テ越境ノ際「ビクトル、ワシーリエヴィチ、オレイニコフ」拘禁セラレタルカ同人モ又國境警備隊哨所襲撃ノ際殺サレタル「ミハイル、オレイニコフ」及「クストフ」ノ兩「テロリスト」ヲ伴ヒ非合法的ニ「ソ」領ニ侵入セルモノナリ、死亡者及「ヴィクトル、オレイニコフ」ノ身体ヨリ拳銃、毒物及反革命文獻發見セラレタリ事件ノ材料及被告自身ノ自白ニ依リ「コプイルキン」ハ白衛軍大佐ナルコト及「テレラードフ」ハ白衛軍少尉ニ

シテ極東ニ於ケル白衛軍徒黨崩壊後一九二二年ヨリ一九三五年迄北滿ニ於テ「エミグランド」ニ屬シ各種白系「エミグランド」反革命團體員タリシモノニシテ此等團體ノ外國干涉、資本主義ノ援助ニ依ル「ソヴィエト」政權ノ顛覆、帝政復歸ノ目的ノ爲メノ對「ソ」聯邦軍事襲撃準備事業ニ直接参加シ居リタリ」

「露國軍事總同盟極東部指導者ノ一人トシテ此ノ目的ニ於テ反革命ヲ自發的ニ行ヒ又某強國ノ牒報機關ヨリ課セラレタル使命ニ依リ行動ヲ爲シタル「コプイルキン」ハ右機關ノ密偵タリ、又彼「コプイルキン」ハ右ノ外警察ニ於テ責任アル地位ヲ占メ密偵竝牽制運動及「テロ」行爲遂行ノ目的ヲ以テ武裝徒黨、武器及各密偵ノ滿洲ヨリ「ソ」領ヘノ越境ヲ幫助シ又自身之レニ携ハリ居タリ斯クシテ「コプイルキン」ノ監督官ノ職ニ止マリシ間ニ札來諾爾驛ニ於テ滿洲ヨリ「ソ」領ヘ五ケノ武裝徒黨送り込マレタリ

一九三五年一月「コプイルキン」ハ在哈爾賓某國特務機關秘書ノ命ニ依リ滿洲里某國特務機關長承知ノ上密偵竝牽制運動及「テロ」行爲遂行ノ目的ヲ以テ白衛兵「ペレ

ラーロフ」ヲ「ソ」領ヘ送込ミタリ

同様ノ反革命的の目的ニテ又在哈爾賓特務機關秘書ノ命竝滿洲里特務機關長ノ援助ノ下二一九三五年三月「コプイルキン」自身「ソ」側ヘ武裝越境ヲ爲シタルカ「モーゼル」拳銃二挺、「アストル」式拳銃一挺、倉庫及防護の建築物焼却ノ爲メ焼夷彈及多數ノ反革命文獻ト共ニ拘禁セラレタルモノナリ

某國密偵及反革命團體代表ノ「ソ」領ヘノ送込武器送込及情報入手ニ「コプイルキン」ヲ助ケタル者ハ「ヴィクトル、オレイニコフ」ナルカ同人ハ既二一九三三年ヨリ「シリニコフ」將軍ヲ經テ在哈爾賓某國特務機關ト連絡アリタリ

露國軍事總同盟極東部長ニシテ同時ニ前記哈爾賓特務機關ノ密偵タリシ「シリニコフ」將軍カ一九三四年死後露國軍事總同盟白衛團體ノ指導權カ「コプイルキン」ニ移リタルトキ「ヴィクトル、オレイニコフ」ハ同人ノ命竝ニ直接に哈爾賓特務機關秘書及在滿洲里、海拉爾特務機關長ノ命ニ依リ行動ヲ開始セリ

再三越境ヲ爲シ且「ペレラーロフ」、「クストフ」、「ミハ

イル、オレイニコフ」及「コプイルキン」自身ヲモ送込メル「ヴィクトル、オレイニコフ」ノ援助ノ下ニ「コプイルキン」ハ「テロ」ノ目的ヲ以テ拳銃十二挺及多數ノ藥包、牽制目的ノ燒夷彈十個、牒報目的ノ寫眞機、「フィルム」及「テロ」目的ノ毒物「ストリキニーネ」及「アトロピン」ヲ「ソ」領ヘ送込ミタリ、「ソ」聯邦領土ニ於テ密偵及牽制運動、「テロ」目的ニ充テラレタル總テ之等ノ資材ハ「コプイルキン」自身ノ自白竝「ペレラーロフ」及「オレイニコフ」ノ供述ニ依レハ「コプイルキン」カ在哈爾賓及滿洲里某國特務機關ノ公式代表者ヨリ直接若クハ「ハルピンスコエ、ヴレーミヤ」紙編輯長大澤ヲ經テ受取リタルモノナリ「コプイルキン」ハ彼等ヨリ反革命爆破作業實行ニ對シ金錢ヲ受領シ居タリ」

「ソ」聯邦最高裁判所軍事委員會巡迴裁判部ハ上記ニ基キ有罪ト認メ「イ、ヴェ、コプイルキン」、「エ、エル、ペレラーロフ」及「ヴェ、ヴェ、オレイニコフ」ニ對シ銃殺ノ判決ヲ下セリ

巡迴裁判非公開裁判ニ於テ被告ハ次ノ供述ヲ爲セリ、「コプイルキン」ノ申立

「私及總テノ被告カ「某」ト稱セル國ハ日本ナリ、私カ命ヲ受ケタルハ在哈爾賓日本特務機關秘書津田、在滿洲里日本特務機關長櫻井及在海拉爾日本特務機關長齋藤及「ハルピンスコエ、ヴレーミヤ」紙社長大澤ヨリナリ」「ペレラーロフ」ノ申立

「私カ豫審ニ於ケル供述ニ於テ反革命團體カ某國特務機關ト關係アリト述ヘタルハ日本ヲ意味セルナリ

「ソ」聯邦ヘ送込ノ徒黨カ準備セラレタルトキハ常ニ日本特務機關ノ公式代表者之レニ参加シ越境ヲ認可セリ、右ハ私カ越境ノ希望ヲ表明シ「コプイルキン」カ私ノ越境ニ同意セル時私ハ本問題ニ付日本特務機關秘書ト交渉シ同秘書ヨリ日本特務機關ノ牽制「テロ」及偵察、牒報ノ特別ノ使命ヲ遂行スルノ職務ヲ與ヘラレ而シテ私ノ越境カ在滿洲里特務機關長櫻井及在哈爾賓特務機關津田ニ依リ認可セラレタルコトニ依リ確認セラルヘシ」

「オレイニコフ」ノ供述

「哨兵線ノ背後ニ在リシ私ハ在哈爾賓日本特務機關秘書津田、在滿洲里特務機關長櫻井、警察廳監督官タル「チモフェーエフ」一同人ハ同時ニ日本特務機關ノ秘書從事

員タリ一及在哈爾賓刑事部監督官「リーリコフ」ト關係セリ

私ハ津田及櫻井ニ情報ヲ交付シ同人等ヨリ使命ヲ受ケタリ、之レニ對シ同人等ハ私ニ金錢ヲ拂ヒタリ、「モーゼル」拳銃ハ津田ヨリ受領セリ、

三、一九三五年十月二十六日「ポルタフカ」村ヨリ東北方ノ地方ニ於テ「ソヴィエト」國境監視人哨隊ニ對シ滿洲ヨリ「ソ」聯邦領ヘ越境セル六名ノ鮮人ヨリ成ル武裝團衝突シ來レリ、彼等ヲ抑留セントセシ國境監視人ニ抵抗セント試ミタル右徒黨ハ砲火ヲ開キ交戦ノ結果内二名殺サレ、二名ハ負傷セリ、爾餘ノ二名ハ交戦ノ際逃亡セルモ同地附近ニ於テ他ノ哨隊ト出會セリ、發見セラレタル彼等ハ再ヒ砲火ヲ開キ哨隊之レニ應シ右ノ内一名ハ瀕死ノ重傷ヲ負ヒ殘一名ハ逃走セリ、被殺及負傷セル鮮人ノ体ヨリ反革命文獻一包、「ブラウニング」拳銃二挺、「モーゼル」拳銃二挺、軌條接合分解用「スパナー」及軌條ヲ枕木ニ固着セシメ居ル曲釘引拔用ノ破壊機發見セラレタリ、負傷セル被拘禁牽制運動者ハ「キム、イ、セブ」及「パク、エン、ハ」ト自稱シ居レル者ナルカ彼等ノ一味

徒黨カ在三岔口日本特務機關ニ依リ組織サレ鐵道破壊及列車顛覆ノ目的ヲ以テ「ソ」聯邦領土ヘ送ラレタルモノナルコトヲ供述セリ、同人等ノ供述ニ依レハ右軍事機關ニ依リ七、八名ヨリ成ル第二ノ徒黨カ組織セラレ之レヲ最初ノ一味カ歸還後五、六日ヲ經テ「ソ」領ヘ送達マン

トノ計ナリシナリ、  
三、極東特別赤旗軍法會議ハ一九三六年一月二十日ヨリ二十五日迄「ハバロフスク」市ニ開廷、二十一名ノ被告ノ事件ヲ審議セルカ右ノ内ニ露國「エミグラント」白衛兵「セミヨン、ゲオルギー」鮮人「リン、シェン、ド」「キム、イ、セブ」「パク、エン、ハ」「チュ、フヴァ、スン」「オ、ギユ、ヘン」「リ、エン、グイン」「リム、ソン、ハク」其他アリ、軍法會議ハ被告ノ大多數カ一九三五年八月、九月及十月滿洲ヨリ「ソ」聯邦領土ヘ越境セル牽制運動、諜報者團ニ入り居タルモノナルコトヲ確認セリ、此等團體ノ越境目的ハ偵察ノ實行、極東地方烏蘇里及沿海州ニ於ケル密偵機關ノ扶植及牽制行爲ノ遂行ニ在リタリ、被告ノ供述ニ依レハ在三岔口日本特務機關、殊ニ同機關員水野カ之等ノ團體ニ武器、牽制事業ノ資

材、防護の建築物撮影ノ爲メノ寫眞機ヲ供給セリ、一九三五年十月二回ニ亘リ牽制運動團員トシテ「ソ」聯邦領土ヘ越境セル被告「キム、イ、セブ」及「パク、エンハ」ハ例ヘハ烏蘇里鐵道ノ重要地點ニ於ケル鐵道路盤破壊ノ委囑ヲ受ケ居タリ

總テノ被告ハ有罪ナルコトヲ認メ極東特別赤旗軍法會議ニ依リ夫々異リタル刑罰ヲ課セラレタリ

東京 一九三六年四月二十八日

200

昭和11年5月28日

在滿洲國植田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

在ソ連滿洲國領事館増設問題ならびに紛争處理および國境確定問題に関する滿洲國外交部  
解決方針について

新 京 5月28日後発  
本 省 5月28日夜着

第四六九號

往電第四五一號ニ關シ

領事館増設問題ニ關スル外交部方針ハ左ノ通り決定セリ

一、下打合ノ當初ニ於テ滿洲國カ同數且多數主義ヲ絕對ニ堅持シ而シテ蘇側ニシテ之ニ應セサルコトハ平和親善ノ誠意ナキモノト認メアルコト及紛争處理ノ圓滑公正ヲ期スル爲必要トスル旨ヲ明確ニ先方ニ傳ヘ之カ爲差當リ哈府及「ニコリスク」(又ハ「グロデコオ」)ニ領事館増設ヲ強く希望スルコト(滿洲國ニ於テハ紛争處理委員會設置ニ對シ先決條件ト爲シ居ルカ如キ口吻ニテ)ヲ蘇側ヘ申出テ出來得ル限り豫メ蘇政府ノ同意ヲ取付クルニ努ム

二、滿洲國ニ於テハ右ト別個ニ此ノ機會ヲ利用シテ蘇側ニ對シ領事館増設交渉ヲ再開ス

三、第一項交渉ノ結果蘇側カ同意ヲ與ヘストモ國境劃定及紛争處理ニ關スル事務的話合ハ之ヲ進メ愈紛争處理協定案ノ審議ニ入り其ノ構成問題ニ移リタル際滿洲側ノ強キ希望トシテ領事館増設ノ實現ヲ計ル

四、蘇側ニ於テ若シ飽迄領事館増設問題ヲ受諾セサルニ於テハ滿洲國內ニ於ケル蘇側領事館ヲ在蘇滿洲國領事館ト同數(全廢ヲ含ム)ニ閉鎖セシム

五、右ノ爲紛争處理委員會決裂ニ陥ル場合ニ於テモ決裂ハ我ヨリ進ンテ之ヲ行ハス蘇側ニ其ノ「イニシヤチーブ」ヲ

取ラシムル如ク指導ス

六、尙爲シ得レハ國境劃定問題ヲ先ツ決定スルニ努メ領事館増設及紛争處理解決ニハ相當時日ヲ要スルコトアルモ暫ク之ヲ忍ブコトトス

七、領事館全廢ノ場合ニ於テハ滿洲國ニ關スル交渉案件ヲ日本側ニ於テ取上ケサルコト

201 昭和11年6月8日 在滿洲國植田大使より  
有田外務大臣宛

滿洲國において白系露人が反ソ活動に利用されてゐるとの嫌疑は事實無根の旨同国外交部  
および関東軍回答について

付記 作成日不明、欧亜局第一課作成

「在滿白系露人等ノ反「ソ」活動ニ關スル」  
「レネフ」大使抗議ニ對スル回答案」

公機密第九四四號 (6月15日接受)

昭和十一年六月八日

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉(印)

ヲ申込メル態度ハ日蘇親善ニ對スル誠意ヲ疑ハシムルモノアリ

三、滿洲國ハ獨立セル國家ニシテ純然タル同國內ノ事項ニ關シ日本ニ苦情ヲ申込ムハ筋違ヒナリ直接滿洲國ニ申込マレタシ

三、國家機關タル蘇聯紙ノ反日滿宣傳ハ自由主義的立場ニ立ツ日滿新聞紙ト同一ノモノニアラス、日滿側ニ反「ソ」記事ト目スルモノアリトセハ夫ハ蘇側カ常ニ色眼鏡ヲ以テ之ヲ見ルカ爲ニシテ決シテ反「ソ」ニアラス

但シ蘇側カ極端ニ秘密主義ヲトリ萬事ヲ隱蔽シアル爲事實ノ認識ニ於テ異ルコトアルハ已ヲ得サルヘク接壤國ニ於テ一方カ秘密ノ黑幕裡ニアル時往々如斯結果ニナルコトハ日滿ノ如キ新聞組織ニ於テハ免レ難キコト、ス宜敷蘇側自ラ虚心坦懷誤解ヲ生セサル如ク實情ヲ開放スルニ於テハ萬事氷解スルモノト信ス

四、蘇側カ滿洲國內ニ密偵ヲ派遣シ「テロ」ヲ行ヒ或ハ匪賊ヲ操縱援助シ工作員ヲ養成シアル等ノ事實ハ歴然タリ之等ハ滿洲國側ヨリ抗議シアルヘキモ共同防衛ノ立場ニ於テ帝國トシテ黙過シ能ハサル所ナリ

外務大臣 有田 八郎殿

在滿白系露人ノ所謂反「ソ」活動ニ關シ「ソ」聯邦大使申出ノ件

本件ニ關スル客月十八日附歐一機密第五三七號貴信御申越ノ趣了承早速軍及外交部ニ照會致シ置キタル處今般軍ヨリ別紙寫「回答」ノ通回報越セリ軍係官ハ右「回答」中三ノ如キハ實ハ蘇聯紙記事ニ對スル蘇政府ノ責任タル到底日本新聞記事ニ對スル帝國政府ノ責任トハ比較シ得サルモノアルニ依リ更ニ之ヲ強調スルノ必要ヲ認メタルモ他方右ハ兼テ日本側ヨリ蘇側ニ對シ強硬ニ突込ミタルコトアルモノナルニ依リ此ノ點ノ強調ハ特ニ差控ヘタルモノナル旨ヲ説明シ居レリ

尙外交部ハ本件ニ關シ軍ノ回答以外何等附加スヘキモノ無之趣ニ付右ニ御了承相成度シ

(別紙)

回 答

一、骨子

一、蘇側カ無根ノ事實ヲ捏造シ又ハ事實ヲ歪曲變形シテ苦情

三、事實ニ就テ

一、日本軍憲カ白系露人ヲ利用シ「テロ」及牽制行爲ヲ行フ爲蘇聯內ニ越境セシメアリト誣ヒ「イルクーツク」及哈府軍法會議ノ記事ヲ實例トシテ舉示セルモ之等ハ事實無根ニシテ日本軍憲ニ於テ行ヒタルコト無キハ曩ニ本件ニ關スル蘇側抗議ニ答ヘタル所ノ如シ蘇側カ事實ヲ捏造シテ我ヲ誣告スル態度ハ遺憾ニタエス

三、滿洲國人タル白系露人ノ件ニ關スル苦情ハ滿洲國政府ニ關スル問題ニシテ日本ノ干與スル所ニアラス抗議スヘキ件アラハ直接滿洲國ニ申出ツヘシ日本ニ對シ行フハ筋違ナリ

但シ日本軍憲等ニ於テ白系露人ノ「テロ」牽制行爲ヲ指導養成シアル如ク云ヘルハ事實ヲ歪曲スルモ甚シキモノナリ

三、新聞ニ關スル抗議ハ已ニ再三述ヘタル所ノ如シ(太田大使ヨリモ先般此ノ件ニ關シ詳細回答シアリ)日本側ニテハ反「ソ」宣傳等ヲ行ヒタルコトナク蘇側カ云ヘル所ハ色眼鏡ニアラサレハ事實ヲ故意ニ歪曲セルモノナリ但シ接壤國タル蘇側カ極端ナル秘密主義ヲトレル爲事實

(欄外記入二)

「ソ」側ハ我在滿軍憲カ反「ソ」「テロ」行為及牽制行為ノ實行者ヲ養成スル為白系露人ヨリ成ル武裝軍隊若クハ

(欄外記入一)

逐ケタル結果左ノ通回答スルヲ得ルニ至レリ  
「ソ」側ハ我在滿軍憲カ反「ソ」「テロ」行為及牽制行為ノ實行者ヲ養成スル為白系露人ヨリ成ル武裝軍隊若クハ

(付記)

在滿白系露人等ノ反「ソ」活動ニ関スル

「ユレネフ」大使抗議ニ對スル回答案

ノ認識ニ差違ヲ生スルコトハ已ヲ得サルヘク殊ニ滿洲國ニ對シ同數ノ領事館サヘ設置セシメサルカ如キ現在ノ態度ニ於テ滿洲國側ノ認識カ蘇側ノ夫レト相違スル無キハ保シ難カルヘシ  
「ラヂオ」ハ滿洲國政府ノ所管ニ屬スルモノニシテ日本ニ對シ兎ヤ角イフハ筋違ナリ直接滿洲國ニ抗議セラルヘシ

四月二十八日「ユレネフ」大使ヨリ堀内次官ニ對シ我在滿軍憲カ白系露人ヲ組織指導シテ反「ソ」活動ヲ行ハシメ居ル事實及在滿新聞紙及「ラヂオ」カ反「ソ」宣傳ヲ行ヒ居ル事實ナルモノヲ學ケテ「レブレゼンテーション」ヲ提出セラレタル處、帝國外務省ハ本件ニ付現地ニ照會シ調査ヲ

モノトシテ回答シ為念別添露訳ヲ手交シ「ユ」大使ニ轉達セシムルコトニ取計ヒ度シ

202 昭和11年 6月24日 在アフガニスタン北田公使より  
有田外務大臣宛(電報)

ソ連の内情は各地方とも不安定であり東シベリアへの増派も補給困難に陥り内部不安を増すとのアフガニスタン首相の観測について

カブール 6月24日後発  
本省 6月25日前着

第六三號

六月二十三日當國總理大臣ノ内話左ノ如シ  
對伊國制裁失敗シ國際聯盟ノ改組問題起リ當方面諸國トシテハ個々ニ新情勢ニ應スル今後ノ外交方針ヲ考慮スルノ必要ニ迫ラレタルカ九月ノ總會ニハ外務大臣ヲ派シ真相ヲ見極メシムル積リナリ何レニシテモ益々日本ト接近シ互ニ亞細亞民族ノ提携ヲ圖ルコト一層必要トナレリ  
蘇聯ノ内情ハ各地方トモ不安定ヲ増シツツアリ最近當地ニ歸任セル土耳其大使モ右同様本國政府ニテモ觀測シ居ル旨

警察隊ヲ組織シ居レリト主張セラルルモ我在滿軍憲カ反「ソ」運動實行者養成ノ目的ヲ以テ此種軍隊若クハ警察隊ノ組織指導ニ参加シタル事實無シ

ニ、滿洲國ニ於ケル新聞紙並ニ「ラヂオ」ノ監督檢閲ハ專ラ滿洲國政府ノ權限ニ屬スル處ナルヲ以テ右新聞紙若クハ「ラヂオ」ノ言説ニ関シ帝國政府ニ抗議ヲ提出セラルルハ筋違ニシテ本件ニ付テハ帝國政府トシテ回答スルノ限ニ在ラス

三、白系露人及朝鮮人カ密偵、宣傳及「テロ」工作ノ為ニ「ソ」領ニ潛入シ且本件ニ我在滿軍憲ガ關係シ居レリトノ「ソ」側主張ニ付テハ我在滿軍憲ニ於テ此種白系露人及朝鮮人ヲ使喚シ「ソ」領ニ潛入セシメタルカ如キ事實絶對ニナシスル根據無キ誹謗ニ對シテハ我方ヨリ嚴肅ナル抗議ヲ提出スルモノナリ

(欄外記入二)

昭二一、九、一〇、「デイチマン」ヘ回答、露訳手交済

(欄外記入二)

加瀬課長ヨリ「デイチマン」一等書記官ニ對シ上司ノ命ニ依ル

内話セリ蘇聯邦カ新憲法政治ヲ行ヒ行クトセハ其ノ結果再ヒ革命分解作用起ルニ至ルヘク此ノ方法ニ依リ首腦部ノ考フル國內時艱ノ打開ハ至難ナルヘシ東西比利亞増兵モ兵員急増ト共ニ補給難ニ陥リ内部不安ヲ増スモノト思ハル二日前在南新疆諜報者ヨリ接受セル報告ニ依レハ英國ハ此ノ程西藏經由「レイ」羅多克(東寧、和闐兩軍)互ニ妥協セシメタリニ意外ニ多量ノ小銃、機關銃等ヲ與ヘタル由ニテ喀什噶爾ノ蘇聯側ハ脅威ヲ感シ同地ヲ支那側ニ委セ漸次北方ニ後退說擡頭シ居レリト云フ  
本電寫關係先ニ暗送セリ

203 昭和11年 7月17日 在ソ連邦大田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社社長より労働者比率問題に関する我が方要望通報について

モスクワ 7月17日後発  
本省 7月18日前着

第五〇七號  
左近司社長ヨリ北樺太石油ヘ

外四號(十七日)

來ル十九日申入ルル豫定ナル覺書概要左ノ通ナリ

試掘ニ關スル我方要望カ此ノ際完全ニ容認セラルヘキコトヲ確信シ其ノ前提ノ下ニ今次彼我ノ間ニ展開セラレタル三問題ニ對シ互讓の妥結點ヲ開示スト前置シ

試掘期間中暫定的ニ日露労働者ノ比率ヲ六〇對四〇トスル我方要望容認ヲ條件トシテ次ノ如ク考慮ス

A、利權ノ規定ニ拘ラス労働者ハ先ツ現地ニ於テ募集シ更ニ浦潮ニ於テ補充雇入ヲ爲ス

B、適材適所使役主義勵行ノ要望ヲ尊重ス

C、季節労働者中經驗實力ニ於テ適職ト認ムルモノハ之ヲ常雇ニ轉用ス

D、應募者採用ニ當リ行ハルヘキ銓衡考查ハ利權者當然ノ權利トシテ之ヲ確保ス但シ現地ニ於ケル試験ハ之ヲ廢止ス

E、常雇労働者家族收容ハ主義的ニ同意ス但シ左記條件ヲ附ス

(一)其ノ設備ハ毎年漸ヲ追フテ増加ス

(二)當分ノ間現狀ニ準スルニ家族一部屋割當トス

石油利權商議ノ成行ニ關シテハ累次ノ左近司社長發會社宛電報ニ依リ御承知ノ通ナル處労働者ノ比率問題ハ會社ノ採算上極メテ重視スル點ナルヘキモ會社ノ要望ハ利權ノ規定ヲ逆ノ方向ニ改正セントスルモノニシテ當國當局殊ニ職業組合ニシテ其ノ立場上到底容諾スヘシトハ思ハレス然ルニ今右要望ヲ撤回シ住宅問題其ノ他ニ關スル蘇側希望ニ對シ會社側カ好意的考慮ヲ拂フヘキヲ約スルニ於テハ蘇側トシテハ會社側ノ試掘ニ關スル三要望ヲ受諾スヘキ内意ヲ仄シ右ニ付閣議ニ上程ノ用意アル旨言明セル趣ナルカスル好機ヲ逸セハ本件ノ解決ハ漸次ニ遷延ヲ餘儀無クセラルルニアラスヤト思考セラルルニ依リ此ノ際多少ノ犠牲ヲ拂フトモ妥結ヲ期セシムル様御誘導相成ルコト適切ト存ス

205

昭和11年8月10日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社とソ連重工業人民委員部との交渉は頓挫の危険があるため好意的斡旋方外務人民委員代理へ申入れについて

(三)當分ノ間六箇月以上勤務ノ常雇労働者ノ家族ニ限ル

F、物資輸入量ハ來年度ヨリ主義的ニ露人労働者收入全額邦人實際需要量ニ依リテ決定シ且腐敗天災等ニ對スル「マージン」トシテ右決定額ノ二〇%ヲ附加ス

G、將來硬貨支拂ノ爲留貨資金ノ拂底ヲ來ス惧アル場合ニ處スル方策ニ關シテハ他日彼我雙方間ニ特定ノ規約ヲ定ムルモノトス

右問題以外法令緩和、能率増進ニ對スル組合側ノ積極的援助並ニ「トレスト」トノ差別待遇撤廢ノ件ヲモ附加ス(依頼報)

204

昭和11年7月28日

在ソ連邦酒匂(秀二)臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社関係商議においては労働者比率問題での妥協により試掘に関する要望を先方に受諾させるよう意見具申

モスクワ 7月28日後発

本省 7月29日前着

第五四〇號

第五七四號

往電第五四〇號ニ關シ

モスクワ 8月10日後発

本省 8月11日前着

左近司社長ト協議ノ上九日本官「ストモニヤコフ」ヲ往訪シ同社長及「ルヒモウイチ」間ノ商議ハ好結果ニ終ルヘキヲ期待シ居リタルニ拘ラス労働者比率問題ノ爲頓挫セル趣ナルヲ聞キ甚タ遺憾ナリトテ會社側ノ要望カ  
(イ)試掘ヲ五年間ニ完了セントスル熱意ニ出テタルモノナルコト

(ロ)從テ右要望カ達セラレサルニ於テハ五年ニテハ不足トナルヘキコト

(ハ)蘇側ノ臆測スルカ如ク蘇側ノ要求事項ヲ無價值ナラシメントスル底意ニ基ク次第二アラサルコト

等ヲ篤ト説明シ且此ノ際本件商議ノ圓滿妥結カ兩國關係上極メテ望間敷キ所以ヲ述ヘ外務部ニ於テ大局上ノ見地ヨリ此ノ上一步ヲ進メ好意的斡旋ノ勞ヲ取ラレ度ク

若シ何等局面打開ノ考案アラハ之ヲ政府ニ傳達スヘク政府トシテハ本件ヲ重視シ居ルニ依リ會社側ニ對シ適當ノ勸説

ヲ爲スモノト考フ「ル」氏ハ社長ニ對シ比率問題ヲ撤回セサル限り商議ヲ繼續スルモ無益ナリトテ恰モ最後通牒的態度ヲ示サレタルヤニテ社長ハ甚タ困リ居ラルル一方此ノ上長ク滞在ヲ許ササル事情モアリ本月中旬ニハ離莫セラルル筈ナルカスデハ甚タ面白カラサル事態ヲ見ルヘキニ付社長ノ出發迄ニ大綱ナリトモ妥結ヲ見ル様努力シ度シトノ趣旨ヲ以テ縷々懇談セル處先方ハ右ニ全然同感ナリト答ヘタル上腹藏ナキ言ナリトテ

(一)「オルジョニキツゼ」及「ル」ニ於テハ日本側カ比率問題ノ要望ヲ固執スル限り商議カ不成立ニ終ルモ已ムヲ得ストノ意見ヲ有シ居レリ

(二)<sup>(3)</sup>元來該問題ニ付テハ曩ニ廣田前大使次テ大田大使並ニ貴官ヨリ試掘期間延長ニ關シ申入ヲ爲サレタル際何等言及セラレタルコト無シ右ハ日本政府トシテモ該問題ヲ五年延長ノ必須條件ト爲ス意嚮無カリシコトヲ示スモノニシテ蘇側トシテハ今回好意ヲ表スルヤ會社側ニテ新要求ヲ提出セルモノナリトノ惡印象ヲ受ケ居レリ

(三)殊ニ會社側ノ要望ハ利權契約ノ規定ヲ全然反對ノ趣旨ニ改メントスルモノニシテ甚タ無理ナル要求ナリ

掘期間中且試掘ニ從事スル労働者ノミニ關スル了解トシテハ如何ト述ヘタルニ先方ハ依然反對シ居タルモ思案ノ後兎ニ角今、明日中ニ關係當局ト非公式ニ協議ヲ試ミ其ノ結果ニ付テハ成ルヘク速ニ御通知スヘシト答ヘタリ

206

昭和11年8月15日 有田外務大臣より  
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

北樺太石油会社による商議に關し我が方は労働者比率問題に關する要望を撤回する旨ソ連側へ通報方訓令

第二七七號(至急)

本省 8月15日後7時30分發

屢次ノ貴電並ニ會社電報ニ依レハ利權契約ノ規定ト異ナル労働者比率ノ設定ニ付「ソ」側ノ同意ヲ得ルコト甚タ困難ト認メラルル處比率問題ノ撤回ニ依リ從來實際行ハレ來レル比率ニ根本的變化ヲ與フルコトハ會社經營上ノ打撃甚大ニシテ同意シ難キモ同問題ヲ撤回スルモ實際上現在ト遠カラサル比率ヲ持續シ得ル方途ヲ確保シ得ルニ於テハ我方トシテ敢テ同問題ヲ固執スルニモ及ハサルヘキニ付此際比

(四)從テ自分トシテハ日本政府カ會社側ニ右要望ヲ撤回スル様勸說セラルルヨリ外ニハ商議妥結ノ見込無シト考フル旨力說セリ

依テ本官ハ會社側要望ハ約二年前ヨリ小宅代表ニ於テ蘇側當局ニ交渉シ來レルモノニシテ決シテ新提案ニアラスト説明シ頻ニ先方ノ再考ヲ促シタルモ先方ハ會社ノ要望撤回以外ニ解決方法無シト繰返シ實ハ「オ」及「ル」トシテハ日本側カ住宅其ノ他ニ關スル蘇側ノ僅少ナル要望ヲ容ルルニ於テハ試掘ニ關スル日本側三個ノ要求ヲ承諾スルコトニ腹ヲ定メ居タル處日本側ヨリ比率ノ難問題ヲ持出サレタル爲非常ニ當惑シ又紛擾シ居ル次第ナリ云々ト述ヘタリ

<sup>(4)</sup>本官ハ右會談ノ次第ヲ政府ニ報告スヘキモ此ノ儘ニテハ到底妥結困難カト思考スルニ依リ全然自分限りノ私見ヲ述ヘ度シト前置シ現在労働者ノ比率ハ種々ノ事由ニ依リ日露人夫々五割トナリ居ル由ナルニ付會社トシテハ反對スヘキモ右ノ現状ヲ維持スルコトトシ妥結ヲ期スルコト或ハ可能カトモ認メラルト述ヘタルニ先方ハ右ニテハ利權契約有效期間中五割ノ日本労働者使用ヲ認ムルコトトナルカ故ニ蘇側ニ於テ到底考慮ノ餘地無シト言ヘルニ依リ本官ハ然ラハ試

率要求ヲ撤回スルト共ニ「ソ」側ヲシテ労働者採用ノ際ノ銓衡考查ヲ容認セシムル様努力スルコトニ關係省及會社側ニ於テ意見一致セリ

就テハ貴官又ハ左近司社長ヨリ至急「ソ」側ニ對シ我方ハ比率要求ヲ撤回スヘキニ付「ソ」側ニ於テモ宿舍問題、傭入問題、物資問題等ニ付妥協的態度ヲ示シ會社ノ收益的經營ヲ保障センコトヲ要望シタル上左記妥協案ニ依リ同社長ト「ルヒモーヴィチ」トノ間ニ交渉取纏メ方御配慮アリタシ

一、比率設定ニ關スル我要求ヲ撤回ス

二、貴電第五〇七號ノA、B、C、D(但シ)以下ハ團體契約第十一條ノ試験ヲ云フモノト解ス、及F、ハ右貴電通り、内D、ハ讓歩絶對不可能ナリ

三、宿舍問題ニ付テハ貴電第五一六號四、ノ(ロ)ヲ是認スルモ一人當リ面積ヲ四・五平方米トシ宿舍建設ハ漸進主義トス四、試掘ニ關スル我三要望ノ完全ナル貫徹ヲ前提條件ト爲スコト從來通り

## 207

昭和11年8月17日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社の商議に際し労働者比率問題  
につき妥協したので速に試掘三問題の詮議を  
望む旨重工業人民委員代理へ申入れについて

モスクワ 8月17日後発  
本省 8月18日前着

## 第五九四號

「石油」

外二〇號

本日「ル」氏二面會今次我政府當局及會社ハ慎重審議ノ結果一ニ此ノ際交渉諸件解決促進延テ日蘇關係好轉ノ希望ヨリ敢テ會社ノ苦痛ヲ忍ヒ比率問題撤回ノコトニ同意スル旨指令ニ接シタリ而シテ會社ハ本要求撤回ノ結果労働者ノ現狀ニ急激ナル變化ヲ來スコトナリテハ諸般ノ計畫ニ一大齟齬ヲ來シ忽チ収益的經營ヲ不可能ナラシムルニ立到ルヘキニ付此ノ點蘇政府ニ於テ充分諒承セラレ事態ノ急變ヲ來スコトナキ様然ルヘク考慮ヲ拂ハルル様願度シト述ヘ先ツ以テ彼ノ意見ヲ求メタル處「ル」氏ハ明答ヲ與ヘス一時ニ

モスクワ 8月19日後発  
本省 8月20日前着

## 第五九九號

貴電第二七七號ニ關シ

十七日左近司社長ニ於テ「ルヒモウイツチ」ニ懇談シ又「ル」ノ求ニ依リ十九日覺書トシテ提出セシカ同日本官ハ「リトヴィノフ」ト會談ノ機會ニ「ストモニヤコフ」ハ休暇中本件交渉成行ノ大要ヲ語り社長カ「ル」ニ提出セル案ニ付テハ近ク蘇政府ノ閣議ニテ審議セラルル趣ノ處該案ハ我方カ難キヲ忍ヒテ作成セル妥協案ニテモアリ又本件商議ノ成立ハ兩國關係ニ好影響ヲ與フルコト勿論ナルニ依リ「リ」ニ於テ此ノ上トモ好意的配慮方切望スト述ヘタルニ「リ」ハ委曲諒承セル旨答ヘタリ

## 209

昭和11年10月10日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

石油利權追加協定の調印について

付記 十一月二十日付北樺太石油株式会社左近司政  
三三社長より有田外務大臣宛庶發第九八五号

ハ變化ナカルヘキモ漸次利契所定ノ比率ニ到達セシムヘキカ當然ナリト述ヘ但シ實情ハ労働者拂底ノ爲貴方ノ憂慮セラルルカ如キ結果トハナルマシト豫想スト附言セリ次テ備入問題以下逐次當方妥協案内容ヲ口頭説明ノ後比率問題撤回ノ勇斷ニ出テタル今日貴方モ本妥協案ヲ鵜呑ニ同意セラレ速ニ試掘三問題ノ詮議確定ヲ望ムト結ヒタリ「ル」氏ハ今次ノ申入ハ最重要性ヲ有スルモノナルニ付十九日文書ヲ以テ提示セラレ度ク然ル上「オルジヨニキーゼ」大臣トモ協議ノ上意見ヲ附シ速ニ閣議ノ裁決ヲ仰ク様取計ヒ來ルニ十二日ニハ何等カ回答可能ノ運ニ到ルヘシト答ヘタルニ付然ラハ余ハ當地出發ヲ一時延期シ満足ナル貴答ヲ俟ツコトトスヘシト述ヘ引上ケタリ

## 208

昭和11年8月19日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

北樺太石油会社提出の覚書は我が方精一杯の  
妥協案であるので閣議審議の際には好意的配  
慮方ソ連外務人民委員へ申入れについて

北樺太石油会社による試掘継続をめぐる交渉経  
緯について

モスクワ 10月10日後発  
本省 10月11日前着

## 第七五三號

石油利權追加協定ハ本十日日本官列席ノ上左近司社長及重工業人民委員代理「クヒモウシチ」間ニ調印ヲ了セリ  
「オハ」ニ轉電セリ

(付記)

庶發第九八五號

昭和十一年十一月二十日

北樺太石油株式会社

取締役社長 左近司 政三(印)

外務大臣 有田 八郎殿

試掘期限延長及面積狭小四試掘區域ノ設定ニ關ス  
ル利權契約追加協定ノ件

右ニ關シテハ小職露都滞在中交渉ノ進展ニ應シ其ノ都度本  
社ヲ通シ御報告申上置候處今般歸任ニ當リ更ニ此等ヲ取纏

メ交渉経緯概要ト共ニ別添ノ通り及御報告候也

敬 具

別添書類

- 一、試掘問題其ノ他交渉経緯概要
- 二、利権契約追加協定書及附属文書
- 三、會社ヨリ蘇政府へ提出セル覺書<sup>(省略)</sup>五通
- 四、蘇政府ヨリ會社宛覺書<sup>(省略)</sup>貳通

以 上

(別 添)

試掘問題其ノ他交渉経緯概要

今次就任挨拶旁々豫テノ懸案タル試掘期限五ヶ年延長其ノ他對蘇重要問題交渉ノ爲露都訪問ヲ企圖シ古澤總務課長、竹原、越野兩社員ヲ<sup>(帶)</sup>滞同六月二十三日東京出發七月六日モスコウニ到着ス同日午後大田大使ヲ訪問今次ノ交渉案件概要説明シ關係當局へ紹介斡旋方依頼セリ、次テ同大使ノ紹介ニテ八日ニハ外務次官ニ、九日ニハ重工業大臣ト會見シ十日ヨリ重工業次官ト今次ノ交渉諸案件ニ就キ商議ヲ進ムルノ運トナレリ、以下會見ノ概要ヲ記述スヘシ

七月八日大田大使ノ紹介ニテ「ストモニヤコフ」外務次官

ハ日本側要望ニ就テハ豫テ大使「ス」外務次官ノ交渉ニヨリ承知シ居ル處今度ハ諸懸案ノ交渉一切ヲ「ルヒモヴィチ」重工業次官ニ一任シアリト謂フ、予ハ日本ノ石油ニ對スル關心、會社カ日蘇親善上ノ使命ヲ有スル特殊ノ點並ニ昨年現場視察ノ際ニ於ケル所感等ヲ述ヘ今後事業ヲ圓滿ニ進メ兩國親善ニ貢獻シタキコトヲ強調シ大所高所ヨリ當事業ヲ通シ兩國ノ前途ヲ如何ニ展開スヘキヤヲ考慮アリタキ旨附言セル處「オ」大臣ハ日本側ノ要望又ハ現地官憲ノ態度ニ就テハ我方希望ニ添フ様努力スルモ蘇側ノインタレストニ矛盾セザルコトヲ要スト強調シ親善關係ハ相互ノ努力ニ依ルヘク蘇側ハ兩國親善増進ノ用意アルニ就テハ直ニ「ルヒモヴィチ」次官ト交渉ヲ進メラレ度シト云フ、次テ小職ヨリ昨年北鐵交渉成立ニ依リ我國朝野ハ好感ヲ持シ又今回來訪ニ當リ政府當路ノ大臣ヲ歴訪セル際「努力シ成功ヲ祈ル」云々ノ激勵ノ辭ヲ受ケタルカ右ハ油問題ノ成功モサルコト乍ラ利権ニ關スル問題ノ解決ニヨリ兩國ノ圓滿ナル善隣關係ヲ希望セラレタルニ外ナラサル旨申述ヘタル處「オ」大臣モ頗ル同感ノ色ヲ顯シ問題ノ解決ニハ出來ル限リ支援スヘキ旨ヲ誓ヘリ

ニ會見セルニ同次官ハ此ノ機會ニ際シテ關係當局タル重工業ニ於テ諸問題ヲ解決シ度キ意向ナルヲ以テ相互妥協ノ精神ヲ以テ當ルニ於テハ必ス積極的ノ結果ヲ得ラルヘシト確信スト述フル處アリ小職ハ蘇國要路ノ人々ト親シク會談シ予ノ抱負ヲ<sup>(腹藏)</sup>披瀝シ彼我相互間ニ充分ナル諒解成ラハ諸懸案モ容易ニ解決シ得ルモノト信スト前置シ昨年就任後現地視察ノ際現地ノ地理的氣候的條件ヨリ交通、通信ノ不便ナルコト物資供給ノ至難ナル實情、時ニ法令適用カ現地ノ實情ニ即セサルコトアルヲ實感シ一千平方露里試掘期間十ヶ年カ北京條約ニ於テ協定セラレタルコトノ失當ヲ痛感一驚セルコト又試掘ニハ一坑井七、八十萬圓ヲ要スルコトヲ述ヘ試掘ニ對スル我方ノ犠牲ノ程度ヲ知ラシメタリ又現地ニ於ケル諸種ノ問題モ畢竟双方ノ妥協精神ニヨリ解決セラルヘキモノナル旨述ヘタル處次官ハ日本側要望ノ同意ニ關シテハ蘇側モ幾多希望ヲ申出ツルナラントテ暗ニ交換條件ノ要求ヲ提示スヘキコトヲ仄セリ依テ小職ハ過去ニ拘泥セス將來ハ相互ノ諒解ヲ深メテ善處シタシト結論シ會見ヲ終リ越テ七月九日「ス」外務次官ノ紹介ニヨリ大田大使同道「オルジヨニキーゼ」重工業大臣ト會見ス、同大臣

茲ニ於テ愈々重工業次官ト具體的交渉ニ入り七月十日ヨリ會見ヲ重ヌルコト十一回幾度カ覺書ノ交換ヲナシ漸ク八月三十一日ニ至リ今次ノ交渉案件一括閣議ニ上提セラル、ノ運トナリ同日ノ閣議ニ於テ試掘期間五ヶ年延長、面積狹小試掘區域ノ設定南方三地方ニ於ケル試掘ノ實施ニ關スル我方要望ハ主義的ニ之ヲ承認スル旨決定セラレタリ右決定迄ニ至レル交渉経緯ヲ顧ルニ先ツ我方ヨリ今後ノ試掘計畫ニ就キ詳述シ資金問題解決ニ伴ヒ計畫ノ確實性アルコトヲ強調シ一九四一年末迄期限延長ノ必要ナル理由ヲ説明且ツ是等問題ハ互ニ理論ニ拘泥セス只北樺太ノ天然資源ヲ相依リ相扶ケ以テ開發スルノ見地ヨリ日蘇兩國提携ノ實ヲ舉ケントスル政治的觀點ヨリ考慮ヲ求メ又蘇側要求ニ就テハ其ノ意ノアルトコロヲ聽取スヘク次ニコーカサス原油、哈府ガソリン及重油、北樺太產油、就中カタングリ產油ノ購入意思アルコトヲ述ヘ先方ノ考慮ヲ促セルニ「ル」氏ハ最近試掘技術モ進歩セルニ獨リ北樺太ニ於ケル油田開發ノ遅々トシテ進歩ノ跡ナキヲ遺憾トスル旨ヲ述フ茲ニ於テ當方ヨリ從來ノ事情ヲ述ヘ各般ノ點ヨリ我方カ幾多ノ困難ト闘ヒ來レル會社立場ノ考慮ヲ求メタル處「ル」氏ハ期限延長、狹

小區域設定、三地方試掘ノ三問題ニ關シテハ夫々資料調査ノ上回答スヘキ旨ヲ約シ次テ蘇側ノ要望トシテ備入問題、家族宿舍問題及物資輸入問題ヲ提示シ來レルヲ以テ當方ハ過去ノ遲延ヲ云爲セス試掘作業ノ現狀ニ即シテ解決ヲ考慮サレ度キコト今次ノ計畫ハ總テ四十一年末迄ニ完了スルコト、ナリ居ルコトヲ説明シ今後ノ會見ニ於テハ既ニ申入レタル以外ノ諸事項ニ付協議ヲ進メ度キ意向ヲ傳ヘタルニ「ル」氏ハ其ノ後ノ會見ニ於テ專ラ蘇側要望ヲ説明シ勞働力備入ヲ現地ニ於テモ實行シ度キコト職責熟練ニ應ジテ勞働者ヲ使役スヘキコト又家族員ニ對シ一定面積ノ宿舍ヲ提供サレ度シト提示シ來レリ右ニ對シ當方ハ夫々應酬シ勞働力問題ニ就テハ考慮ヲ約シ宿舍問題ニ就テハ主義的ニ異存ナキモ會社ノ收益の經營上其ノ建設ニハ自ラ限度アリ昨年ノ如キ無斷多數家族ノ渡來ニ迷惑セルコトヲ述ヘ一矢ヲ酬ヒタリ茲ニ於テ先方ハ會社側ニ於テ前記蘇側ノ要求ヲ容レ圓滿解決ノ運ニ至ラハ蘇側モ會社要求ノ試掘三問題ヲ考慮スヘシト交換的ニ關聯セシメ物資輸入問題ニ付テハ追テ提示スヘシト先方要求ニ對スル當方ノ具體的意見ヲ求メテ止マス依テ先方ノ内意ヲ探リタルニ蘇側要求カ一〇〇%容

認セラル、場合ハ凡テノ懸案ハ短期間ニ容易ニ協定シ得ヘシト云フ次テ物資問題ニ轉シ先方ノ意向ヲ探リタル處先方ハ輸入量決定ニ當リ團契ノルマニ基準ヲ求ムルコトニ反對セサルモ賃銀ノ範圍ヲ越エサルコトヲ強調ス當方ハ之ニ對シ此ノ機會ニ相互ノ立場ヲ尊重シ適當協定ニ應センコトヲ表明シ且ツ口頭ノ折衝ノミヲ以テシテハ交渉ノ確實ヲ期シ難キヲ以テ以上ノ交渉ニ基ク諒解ヲ覺書(別添當方第一回覺書参照)トナシ先方ニ手交スルト共ニ各項目毎ニ詳細説明ヲ加ヘタル處先方ハ一々反駁ヲ試ミ特ニ比率緩和ノ問題ニ對シテハ利契ノ規定ヲ楯ニ強硬ナル反對ヲ表明シ互讓妥協ノ精神ニ反スト指摘シ來レリ依テ當方ハ斯ル非難ノ不當ナルコトヲ反撃シ極力反省ヲ求メタル處先方ハ試掘問題ニ付テハ具體的ニ場所深度期限等ニ關スル計畫ヲ求メタルヲ以テ豫テ立案ノ試掘五ヶ年計畫ヲ示シ比率緩和ノ要求ハ試掘作業促進上不可缺少ノ問題タル所以ヲ繰返シ説明先方ノ諒解ヲ求ムルト共ニ宿舍、備入、物資等ノ先方諸要求ニ付キ當方カ多大ノ考慮ヲ示シタルハ比率問題ニ對シ特ニ先方ノ考慮ヲ煩サンカ爲ナリト附言セリ此ノ際先方ハ當方第一回覺書ニ對スル回答ヲ提示セリ(別添先方第一回覺書参照)依

テ之ヲ検討シ其ノ結果ヲ更ニ覺書トシテ(別添當方第二回覺書参照)手交スルト共ニ遂ニ説明ヲ加ヘタル所先方ハ比率問題ハ露人ノ數カ減少セサル様即チ利契ニ定ムル數ヲ保持スルコトカ蘇側ノ主旨トスル處ナリ、其ノ他ノ件ニ就テモ蘇側要求通り解決スレハ政府ニ其ノ旨報告シ得ルモ今次提示ノ覺書ナル限り敢テ支援スル能ハスト不滿ノ意ヲ表明ス依テ當方ヨリ更ニ然ラハ比率問題ハ考慮ノ餘地ナキヤ否ヤ又先方提示ノ三問題ニ就キ妥結點ヲ見出セハ試掘三問題ハ満足スヘキ程度ニ容認セラル、ヤト念ヲ押シタル處先方ハ比率問題ハ全ク考慮ノ餘地ナキヲ以テ之ヲ撤回シ且ツ先方提示ノ三要望ヲ會社カ容ル、ニ於テハ試掘問題ハ當方要望通り承認スヘキ態度ヲ示スニ至リタルヲ以テ茲ニ於テ予ハ帝國燃料國策ノ大局ニ立脚シ難キヲ忍ビ比率問題撤回ノ決意ヲ固メ東京ニ請訓セル處此ノ際比率問題ハ是非共緩和ヲ認メシメ度シトノ回電ニ接シタルヲ以テ更ニ第三次覺書(別添參照)ヲ以テ比率ニ關スル要求ヲ撤回シ得サル理由ヲ説明スルト共ニ要求ノ内容ヲ多少緩和シ且ツ先方提示ノ三要求ト比率問題トノ關聯ヲ強調シテ反省ヲ促シ折衝ヲ重ネタルモ先方ハ本問題ヲ撤回セサル以上會社ノ試掘ニ關スル

要望ハ到底満足セシムルコトヲ得ス「オ」重工業大臣ニ今次ノ交渉経緯並ニ會社ノ最後ノ覺書ヲ示シ詳細報告セル處同大臣ハ會社カ比率問題ヲ固守スル以上會社側要望ハ審議スルヲ得スト云フ依テ同大臣ニ直接會見面談ヲ試ミントセルモ果サス持久戰術ヲ以テ目的貫徹スルノ外交交渉ノ前途ナシト見極メタルヲ以テ茲ニ引揚ヲ決意「ル」次官ニ對シテハ不本意乍ラ都合上此ノ上滯莫出來サルタメ歸朝ノ止ムナキニ至レル事情ヲ告ケ古澤ヲシテ今後交渉ノ任ニ當ラシムル旨ヲ通告セルカ間モナク東京ヨリ協定成立セシムル爲扨ケテ比率問題ノ撤回ニ同意スルニ付結末ヲ付ケタル上歸朝スヘシトノ回電ニ接シタルヲ以テ更ニ「ル」次官ヲ訪問一大勇斷ヲ以テ比率問題ヲ撤回スヘキ旨ヲ述ヘ其他ノ諸件ト共ニ一括覺書(別添第四次覺書參照)トナシ既ニ比率問題撤回ニ同意セル以上爾餘ノ案件ニ就テハ一ニ先方ノ善處ヲ要望セルニ先方ハ右ニ對スル回答(別添先方第二次覺書參照)ニ於テ勞働者備入ニ際シテ試験問題、宿舍問題等ニ於テ尙我方希望條件ニ對スル全幅ノ容認ヲ與ヘ居ラサルヲ以テ逐一反問ノ上當方ノ意ノアル處ヲ説明今日迄ノ双方ノ諒解ヲ明確ニシ以テ後日ノ最後の協定ヲ容易ナラシムル爲第五次

覺書(別添参照)ヲ手交セルニ玆ニ至リテ漸ク先方モ之ヲ容レ前述ノ如ク八月三十一日ノ閣議ニ於ケル決定ヲ見其ノ旨ノ通告ニ接シタルヲ以テ直ニ双方ヨリ協定案文起草委員ヲ任命九月三日ヨリ該委員會ノ會議ニ入りタルカ協定文並ニ之カ附屬文書ニ於テ果然試験問題、宿舍問題、物資輸入問題、官憲及組合側ノ援助等ニ關シ容易ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハス會見ヲ重ナルコト十九回折衝月餘ニ及ヒ結局物資輸入問題官憲ノ支援等ニ就テハ當方ヨリ交渉ノ經緯ニ基ク聲明ヲ發スルコト、シ漸ク十月七日ニ至リテ起草委員會ノ審議結了次テ十日協定書ノ調印及附屬文書ノ交換ヲ行フノ運トナリタル次第ナリ

譯文

證明書

在莫斯科日本大使館ハ本書ヲ以テ左ノ通り證明ス  
左近司政三ハ北樺太石油株式會社ノ取締役社長ニシテ右會社ノ名ニヨリ一九二五年十二月十四日附利權契約ノ變更ニ關スル追加協定締結ノ權限ヲ有スルモノナリ

一九三六年十月一日 モスコウ 第九號

第一條

一九二五年十二月十四日附利權契約第十二條ノ變更トシテ政府ハ利權者ニ對シ左記權利ヲ一九四一年十二月十四日迄ノ期間ニ對シ延長スルコトヲ決定ス

(A) 坑井ノ深度及位置ニ關シ蘇聯邦重工業人民委員部ト利權者ト協定濟ナル(重工業人民委員部發利權者宛一九三四年六月二十七日附第一三、一六、七號信一九三四年九月十四日附第一三、一八、七號信及一九三五年三月四日附第一三二二號信ヲ本協定ニ添付ス)坑井ノ試掘權  
(B) 「チエメルニ・ダーギ」「チャクレ・ナムピ・チャムグ」及「ウェングリ・大フジ」地方ニ於ケル前記利權契約第十二條規定ノ試掘作業權

(C) 本協定第二條記載ノ面積狹小試掘區域ニ於ケル前記利權契約第十二條規定ノ試掘作業權

第二條

一九二五年十二月十四日附利權契約第十三條規定ノ例外トシテ利權者ニ對シ左記面積狹小試掘區域ヲ例外的ニ設定スルモノトス

(A) 北オハ試掘地方第三面積狹小試掘區域

駐蘇聯邦日本代理大使  
署名 (酒 匂 秀 一)  
本證明書ヲ受領ス  
一九三六年十月八日

譯文

追加協定

一九三六年十月十日 莫斯科市

一方ソヴィエト社會主義共和國聯邦(蘇聯邦)政府(以下單ニ政府ト稱ス)ハ一九三六年十月十日附蘇聯邦人民委員會議決定(議定書第一八二六號)ニ基キ行動スル重工業人民委員代理モイセイ・リボワヴィツチ・ルヒモヴィツチニヨリ代表セラルル蘇聯邦重工業人民委員部ヲ通シ又他方北樺太石油株式會社ハ同會社ノ取締役社長ニシテ且同會社ノ名ニヨリ實際ニ本協定ニ署名スルノ權限ヲ有スル旨ノ一九三六年十月一日附在莫斯科日本大使館發給ノ證明書第九號ニ基キ行動スル同會社取締役社長左近司政三ヲ通シ左記ノ如ク一九二五年十二月十四日附利權契約ノ追加協定ヲ締結セリ

其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

南方ニ於ケル境界線ハ元北オハ第一試掘區域ノ境界線ニ沿ヒ東部ニ於テハ元北オハ第一試掘區域(第六十四號鑛區)ノ東樑柱ヨリ西方二、一三〇米ノ距離ニ在リ西方ニ於テハ同上樑柱ヨリ西方二三七九〇米ニ在リ、北方ニ於テハ北オハ試掘地方ノ北境界線ニ沿フモノトス

(B) エハビ試掘地方第五面積狹小試掘區域

其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル  
北境界線ハエハビ第三試掘區域ノ南境界線ト一致シ南境界線ハエハビ試掘地方ノ南境界線ト一致ス、其ノ他ノ境界線ノ方向ハエハビ第三試掘區域ノ同様境界線ノ經線ト一致ス

(C) クキドラニー試掘地方第二面積狹小試掘區域

其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル  
南境界線ハ重工業人民委員部發一九三五年三月四日附第一、三二二號信ニヨリ劃定セラレタルクキドラニー試掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニシテ北境界線ハ南境界線ヨリ二六六〇米ノ距離ニ離レタル緯線ナリ東境界線ハ前記クキドラニー試掘區域ノ東境界線ヨリ東方二五〇〇

米ノ距離ニ離ル、經線ニシテ西境界線ハ前記クキドラニ  
一試掘區域ノ東境界線ヨリ西方二二六〇米ノ距離ニ離  
ルル經線ナリ

(D)カタングリ試掘地方第二面積狭小試掘區域

其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

北境界線ハウキグレクツイ探掘區域ニ至ル迄ノカタング  
リ第四試掘區域ノ南境界線ニシテ南境界線ハカタングリ  
第三試掘區域ノ東境界線ニ至ル迄ノカタングリ探掘區域  
ノ北境界線ナリ西境界線ハウキグレクツイ探掘區域ヨリ  
カタングリ探掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニ至ル迄  
ノカタングリ第三試掘區域ノ東境界線ニシテ東境界線ハ  
カタングリ第四試掘區域ノ東境界線ノ繼續ナリ

ニ本條記載ノ面積狭小試掘區域ノ實地劃定並ニ之等區域ノ  
試掘鑛區ヘノ分割及更ニ探掘鑛區ヘノ分割ハ前記利權契  
約第十三條及第十四條記載ノ鑛區ノ大サ及形狀ニ左記變  
更ヲ加ヘ前記兩條ニヨリ行ハル、モノトス

(A)北オハ試掘地方第三面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ  
八試掘鑛區ニ分割セラル即全區域ハ緯線ニ沿ヒ二等分セ  
ラレ經線ニ沿ヒ四等分セラレ其ノ結果八試掘鑛區ヲ得ル

モノトス

(B)エハビ試掘地方第五面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ  
十二試掘鑛區ニ分割セラル、即全區域ハ緯線ニ沿ヒ三等  
分セラレ經線ニ沿ヒ四等分セラレ其ノ結果十二試掘鑛區  
ヲ得ルモノトス

(C)クキドラニ一試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ北オハ試  
掘地方第三面積狭小試掘區域ニ對スル本項(A)規定ト同様  
ノ方法ニヨリ八試掘鑛區ニ分割セラル

(D)カタングリ試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ一個ノ北方  
鑛區及五個ノ南方鑛區ヨリナル六試掘鑛區ニ分割セラ  
ル、北方鑛區ノ南境界線ハウキグレクツイ探掘區域ノ南  
境界線ノ繼續ニシテ五個ノ南方試掘鑛區ハ殘リノ部分ヲ  
經線ニ沿ヒ等分ノ部分ニ分割スルコトニヨリ得ラルモノ  
トス

(E)本項(A)(B)(C)及(D)記載ノ試掘鑛區ノ探掘鑛區ヘノ分割ハ前  
記利權契約第十四條規定ノ場合ニ於テ各試掘鑛區ヲ緯線  
ニ沿ヒ二個ノ等分ノ探掘鑛區ニ分割スル方法ニヨリ行ハ  
ル、モノトス

第三條

「チエメルニ・ダーギ」「チャクレ・ナムビ・チャムグ」及

「ウェングリ・大フジ」試掘地方ニ於テ前記利權契約第十  
三條ニヨリ定メラルヘキ試掘區域ニ關スル坑井ノ數、位置  
及深度並ニ本協定第二條記載ノ各面積狭小試掘區域ニ關ス  
ル坑井數、位置及深度ハ利權者及重工業人民委員部トノ間  
ニ於ケル一九三二年七月十一日附協定ニヨリ規定セラレタ  
ルカ如ク利權者ニヨリ蘇聯邦重工業人民委員部ト協定セラ  
ルモノトス、而シテ各面積狭小試掘區域ニ於ケル坑井數  
ハ九六〇ヂシャチン試掘區域ニ於ケルト同數ノモノ即二乃  
至四試掘坑井タルヘシ

第四條

本協定ニ定メナキ總テニ關シテハ試掘作業ハ利權者ニヨリ  
一九二五年十二月十四日附利權契約ノ規定ニ從ヒ實現セラ  
ル、モノトス

第五條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十條ニ左記項目ヲ  
追加ス  
利權者ハ利權企業ノ常備労働者及従業員ノ一切ノ家族員ニ  
對シテモ亦同様ノ標準ニヨリ無料ニテ宿舍ヲ提供スルノ義

務アルモノトス

本條ニヨリ利權企業ノ労働者及従業員並ニ常備労働者及從  
業員ノ家族員ニ對シ提供セラルヘキ宿舍ハ在樺太蘇側石油  
企業ニ於ケル當該年度實在ノ標準以下タルヲ得ス

第六條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第二項始メ  
ヨリ「労働者及従業員ノ輸送・・・」ナル語迄ヲ左ノ通  
リ記載ス

利權者ハ自己ノ必要トスル労働力ノ熟練別人員數ニ關スル  
申込ヲ毎年四月一日及七月十五日迄ニ哈府重工業人民委員  
部全權宛寫シテ東部樺太鑛山監督署宛ニ爲スモノトス、哈  
府重工業人民委員部全權ハ利權者ノ爲セル申込ニヨリ提供  
シ得ヘキ労働者及従業員數ヲ五月十五日及八月三十日迄ニ  
利權者ニ通知スヘキ義務アルモノトス、右通知書ニハ浦鹽  
市ニ於テ如何ナル労働者及従業員ヲ何名又オハ市ニ於テハ  
如何ナル労働者及従業員ヲ何名利權者ニ提供シ得ヘキヤヲ  
記載スルモノトス、重工業人民委員部全權ニヨリ労働者及  
従業員ノ引渡シ及利權者ニヨル之カ受入レハ浦鹽市及オハ  
市ニ於テ行ハルモノトス、浦鹽市及オハ市ニ於テ利權者

ハ労働者及従業員ノ職名、熟練及作業經歷ヲ確認スル當該機關發給ノ書類ニシテ此等労働者及従業員ノ提示セル書類ニ基キテノミ労働者及従業員ヲ受入ルモノトス

第七條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第三項ニ於ケル「浦鹽市ニ於ケル労働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變ヘ又「浦鹽市ノ労働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變フヘシ

第八條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條ニ左記項目ヲ追加ス

労働者及従業員ハ彼等カ作業ニ採用サレタル熟練ニ相應シ利權者ニヨリ利用セラルモノトス  
利權者ハ第一順序トシテ企業ニ在ル労働者及従業員中ヨリ自己ノ必要トスル労働者及従業員ヲ滿タスモノトス特ニ季節労働者及従業員ヲ常備労働者及従業員ニ移ス方法及常備労働者及従業員ヲ更ニ今後ノ作業期間ニ殘留セシムル方法ニヨルモノトス、季節労働者及従業員ヲ季節期間終了後常備労働者及従業員ニ移ス方法ニヨリ労働者及従業員ヲ編入

北樺太石油株式會社取締役社長 左近司 政三  
贈本ノ眞正ナルコトヲ認證ス  
利權本部秘書 ゼルノーバ

譯文

一九三六年十月十日附 第一六九號

蘇聯邦重工業人民委員代理

エム・エル・ルヒモヴィツチ宛

會社ハ一九三六年十月十日附追加協定第一條記載ノ期限ハ最終的性質ヲ有スルモノニシテ今後如何ナル試掘作業ノ延期モアリ得サルモノナルコトヲ諒承スル旨通知スルモノナリ

北樺太石油株式會社

取締役社長 左近司 政三

本書ノ本文ヲ受領セリ

一九三六年十月十一日

マルチロースフ 署名

譯文

一九三六年十月十日附第K一二一五號

スルコト及常備労働者及従業員ヲ契約期間終了後更ニ今後ノ作業期間ニ殘留セシムルコトハ若シ此等労働者及従業員ノ熟練カ所要ノ常備労働者及従業員ノ熟練ニ相應シ居ル場合ニ行フモノトス

第九條

「本追加協定ハ一九二五年十二月十四日附利權契約ノ不可分の部分ヲナス

ニ本追加協定ハ蘇聯邦人民委員會及利權者ニヨリ之カ權限ヲ與ヘラレタル者ニヨリ署名セラレタル日ヨリ其效力ヲ發生スルモノトス

第十條

本追加協定ノ原本ハ蘇聯邦人民委員會ノ事務局ニ保管セラレ利權者ニハ認證セラレタル贈本ヲ交付スルモノトス

一九三六年十月十日附決定(議定書第一八二六號)ニヨル

蘇聯邦人民委員會全權ニヨリ

蘇聯邦重工業人民委員代理

エム・エル・ルヒモヴィツチ

在莫斯科日本大使館發給ノ證明書第九號ニヨル北樺太石油株式會社ノ全權ニヨリ

北樺太石油株式會社

社長 左近司 政三殿

本日署名セラレタル一九二五年十二月十四日附利權契約ノ追加協定第五條ニヨリ會社カ引受ケタル事項ニ關聯シ左記通告ス

貴方申出ニ依レハ利權企業ノ一切ノ労働者及従業員並ニ常備労働者従業員ノ一切ノ家族員ニ對シ前記第五條規定ノ標準ニヨル宿舍保證ノ程度ニ宿舍ヲ増設スルニハ相當ノ期間ヲ必要トスル以上重工業人民委員部機關ハ貴方願出ヲ考慮シ會社カ一九三九年秋期傭入迄労働力申込書ヲ提出スル際會社ハ自己ノ申込書ニ於テ一切ノ労働者及従業員並ニ常備労働者、従業員ノ一切ノ家族員ニ對シ前記第五條規定ノ標準通り完全ニ宿舍ノ保證ヲナスヘキ自己ノ義務ニ依ルヘキコトヲ要求セサルヘク單ニ左記標準ヲ會社カ實行スルノ要求ニ限定スヘシ

「一九三七年秋期傭入及一九三八年春期傭入申込書提出ニ際シ會社ハ一九三七年十一月一日迄ニ各労働者及従業員並ニ常備労働者従業員ノ各家族員ニ對シ左ノ通り保證スルノ義務ニヨルモノトス

(A)「オハ」探掘油田及「北オハ」探掘鑛區ニ於テハ居住實面積四・五平方メートル下ラサル標準ニヨル  
 (B)其ノ他ノ一切ノ探掘油田及探掘鑛區ニ於テハ居住實面積四平方メートル下ラサル標準ニヨル  
 (C)一切ノ試掘區域及試掘鑛區ニ於テハ居住實面積三・五平方メートル下ラサル標準ニ依ル

三、一九三八年秋期傭入及一九三九年春期傭入申込書提出ニ際シ會社ハ一九三八年十一月一日迄ニ各労働者及従業員並ニ常備労働者従業員ノ各家族員ニ對シ左ノ通り保證スルノ義務ニヨルモノトス

(A)一切ノ探掘油田及探掘鑛區ニ於テハ居住實面積四・八乃至五平方メートル下ラサル標準ニヨル

(B)一切ノ試掘區域及試掘鑛區ニ於テハ居住實面積四乃至四・五平方メートル下ラサル標準ニヨル

三、一九三九年秋期傭入以降會社ハ労働力申込書提出ノ際各労働者及従業員並ニ常備労働者従業員ノ各家族員ニ對シ前記追加協定第五條規定ノ標準即チ毎年一月十五日以前ニトレスト「サハリンネフチ」又ハ其ノ權利繼承者ノ交付スル證明書ニヨル當該年度ノ一月一日現在一切ノサガ

レン蘇側石油企業ニ於ケル實在ノ平均標準ヲ下ラサル居住實面積ヲ保證スルノ義務ニヨルモノトス

トレスト「サハリンネフチ」又ハ其ノ權利繼承者ハ毎年十月一日會社ニ對シ翌年ノ一月一日トレストノ有スヘク豫定シ居ル居住面積ノ概略標準ヲ通知スルモノトス

前記第三項規定ノ除外トシテ一九三九年十一月一日以降試掘區域及試掘鑛區ニ於テ各労働者及従業員並ニ常備労働者、従業員ノ各家族員ハ會社ニ依リ居住實面積四・五平方メートル下ラサル標準ニヨリ保證セラルヘキモノトス

重工業人民委員代理  
署名 ルヒモヴィツチ

## 譯文

一九三六年十月十日附 第一七〇號

重工業人民委員代理

エム・エル・ルヒモヴィツチ殿

本書ヲ以テ左記書翰ヲ受領セルコトヲ確認ス

(以下重工業人民委員代理發書翰一九三六年十月十日附第K—1—15號同文)

同時ニ北樺太石油株式會社ハ貴翰記載ノ前文ニ全ク同意ナル旨申入ルルモノナリ

北樺太石油株式會社取締役社長

署名 左近司 政三

本書翰ノ本文ヲ受領ス 三六年十月十一日

マルチローソフ

昭和十一年十月十三日

第一七一號

北樺太石油株式會社

取締役社長 左近司 政三

重工業人民委員代理

ルヒモヴィツチ殿

以書翰啓上致候陳者今般追加協定成立我代理大使外各位御臨席ノ下ニ無事調印ヲ見ルニ至レルコトハ誠ニ御同慶ノ至リニ堪ヘス候茲ニ貴我兩國相互關係益々圓滿且親密ヲ加ヘ兩國ノ經濟的善隣關係ニ貢獻スルコトコアラントス小職ノ光榮之レニ過クルモノ無之候

顧レハ七月初旬以來貴官ト小職トノ間ニ於テ試掘期限延長問題竝貴方ノ御提起ニ係ル労働者傭入、家族宿舍提供及物

資輸入量決定等ノ諸問題ニ關シ十數回ニ亘リ會見ヲ續ケ其間相互ノ立場ヲ尊重シテ隔意無キ折衝ヲ重ネ八月末ニ至リテ貴我意見ノ一致ヲ見從來双互間ノ交渉ニ於テ到達セル協定ノ結果ヲ形式化スヘキ書類作製ノ爲起草委員會組織セラ、ヤ貴方ヨリハマルチローソフ、ルコムスキー兩氏當方ヨリ古澤覺本、竹原四郎、越野安二ヲ夫々委員ニ任命シ九月始メ以來十九回ニ亘リテ會談協議ヲ進メ遂ニ追加協定全條ノ起草ヲ終ヘ茲ニ前記ノ如ク調印ノ運ト相成此間貴官並ニ貴委員各位カ示サレタル御厚意ニ對シ此ノ機會ニ於テ深甚ノ謝意ヲ表スル次第第二御座候就テハ右追加協定ニ依リ現地ニ於ケル貴我ノ共存共榮ノ相互關係益々緊密ノ度ヲ増シ候ニ就テハ組合側ノ積極的援助並ニ官憲ノ支援ニ待ツコト愈々多キヲ加フルコト、相成候而シテ右ニ關シ當方ハ今同ノ委員會ニ於テ特ニ貴官ノ文書の確認ヲ切望シテ止マサリシモ貴委員ハ是等ハ何レモ八月二十日附貴官憲覺書ニ明記シアルヲ以テ新ニ文書交換ノ必要ヲ認メサルコト又其ノ形式ノ如何ヲ問ハス援助支援ノ實際ニ至リテハ何等ノ差別ヲ設クルコトナカルヘシトノ御言明アリシニ鑑ミ當方ハ一ニ將來ニ於ケル貴方ノ厚意の御取計ヒニ信倚スルコト、致候

依テ此際右事情御諒承ノ上將來可然御取計方特ニ御願申上候

尙委員會ニ於テ勞働者及従業員雇入ニ當リ現地試験ノ結果採否決定スヘシトノ原則並ニ不合格者ヲ生シタル場合ノ補充手續ニ就キ將來双方ノ誤解ヲ避クル爲此際文書の取極メヲ希望シタル次第ノ處貴委員ハ是等ノ措置ニ對シテハ何レモ何等異議ナキモ前者ハ勞働法ニ明記セラレ後者ハ利契ニ所定セラル、事項ナルヲ以テ重ネテ取極メノ必要ナシト主張セラレタリ小職ハ本件ニ關シテモ貴委員ノ言明ニ全幅ノ信賴ヲ置キ將來實際ノ場合ニ於ケル貴方ノ誠意アル取計ヒニ俟ツコト、致候

茲ニ小職ハ歸朝ニ際シ貴官ニ對シ今日迄ノ御厚意ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表スルト共ニ右御挨拶迄如此ニ御座候

敬具

#### 試掘遅延覺書

試掘作業カ今日迄豫期ノ如ク進捗セサリシ事並試掘期限ノ延長ヲ必要トスルコト等ノ理由ニ付テハ從來ノ交渉ヤ文書ニ於テ幾度カ繰返サレタルヲ以テ更メテ述フル必要ナイカ

着手上必須ノ第一過程ニシテ殊ニ將來ノ坑井位置ノ選定各試掘地間ノ交通網及通信網ノ計畫等ニ對シテ其ノ調査ノ必要ナルコトハ言ヲ俟タサルトコロナリ斯クテ試掘期間前半ノ一部ハ費サレタリ、北オハ第一區一號井及カタングリ第一區一號井カ一九二八年ニ至リ始メテ着手ノ運ヒニ至リシモノハ蓋シ前述ノ理由ニ基クモノナリ

ニ利契締約後七年目即一九三二年ニ至リ試掘坑井數並鑛業的價值ニ關スル協定成立而シテ位置及深度ニ關シテハ翌一九三三年ニ至リ始メテ協定セラレタリ茲ニ會社ハ從來ノ試掘計畫ヲ立テ直ササルヘカラサルコトナレリ之試掘期限ニ大ナル違算ヲ生シタル最大原因ナリ

次ニ現地ノ特殊の條件ニ基ク作業上ノ影響ヲ述フレハ  
三 交通上ノ不便

現地ノ作業ノ進捗ニ最モ深キ關係ヲ有スルモノハ交通關係ナリ而シテ海路交通ハ其ノ航海期間カ半歲ニ滿タサルコト沿岸ニ良港ナク且荒天多キ爲荷役並各地連絡移動ニ不便極マリナシ之カ爲ニ事業進捗上直接間接ニ被ル影響ハ計リ知ル能ハサルモノアリ

今茲ニハ陸上ノ交通ノ困難ナル狀態ヲ檢討スルニ道路又

先日來貴方申出ニ依レハ或ハ試掘作業ニ於ケル我方ノ勞働組織カ適當ナラストカ指摘セラレ或ハ我方ノ努力カ不足ナリトノ批判ヲ加ヘラルルコトニシテ從來我方カ現地ノ特殊事情ノ爲ニ如何ニ作業上苦難ト戰テ來タカ又試掘ヲ進メル技術上如何ナル經過ヲ探テ今日ニ至ツタカ等ニ就テ未タ認識カ足りナイ様ニ思ハルルニ付茲ニ遅延スルニ到ツタ幾多ノ理由ヲ述ヘ其ノ止ムヲ得サリシコトニ付諒解ヲ求メ我方要望ノ容認ヲ切望スル次第テアル

尙本年度以降ノ試掘計畫ハ別表ナルカ右ハ曩ニ今春本要望ヲ大田大使ヨリ貴政府ニ申入レタ時ニ作成シタモノナルコトヲ承知サレ度シ從テ面積狹小區域ノ作業計畫ハ明年以後ニ繰延フル必要アリ又三試掘地域ニ於ケル試掘區域設定ハ各一個所ノ豫定ナルカ是モ本年ノ調査ノ結果其ノ増加ヲ來スコトアルヘク此等ノ諸點モ御諒承願ヒタシ

#### 試掘作業遅延ノ理由

一 利契締結直後ハ將來ノ全般的試掘計畫ヲ樹立スル準備トシテ地質調査地形測量其ノ他試掘作業ニ必要ナル一般の調査ノ爲一九二八年迄之ニ充當セリ北樺太現地ノ如キ地理的條件ノ場所ニ於テハスル基礎的豫備の諸調査ハ事業

ハ軌道ノ開設ハ現地ノ氷土、砂質粘土等ノ關係或ハ密林ノ伐採ニ非常ナル困難ヲ伴ヒ何レノ試掘地ニ於テモ其ノ作業ニ二ヶ月乃至四ヶ月ヲ要シ而モ一旦出來上ルモ一度降雨ノ際トラクターノ運行ヲ見シカ至ル處破壊サレ其ノ後ノ交通困難トナリテ運搬能力ハ極度ニ低下スルニ至ル之ヲエハビ試掘地ノ例ニ徴スルニ同地第一區ヨリ第二區ニ至ル間及第一區第三區間ノトラクター道路ハ何レモ其ノ開設ハ一九三三年ノモノナルモ三四年及三五年兩夏ニ於テ常時百數十人勞働者ヲ使役シ土質ノ脆弱部分ニハ丸太敷ヲ爲ス等ノ方法ニヨリテ以テ大修繕ヲ施シタリ又ポロマイ及カタングリ試掘地ニ於ケル軌道ニツキ考察スルニ其ノ建設ニ當リテハ道路同様ノ困難ヲ嘗メ又毎年結氷期融雪期ニ於ケル地表ノ變化ノ爲軌道ノ彎曲ヲ生シ其ノ修理ニ月餘ノ日時ヲ要スル等何レモ運搬力ニ對シ多大ノ支障ヲ來スヲ常トス左レハ各試掘地ニ要スル運搬作業カ短クモ六ヶ月時ニハ一ヶ年以上ニモ亘ル實例ヲ見ルハ誠ニ實情止ムヲ得サルヘシ道路狀態運搬作業ノ困難ナル事情ハ鑛テ汽罐場發電所等ノ技術的建物ヲ始メ宿舍倉庫ノ建設ノ時期ニ影響ヲ及ホシ準備作業ノ遅延ヲ招來スル結

果トナルヘシ

#### 四、通信上ノ不便

通信網ノ不便ノ爲ニ事業進捗ニ及ホス影響多大ナルモノアリ今其ノ實例ヲ見ルニカタングリ、オハ間ノ無線連絡ハ普通一週間時ニ三週間ヲ要スルコトアリ次ニバターシ  
ンニ至リテハ其ノ通信系統カ一度カタングリニ於テ中繼セラルル關係上普通十日間遅延ノ場合ハ往々三十五日ヲ要スルコトアリ右ノ如キ通信ノ緩慢ハ廳テ事務上ノ連絡ヲ缺キ之カ爲ニ事業進捗ノ障害セラルルコト多ク殊ニオハ官憲ヨリ許可指令傳達遅ル、タメ例ヘバ發電所ノ運轉又ハ鐵工場ノ作業開始ノ遅レタル場合枚舉ニ遑アラス

#### 五、氣象の條件ニヨル障害

氣象的關係ニ依ル障害ハ一般的ニハ別表<sup>(見号ス)</sup>ノ如ク冬期ニ於ケル掘鑿率ノ低下ノ外給水ニ支障ヲ來タス事カ其ノ最モ大ナルモノナリ元來試掘井ノ選定ニ當リテハ給水場關係ニ最モ重點ヲ置キ其ノ位置ヲ選定スルモノナルモ給水源タル當該川流ハ其ノ年ノ降雪量及氣溫ノ關係ニヨリ結氷解氷ノ時期ニ影響ヲ受ケ水量ニ著シキ變化ヲ伴フノミナラス著シキハ冬期間試掘ヲ休止セシモノスラ有リテ給水

ニ苦キ經驗ヲ嘗メタル實例多タアリ

カタングリ一區一號井ノ如キハ冬期水流全ク凍結枯渴セルヲ以テ止ムナク給水暗渠一〇〇米開鑿貯水池二個所手掘井四個所ヲ開鑿シテ補足ニ供ヘ最後ニハタンク内ニ雪ヲ溶解シテ應急處置ヲ講シタルモ尙汽罐給水ニ不足ヲ生シ止ムナク兩冬期ニ亘リ二百十日間休坑ノ止ムナキニ至レルコトアリ如斯困難ナル狀態ハ其ノ程度ノ差コソアレ各試掘井ニ於テ同様ノ苦杯ヲ嘗メタリ

ボロマイ一區一號井ニ於テハ二百四十九日カタングリ三區一號井ニ於テハ百八十六日ノ休坑ノ止ムナキニ至レリ六、現地官憲ノ措置

各試掘地ニ駐在スル官憲ハ事大少<sup>示</sup>トナクオハ官憲ノ指令ヲ待ツテ行動スル現狀ニアリ右ハ試掘作業ノ進捗ニ多大ノ支障ヲ來シ從テ作業ノ遅延ヲ招致セリ今其ノ二、三ノ實例ヲ擧ケ實情推測ノ資料ニ供セハ

試掘地ニ於ケル既設及新設ノ鐵道ハ技術的ニ見テ完全ナル修理ヲ行ヒ又ハ完備セルニ拘ハラス之カ使用ニ就テハオハ駐在ノ技術監督官ノ正式ノ許可ナキ限り使用禁止ストテ單ニ勞働者ノ生活ニ關係アル宿舍用材、食料及日用

品ノミノ運搬ヲ認メ技術的材料ノ運搬ヲ禁止(然ルニ此ノ間トレスト側ノ技術的材料ノ運搬ニ時間外ニ同軌道ヲ使用ス)スル等ノ取扱アリテ作業進行ヲ阻碍スルコト尠カラス又手續上ノ問題トシテ遅延ヲ來セル實例トシテハ一九三二年カタングリ第一區二號井準備作業着手ノ爲坑井附近ノ伐開ノ許可申請セル處當方數度ノ督促ニ拘ハラス許可溢滞ノ爲ニヶ月以上モ作業ノ遅延ヲ來セリ  
カタングリ三區二號井及同五區一號井カ準備作業完了シ電報ヲ以テオハ勞監署ニ検査ヲ願ヒ出タルモノヶ月後ニ於テ始メテ検査ヲ受クルコトヲ得タリ尙技術的設備ハ凡テオハ勞監技監ノ出張實地検査ニヨリ許可セラルル現狀ナルヲ以テ之カ爲ニ直接、間接作業ノ進行ノ障害セラルルコト甚タ大ナリ

以上述ヘルカ如キ事態ノ變化又ハ現地ノ實情ニヨル影響ヲ

受ケ我方ノ試掘作業ニ對スル努力苦心ハ常ニ阻止又ハ效果ヲ減少セラレ從テ試掘準備作業ハ豫期ノ進展ヲ見ル能ハス其ノ準備作業ニ於テ一ケ年乃至一ケ年半掘鑿作業ニ又一ケ年乃至一ケ年半ヲ要スルノ實狀ヲ呈スルニ至レルハ蓋シ當然ノコトト謂ハサルヘカラス(尙參考ノ爲右準備期間ノ内譯ヲ示セハ道路開設二ヶ月乃至四ヶ月諸建物ノ基礎作業三ヶ月、五ヶ月諸建物材料運搬六ヶ月乃至一ケ年臨時宿舍建設三ヶ月燃料伐採三ヶ月電話線架設三ヶ月汽罐場發電所鐵工場建設何レモ三ヶ月乃至七ヶ月) 以上

編注 以下の二文書は、「利權契約追加協定書」の「附屬文書」

ではないが、参考として原文綴りのとおり採録した。